



前

佛國刑法講議

自第壹  
至第十六



719  
6551  
1

第一号

佛國刑法會議

八年九月二十五日

鶴田

昭和九年五月十四日  
鶴田乙丑氏贈

佛國刑法會議

八年九月二十五日

此會議ヲ起ス所以ノ主意ハ如何

一定ノ目的アラハ其目的ニ就テ之ヲ説クハ

シ

其目的ハ我國從前ノ刑律ト歐羅巴各國ノ刑  
律トヲ折衷シ其基礎ト體裁トヲ改訂セント  
スル目的ナリ故ニ之ヲ組立ツヘキ骨組ニ就  
テ高議セント欲スル也

罪ノ輕重ハ暫ク論セス自今何々ノ刑名ヲ立  
テントノ事ヲ定ムヘキナリ

何トナレハ其刑名ヲ立テ其種類ヲ分チ然ル  
後其犯罪ヲ之レニ引當テ處断スヘキナリ故  
ニ其刑名ヲ立ツルヲ以テ第一ノ先務ト為ス

ナリ

昨日モ討論シタル如ク三刑ノ區別ヲ立ル云々

死刑ハ不須言先ツ重罪ヨリ罰金迄ノ内ノ刑名中ニ有期無期ノ區別ヲ置クヘキ積リナルヤ

死刑。流刑。徒刑ノ區別ヲ立テ其内流刑ト徒刑トニ有期無期ヲ定ムヘキ積リ

且禁獄ニモ有期無期ヲ定ムヘキ積リ  
國事犯ト通常ノ犯罪トヲ區別スヘキ積ナルヤ

佛國ニテハ通常ノ犯罪ニ比スレハ國事犯ノ者ニ於テ其取扱ヒヲ寛宥ニスルコトアリ

國事犯ハ通常ノ犯罪ヨリ公益ヲ害スルコト大ナリ然レトモ道德ヲ損スルコト少シ何トナレハ國ノ為メヲ謀ル等其心実上ヨリ之ヲ論スレハ諒スヘキコト有レハナリ  
故ニ三十年以来國事犯ハ其取扱ヲ寛宥ニスルコトナレリ

國事犯ハ竊盜ノ如キ通常ノ犯罪ト同日ニ論スヘキ者ニアラス  
竊盜ハ一己ノ私欲ヲ恣マニスル者ニテ其道德ヲ損スル大ナリ之レ其國事犯ト同日ニ論ス可カラサル所以ナリ  
日本ニテハ重罪輕罪違註罪ト三種ノ區別ヲ以テ定ム可キ積ナルヤ

然リ其言ノ如クセント欲ス

三種ノ犯罪ハ各其區別ヲ立テサル可カラス  
何トナレハ刑律ハ其一罪毎ノ區別ニ仍テ處  
セサル可カラス故ニ此區別ヲ立ルヲ以テ緊  
要ノコト、為スヘシ

殊ニ裁判所ノ権限ニ仍リ其處刑ノ區別アル  
ヘシ例ヘハ重罪ハ之レヲ處刑スヘキ裁判所  
ニテ執行シ輕罪ハ之レヲ處刑スヘキ裁判所  
ニテ執行スル等ナリ

犯カサントセシ所業ト虽モ重罪輕罪違註罪  
ノ區別ハ其景況ニ就テ之レヲ判別セサル可  
カラス

佛國ニテハ各其區別アリ日本ニテモ之レヲ

定ムヘシ

然レトモ如此者ハ重罪ノ部分ト為シ如此者  
ハ輕罪ノ部分ト為ス等其景況ノ徵効ヲ以其  
輕重罪ノ區別ヲ認メルハ最モ難シ

又一罪ノ罪アル者ト虽モ之レヲ判別シテ其  
輕重罪ヲ區別シ其刑名ヲ定ムルハ最モ難  
シ

最モ難カルヘシ一旦定メタル上ハ其刑律ヲ  
以永世處斷スヘケレハナリ

重輕罪ノ區別ヲ立ツルハ甚難シ然レトモ之  
レヲ定ムルニハ強テ道理論而已ニ拘泥ス可  
カラス故ニ其定ムル目的ニ於テハ已ニ立テ  
ラレタルヤ

己ニ其目的ハ立チタリ故ニ今日迄實際執行ノ刑律ヲ以歐羅巴ノ刑律ノ骨組ニ引當テ夫々改正スヘキ積ナリ

重軽罪ノ目的ヲ立テ、之レヲ定ムルニ三ツノ方法アリ凡ソ物ニ種類アリ之レハ必ス其區別ヲ立ツヘキナリ

犯罪ニモ種類アリ則重罪軽罪違註罪等之レナリ其犯罪ノ種類ニ仍リテハ三種又ハ四種ノ區別ヲ立ルトモ可ナリ然レトモ區別ノ多キニ過クルハ不可ナリ

先ツ犯罪ノ種類ヲ分チ然ル後刑律ノ區別ヲ分ツヘシト思惟セリ

種類ヲ以テ區別ヲ分ツハ難事ニアラス然レ

トモ其之レヲ分ツ所以ノ徴効ヲ以重罪軽罪違註罪ノ區別ニ適ヘリト認ムルハ各國ノ立法官立法家ニ於テモ甚々難事ト為ス所ナリ

先ツ第一重軽罪、裁判所ノ権限ニ仍リ各差違アリ故ニ其重軽罪ニ仍リ何レノ裁判所ニテ處断シテ可ナルヤト云コトヲ考究スヘシ犯サントセシ所業ノ者モ其如キ徴効ヲ以テ重罪ト為シ如キ徴効ヲ以テ軽罪ト為シ且其重軽罪ヲ以テ裁判スル所以ノ徴効ヲ察認スルハ亦甚々難シ

先ツ第一ニ公益ニ害アルノ大小ト道德ヲ損スルノ多少トニ於テ其如何ニヲ考究スヘ

其害ノ大小ト道德ヲ損スルノ多少トノ分界  
ハ立テ難シ何トナレハ罪ハ無形ナリ而シテ  
其質ノ如何ニテ勘別スル故ナレハナリ故ニ  
之レヲ定ムルハ甚タ難シト為ス所ナリ  
凡物ヲ量ルニハ尺度アリ然レトモ想像物ハ  
其尺度ヲ以之レヲ量ル能ハス  
一ノ重罪ト一ノ軽罪トヲ比較シテ之レヲ区  
別スルハ容易ナリ  
例ヘハ人ヲ殺ト物ヲ竊盜スルトノ軽重ヲ分  
ツカ如キ之レナリ  
然レトモ又別ニ難シト為ス事アリ  
人ノ身體ニ對シテ害アルト財産ニ對シテ害

アルトノ軽重ニ於テハ時ニ仍リ或ハ財産ニ對シテ害アル  
ヲ以テ身體ニ對シテ害アルヨリ重シト為スコトアリ  
例ヘハ人ヲ衝キ倒スカ如キ暴行ヲ為ストモ幸  
ヒ其人ニ傷ツケサル者アリ又門牆ヲ破リ家  
屋ヘ火ヲ付ケ財産ヲ竊盜スル者アリ但シ其  
家屋ハ焼失セサルトモ  
此二者ノ内ニ於テ第一ノ者ハ人ノ身體ニ對  
スル害トモ亦少ナシ第二ノ者ハ財産ニ對スル  
損スルモ亦少ナシ  
害トモ公益ニ於テ大ニ害アリ又道德ヲ損  
スルコトモ大ナリ  
二箇ノ犯罪ヲ以其輕重ヲ分ツハ易シ一箇ノ  
犯罪ニ就テ重罪ト為スヘキカ輕罪ト為スヘ

キカ又公益ニ害アル大小ト道德ヲ損スル多  
少トヲ區別スルハ他ニ比較シテ其權衡ヲ持  
ヘキモノナシ故ニ其區別以テ甚々難シト為  
ス  
佛語ニテ人ヲ殺スコトヲヲミシドト云フ  
何レノ國ニテモ人ヲ死ニ致スコトハ至重ノ  
事ト為ス全ク人ヲ保護スル主意ナレハ十  
第一 人ヲ殺スニ豫謀ヲ以スル者アリ例ハ  
ハ人ノ出テントスルヲ窺ヒ之ヲ門前ニ襲撃ス  
ル等ナリ  
第二 人ヲ殺スニ豫謀ヲ以テセス爭論等ヨ  
リ不図殺意ヲ生シ之レヲ殺ス者アリ

是レハ謀殺ニ比スレハ輕シト為ス  
佛語ニテヲミシドウロシテール又ハ「モル  
トル」ト云フ即チ故殺ナリ  
謀殺ト故殺ト其人ヲ死ニ致スハ一ナリ故ニ  
其公益ニ害アルモ亦同シ  
例ハハ名村ヲ殺シ其家族ノ困惑スルハ謀殺  
故殺ノ別ナキカ如シ  
然レトモ道德上ヨリ之レヲ見レハ同一ナル  
カ抑同一ナラサルカ曰ク同一ナラス故ニ第  
二ノ者即チ故殺ハ道德ヲ損スル少シト為シ  
第一ノ者即チ謀殺ハ道德ヲ損スル大ナリト  
為ス  
故ニ故殺ハ其罪ヲ輕キニ論シテ無期ノ後罪



ト為スナリ

第三 人ヲ殺スノ意ナリ争論等ヨリ鬪政シ  
遂ニ之レヲ殺ス者アリ

第一第二第三ノ者ハ共ニ其公益ニ害アルハ  
固ヨリ同一ナリ然レトモ第三ノ者ハ道德ヲ  
損スルコト最少シト為ス

第四 殺意ニアラスト 虫モ故意ヲ以テ鬪政  
シ其人ニ傷ツケ遂ニ廢篤疾ト為ス者アリ之  
レハ其人ノ生命ヲ害セサル故ニ公益ノ害少  
ナク道德ヲ損スルコトモ亦少シ

第三追ノ者ハ公益ニ害アルコト固ヨリ同一  
ナリ故ニ重罪ト為スハ言ヲ須タサルナ  
リ

第四ノ者ハ故意ヲ以テ人ニ傷ケタル者故矢  
張重罪ヲ以テ論スヘシト 虫モ其故意ヲ以テ  
為タルコト、スル所以ヲ監定スルハ甚タ難  
事ナリ

第五 争論等ヨリ不図鬪政シ遂ニ其人ニ傷  
ルト 虫モ多少ノ時日ヲ経テ全癒シ廢篤疾ト為サ  
シメサル者アリ之レハ重輕罪何レノ内へ組  
入ヘキヤ

千八百六十三年ニ仏國立法家ノ論ニ於テ此  
第五ノ者ハ少コシク寛典ヲ加ヘル事ト為セ  
リ

同年以前ノ法律ニテハ其傷痕ヲ疾ム日數ニ  
仍テ差別アリ即チ其二十日以上ハ重罪ト為

ス等此二十日ノ前後ニ仍テ軽重罪ヲ分チタ  
リ  
同年以後ハ此日数ノ多少ニ拘ワラス軽罪ト  
為セリ尤モ其輕罪中ニ於テ日数ニ忘レシ差別  
スルコトアリ  
右五例ノ内第一ヨリ第四迄ヲ重罪ト為シ第  
五ヲ輕罪ト為セリ

第一 謀殺

第二 故殺

第三 鬪毆殺

第四 鬪毆傷廢篤疾ニ至ル

第五 鬪毆死ニ至ラス又夕廢篤疾ニ至ラ  
ス

此五者ノ外人ヲ死ニ致スコトアリ例ハ車  
ニテ挽倒シ人ヲ殺ス等ハ其重輕罪ハ如  
何

此者ト虫モ公益ヲ害スルニ於テハ第一ヨリ  
第三迄ノ者ト少コシモ差別ナシ然レトモ道  
徳上ニ於テハ全ク之レヲ損スルコトナシ何  
トナレハ固ヨリ殺意ナキ故ナレハナリ  
然レトモ人間彼此ノ交際ハ互ニ注意スヘキ  
モノナリ仮令彼レニ於テ注意セサルトモモ  
レニ於テ注意スル時ハ如此過失ハ生セサル  
モノナリ故ニ之レハ其注意セサル過失ヲ以  
實際上其義務ヲ欠キタル者ナリ  
夜中車ヲ挽クニ規則ノ如ク點燈セサルトモ

高声ニテ路人ヲ警メ行クニ或ヒハ泥酔等ニ  
テ其車ヲ避ケサルヨリ遂ニ其路人ヲ挽倒シ  
タル者ハ之レヲ罰スヘキ罪アリト為スカ  
之レハ其場合ニ於テ十分其注意ヲ尽シタル  
者ナリ故ニ道德ヲ損セス隨テ其罪ナシト為  
ス  
前説ノ者ハ人ヲ殺シタル不注意ノ罪アリ故  
ニ之レニ比スレハ後説ノ者ヲ輕シト為ス  
己ニ七例ヲ挙ケテ説キタリ即チ初四例ハ重  
罪次二例ハ輕罪末一例ハ無罪ナリ  
故ニ公益ニ害アルノ大ト道德ヲ損スルノ多  
キ者ハ重罪ト為ス之レニ反シテ其小且少ナ  
キ者ハ輕罪ト為スヘシ

害ノ大小ト道德ヲ損スル多少トノ度ヲ量リ  
之レヲ以テ其重輕罪ヲ極ムルハ各國ニ於テ  
モ難事ト為ス而已ナラス倒底極ムルコト能  
ワサルナリ  
譬ヘハ竊盜トモ公益ニ害アルト道德ヲ損  
スルトニ仍テ重罪ト為スコトアリ故ニ其道  
徳ヲ損スルノ度ヲ量ルハ甚タ難事ナリ其之  
レヲ量リ能ワサル而已ナラス又之レヲ言盡  
スコト能ワサルナリ  
風俗ニ関スルコト即チ男女ノ間ノ關係ニ於  
テモ同シク道德ヲ損スルノ度ヲ量リ其重輕  
罪ヲ分ツハ難事ト為ス  
故ニ此事ハ「ロソヒ」ノ人トモ甚タ難事

ト為ス所ナリ

故ニ此道徳上ノ論ハ法律上ニ於テ強テ拘泥  
ス可カラサルナリ

然レシ全クヒロソヒ一ニ據ラサレハ立法家ト  
虽モ其目的ノ立テ難キコトアリ

例ヘハ第一ノ重罪ハ其實犯如決ニシテ其道  
徳ヲ損スル如此シト彼此ヲ照合セ審判スル  
等ノ事ナリ

一惡事毎ニ就テハ其重輕罪ヲ定ムルコト能  
ク何トナレハ其犯罪ノ數幾許アルト云フ  
コトハ豫メ知ル能クサル故ナリ

故ニ立法官ニ於テハ其豫メ知ル能クサル所  
以ノ目的ヲ以テ之レヲ定メサル可カラス

然レトモ實事ニ際スル時ハ必ス其刑法ニ吻  
合スルモノアラズ其罪ヲ斷スル如何ニト尚  
其疑ヒヲ起スコトアルナリ

第三ノ例ハ多ク取扱ヒ易キ事ナリ則仏國ノ  
法ナリ

佛國ノ刑法ハ各犯罪ノ刑名ヲ類挙セリ

例ヘハ犯罪ノ内無期ノ徒刑ニ處セサル可カラ  
サル重罪ハ即チ無期ノ徒刑ト為ス等一々其  
實犯ノ事迹ヲ以テ其刑名ニ引当テ之レヲ處ス  
ルナリ

又死刑ニ處セサル可カラサル者ハ則チ重罪  
ト為シ若役徒刑ニ處セサル可カラサル者ハ  
亦タ必ス重罪ト為ス等ノ如シ

第五例ノ犯罪ハ只何日間ノ不能力ヲ起サシ  
メタル而已ノコトナリ故ニ輕罪ト為スナ  
リ  
千八百六十三年以前ハ此第五例ノ者ト雖モ  
重罪ト為セリ然レトモ其後刑法ノ改正ニ仍  
リ輕罪ト為シタルナリ

第三例ハ之レヲ以テ其刑法ヲ定ムルコト甚  
タ難シ何トナレハヒロソヒー。トメタヒチツ  
ク。トニ仍テ之レヲ論スルトモ自ラ其主意ニ  
適スヘキコトヲ要スレハナリ  
故ニ刑法ヲ定ムルニハ議院又ハ其他之レヲ  
議スヘキ所ニテ道德ヲ損スルノ多少ト公益  
ヲ害スルノ大小トヲ詳密ニ商議スヘシ然レ

トモ其商議シタル論議ヲ以テ一々法律書中  
ニ記載スル能ワサルナリ  
故ニ日本ニテモ従前ノ刑律ニ基キ之レヲ商  
議シテ制定スヘシト雖モ其論議ハ一々刑律  
書ニ記載スルニ及ハサルコトナリ

第二號

佛國刑法會議筆記

八年九月廿七日

九月二十七日

過日、重軽罪ノ區別ハ的實ニ定ム可ク尤モ其  
 種類ハ三種又ハ四種ニ分ツトモ不可ナルコ  
 ト無キコトヲ説キタリ  
 此區別ヲ定メタル上ハ刑法各中総規則ノ部  
 一掲載ス可シ  
 此総規則ハ改定ノ刑法ハ其決定以前ノ已  
 往ノ犯罪ハ及ホサルト云フコトヲ明ラカ  
 ニ掲載ス可シ  
 尤モ此件ヲ以建國法中ニ掲載スレハ夫レニ  
 テ然ル可シ  
 然カシ其建國法ニ掲載ナキ明ハ必ラス此総

規則中へ掲載スヘシ

仏國ニテハ刑法ノ各中ニ掲載セリ

故ニ此原則ハ必ラス之ヲ記載ス可シ然カ

シ之ヲ実地ニ活用スルハ全ク裁判所ニ委

任セルコトナレ氏法律ノ條中ニモ掲載ス

ヘキナリ

且法律ハ已往ノ犯罪ニ及ホサ、ルト虽モ

旧律ト新律トノ内其新律ノ方輕キニ屬ス

ルモノハ之ヲ用ユヘキコトヲモ記載スヘ

シ

裁判所ノ方法ノ變革アルト又ハ訴訟法治

罪法ノ手續トニ改正アル時ハ夕トヒ改正

以前ノコトニ於テト虽モ直ニ其變革ト改

正トニ就テ處分ス可シ

新置ノ裁判所ノ処断ト旧置ノ裁判所ノ処

断ト異ナルアルハ不都合ナリ

佛國ニテハ此變革ト改定トノ時ノ議論ニ

付テハ長ク時日ヲ費シタリ故ニ日本ニテ

ハ裁判所ノ變革ト訴訟法治罪法ノ改正ト

ニ於テハ已往ノ罪犯ニ及スヲ治罪法訴訟

訟法各中ニモ掲載ス可シ

日本ノ刑法ト雖モ新舊改定ノ際ニ於テハ

其際ノ犯罪ハ多ク其輕キニ隨ヒテ処断ス

ルコトナリ

裁判所ノ變革ノコトハ掲載スヘキナリ

此等ノ事ハ已往ニ及ホス可キコトヲ治罪



法中ニ掲載スヘキコト、思考セリ

然ラハ夫レニテモ可ナリ

日本ニテハ名例ト称シ其刑名ノ大眼目ヲ

掲ケ之ヲ総規則ニ立ツルコト、為セリ然

ルヲ仏國ニテハ前加ノ五ヶ条ヲ以総規則

ト為シタリ

之ハ別ニ立ツルニ及ハス此五ヶ条ノ主意

ヲ一般ノ条規中ニ組込ムヲ然ル可シト考

ヘリ之ハ如何

一般ノ條規中へ組込入レルト虽モ害ナカ

ル可シ然モ余理ニ於テ相當セサルナリ何

トナレハ此前加中ノ件々ハ一般ノ法律中

ニ關係セル事ナレハナリ

佛國ニテハ重輕罪違警罪ノ此三刑ノ區別

ハ各其大主意ヲ掲ケ一般ノ条規ト更ニ別

ヲ立ツルナリ

此制定ノ体裁ハ佛國而已ナラス各國トモ

同様ナリ然シ埃及ハ之ニ異ナリ

第一條ヨリ第三條迄ハ必ラス一般ノ条規

中へ組込ム可カラス然シ第四條ハ之ニ組

込トモ不可ナルコトナシ

日本ノ刑法各ノ体裁ハ知ラサレトモ此総

規則ハ第一ノ初頭ニ置クカ又ハ最終ノ末

尾ニ置ク可シ必ラス一般ノ条規ト差別ヲ

立ツヘキナリ

例ハ人家屋中門ヨリ堂ニ昇ルノ順序ア

ルカ如シ

先ツ此体裁ノ論ハ暫ク置キ

法律ハ已往ノ犯罪ニ及ホサ、ルトノ内ニ  
於テ其新法ノ輕キ者ハ已往ニ及ホシテ更  
ラニ其原則ニ觸レルヲナシ然レ氏茲ニ一  
難事アリ新法旧法トヲ比較スルニ各重キ  
所アリ又各輕キ所アリタトハハ夜間盜罪  
ヲ犯シタル罪者アリ之ヲ新法ニヨリ処断  
セントスルニ一年ヨリ短カラス四年ヨリ  
長カラス禁獄トス又旧法ニヨレハ六月ヨ  
リ短カラス五年ヨリ長カラス禁獄トス又  
新法ニ三<sup>年</sup>ヨリ短カラス禁獄及<sup>キ</sup>罰金三  
百圓トアリ旧法ニヨレハ四年ヨリ短カラス

サル禁獄及罰金二百圓トアルカ如シ  
如斯區別アルニヨリ新旧法ノ何レニヨリ  
テ処断セサルヲ得サル乎ヲ考究スルヲ必  
要トス

一此時卿公出席ニ付教師ヨリ曰ク

卿様御出席無之前已ニ改定ノ法律ハ已往  
ノ犯罪ニ及ホサ、ル事ヲ説ナリ然カシ其  
法律ト雖氏輕重ノ分界ヲ以已往ニ及ホス  
トアリ

此分界ヲ立ツルハ諸碩学士等ニ於テ議論  
アル所ニテ未タ確定セサルヲナリ  
故ニ日本ノ法律ニハ此分界區別ハ篤ト論  
定スヘキヲ、考ヘリ

是ホノ件ハ実ニ緊要ノ事ト考ヘリ

日本ノ法律改定ニ付テハ追々商議ス可ト  
併シ先ツ罰金等ハ其新舊輕重ノ際ニ於テ  
之ヲ區別スル積ナルヤ

此件ハ又追々ニ説論ス可シ  
已ニ説ク所ノ徒刑等ノ期限モ亦論定スヘ  
キナリ

此期限ハ篤ト熟考アルヘシ自分モ熟考シ  
タルコトニアレハ尚ホ種々論説スヘシ  
實ニ此件ノ如キハ已ニ苦心スル所ナリ何

トナレハ旧法ト新法ト改正更換ノ際ニ於テ  
必ラス許多ノ煩擾ヲ生スヘキコト、推考  
ムレハナリ

詳考アル可シ自分モ此議論ヲ生セシ以來殆  
ト二十ヶ年モ苦心スル所ナリ故ニ篤ト熟考  
ノ上商議アル可シ

前加規則第二條ニ犯サントセシ所業ノコト  
アリ之ハ大切ノ事ナリ  
之ハ総規則ノ内ニ組入レ可キヤ如何

大切ノ事ハ不須言然シ之レハ本犯ノ原則ヲ  
立テ之ニ順スヘキコトナル故ニ矢張一般ノ  
條規中へ組入レ然ルヘキコト、考ヘリ

大切ナル事故ニ曾テ司法省学校ニテ講叙ヲ  
為ス時刑法中ノ第最後ニ至リ殊更ニ差別ヲ  
立テ、講議シタルナリ

日本ノ刑法中ニモ此條ニ似寄リタル事アル

ヤ  
固ヨリ有之俟シ此所ハ相違セリ此時名村君  
語アリ談此所ニ於テハ少コシク議論ヲ抱ケリ  
俟シ教師ノ定見ヲモ一應承認シ置キ度キナ

此第二條ノ件ハ罪ヲ遂クル前一步ヲ進メサ  
ル時ノ事ナリ故ニ此件ヨリ尚一層重キ件ア  
リ然シ之ヲ此條ニ載セザルハ全ク遺漏セモ  
ナリ則チ法律ノ欠典ナリ  
日本ニテハ通常ノ刑法ト海陸軍ニ関シタル  
刑法ト同様ナルヤ  
**海陸軍ノ刑法ハ白ラ差別アリ**  
此件ハ第五條ニ掲載アリ

此件モ総規則中ニ組入レサル時ハ其犯罪者  
アル毎ニ一々指示スヘキコトニテ多少ノ面  
倒ヲ醸スヘキナリ  
是レヨリ刑名コトニ就テ説ク可シ  
日本ニテハ仏國ノ刑法ニ比シ何様ノ刑名ヲ  
置クヘキヤ又タ因縁ノ刑ヨレノ刑ヲモ置ク  
ヘキ積リナルヤ  
**死刑ハ流刑徒刑ト定メ流刑ト徒刑トニハ有**  
**期無期ヲ定メ夫レヨリデタレシヨレニ代ヘ**  
**用ユヘキ刑名ヲ設クヘキ積リナリ**  
佛國ノ刑ヲタレシヨレハ政事ノ罪ヲ罰スル刑  
ナリ  
日本ニテモ政事ノ罪ヲ罰スル刑ヲ設タル積

リナルヤ

有期ノ流刑ヲテタレシヨシニ代ヘ用ユ可シ

流刑ニ有期無期ヲ分チ其内ノ一ヲ以テ更ラ

ニテタレシヨシニ代ヘ用フ可シト考ヘリ

夫レハ禁獄ノ刑ヲ其終ニ据置其内政事ニ就

テノ罪ノ禁獄ト云コトヲ別ニ定ム可シ然シ

テタレシヨシニハ流刑ヲ用フル方然ル可モ

流刑ハ政事ノ罪ニアラサレハ用ユ可カラサ

ルヤ

仏國ニテハ無期ノ徒刑ハ通常ノ罪ニテ流刑

ハ政事ノ罪ニ用ユルコト、成リ居レリ

流刑ニ二様アリ臺場ニ圍テ置クト又ハ只遠

島ヘ放スルアリ

徒刑ニ有期無期ヲ置ク時ハ禁獄ノ刑ハ除ヒ

テ可ナリ

仮令禁獄ノ刑ト雖モ一室ヘ閉居ノ終置ヘキ

ニアラス時トシテハ空氣ヲ吹噓スル為メ他

ヘ出サ、ル可カラサルコトアリ

日本ニテ流刑ヲ送ルニハ先ツ琉球ヘ送ルヘ

シ然シ琉球ヘ近シ故ニ佛國領ノウエルカル

トニシ杯ヲ得ル可シ

佛國ニテ旧ノ流刑ト云フコトアリ此流刑ハ

矢張徒刑ノ如ク駆役ナサシムル訣ケナルヤ

旧來マルキース地ニ送リタシ氏現今ハカイ

エント云フ島ヘ送レリ

其カイエシヘ送ルハ流刑ニアラサル徒刑ノ

者モ送ルヘキカ

徒刑ハ元トワロビフレスト。ロセフヲルト  
等ノ三港ヘ送り此三ヶ所ニテ国用ニ駆役セ  
リ然シ近キ所ニテ屢逃亡スルコトナリ故ニ  
近來之ヲ廢シ徒刑ト虽モ流刑同様又エルカ  
ルドニトヘ送レリ尤流刑人トハ區別シ置ケ  
リ是亦時ニ仍リ逃亡スルコトアリ  
又エルカルドニノ地ヲ佛國ヘ相談シ日本  
ノ流刑ヲ送ルヘシ琉球ノ地ニテハ内地ニ近  
接マリ

此又エルカルドニハ新阿蘭陀ノ最寄ナリ  
囚獄ノ刑ヲ改メテニツノ刑ニ分チ之ヲ一ツ  
ハ有期ノ徒刑ト為シ一ツハ禁獄ト為ス可也

禁獄ハ重罪ニアラヌ重罪ハ有期無期ノ徒刑  
以上ナリ

日本ノ徒刑場ニ於テ駆役スルノハ如何  
之ハ徒刑ノ内ヲ區別シ佛國ノ如ク改正シ各  
其駆役ニ従事セシメ之ヲ一ツノ刑ト為スヘ  
シト思ヘリ

夫レニテ然ル可シ然シ徒刑ノ年限ハ成丈ケ  
減シ五年内ト為ス可シ

徒刑中ニテ區別シ各其所作ヲ定メ之ヲ一  
種ノ刑ト改ムヘシト考ヘシ

別ニ不都合ノ事ハ無シト考ヘリ  
佛國ニテ許多刑名ニ區別アル所以ハ再犯加  
等ノ為メニ設ケアルナリ

テタレシヨレニ処セラレタル者再犯シタル時  
 ハ有期徒刑ニ処スルナリ  
 人ヲ傷シ癡篤疾ニ至ラシムルハ駆彼徒刑殺  
 意ナク人ヲ殺スハ有期ノ徒刑故殺ハ無期ノ  
 徒刑謀殺ハ死刑ト定メアリ又之ニ就テ夫々  
 軽重スル所ノ差違アリ  
 日本ニテ之ヲ定ムル時ハ徒刑ヲ改メテ流刑  
 ト為スヘシ然カシ其年限ニハ區別ヲ立テサ  
 ル可カラス  
 然ラザレハ其之ニ輕重スル際ニ當テ面倒ナ  
 ルノ生ス可シ  
 例ハハ駆彼ノ刑ナシトスル時ハ有期ノ徒刑  
 中ニテ只短期ト長期トヲ以テ區別スル而已ニ

ニテ僅ニ十ヶ年ト二十年トノ輕重アルカ如  
 シ然カラサレハ徒刑ノ一法中ト虽モ裁判官  
 ノ所見ニ仍ラ人ヲ傷スルト人ヲ傷シ癡篤疾  
 ニ至ラシムルト人ヲ殺ト相混シラ同様ニ知  
 断スルコトアルニ至ル可シ  
 故ニ例ヘハ人ヲ傷シ癡篤疾ニ至ルシムル者  
 ハ有期ノ徒刑ト為ス可シ  
 此徒刑ハ先ツ五年ヨリ十年ニ至ルト為スヘ  
 シ其期限ニ長短ノ區別アルハ其景況ニ仍リ  
 一様ナラサルコトアル故ナリ  
 且或ハ之ヲ三年ヨリ八年ト為モ可ナリ  
 然ル時ハ人ヲ傷シ癡篤疾ニ至ラシムル者ヲ  
 三年ヨリ八年ニ至ルノ内ヲ以テ断シ又殺意

ナク人ヲ殺シタル者ハ八年ヨリ十五年ノ徒  
刑ト為スカ先ツ仮リニハ八年ヨリ十五年ノ  
定メト為シ  
此二者ノ犯罪人ヲ同ニ裁判所ニテ処断スル  
時ハ  
第一ノ者ハ三年ヨリ八年ニ至ル駆役ノ刑ト  
為シ之ヲ八年ノ駆役ノ刑ニ処断ス  
第二ノ者ハ八年ヨリ十五年ニ至ル徒刑ト為  
シ之ヲ八年ノ徒刑ニ処断ス  
此第一ノ者ハ長期ヲ以論シ第二ノ者ハ短期  
ヲ以論シ遂ニ同期ノ刑ニ陥ルナリ故ニ仏國  
ニテハ第一ノ者ハ徒刑ニ処セス駆役ノ刑ト  
為シ第二者ハ徒刑ト為スナリ

右様異名同刑ナラサル様區別ヲ立ツルハ緊  
要ノ要ナリ併シ其年限ノ同様ニ陥ルヘキハ  
尚其他ノコトニモアルヘキコト、考ヘリ  
八年ノ徒刑ト駆役トヲ以論シ例ハハ駆役ハ  
十年徒刑ハ八年ト為ス時ハ駆役ニ比シ徒刑  
ヲ以輕シト為スヘキナリ  
仏國ノ定メ方ハ甚ク宜シカラス何トナレハ  
十年ノ駆役ニ処セラル、ヨリ八年ノ徒刑ニ  
処セラル、ヲ以犯罪人ハ好ムヘキナレハナ  
リ  
故ニ此期限ヲ定ムルハ篤ト高議ノ上改正  
アリ度コトナリ  
只今并駁ア申シコトハ尚追々説ク所ニテ自



ラ消スヘシ  
 且例ハハ人ヲ傷シ瘡為疾ニ至ラシムル者ハ  
 ニケ年ヨリ五ケ年ニ至ルト為シ殺意ナク人  
 ヲ殺シタル者ハ六ケ年ヨリ何ケ年トカ定ム  
 ヘシ然ラハ重複ノ弊ナシ  
 故ニ甲乙ニ刑新曰ノ間ニ於テハ其期限ニ一  
 ケ年ノ隔テヲ立ツルコト、為セリ  
 現今佛國ニテハ殺意ナク人ヲ殺シタル者ハ  
 五年、徒刑ト為シ人ヲ傷シ瘡為疾ニ至ラシ  
 ムル者ハ十年ノ駆役ト為スアリ實ニ笑止ノ  
 至リナリ  
 日本ノ刑法ハ一ツノ刑名ヲ以テ定ムヘキ積  
 ナレハ其徒刑ノ場所ヲ變ヘルヘシ

例ハハ五年迄ノ徒刑ハ東京ニ置キ其以上ハ  
 蝦夷ニ送り各其土地ノ公用ニ使役スヘシ  
 魯西亜ニテ或ル刑ニ処スル者ヲ「シマリヤ」ヘ  
 送ルコトアリ同地ハ寒地ニテ氣候宜シカラ  
 ス誰モ好マサル土地故ニ夫レヘ送り使役ス  
 ルコトアリ  
 佛國ニテハ現行ハ八年以下ノ徒刑ハ「アルセ  
 ニ」ヘ送り八年以上ノ徒刑ハ「ヌエルカルニ」  
 ヘ送りリ八年以下ノ者ハ其期限ヲ過キタル  
 時ハ帰仏スルトヲ得ルト虽モ八年以上ノ者  
 ハ其土地ニテ解放シ而メ帰仏ヲ許サス  
 以時刑法書ヲ持示シテ曰ク  
 以次ノ追放ノ規則ハ如何日本ニテモ設ケラ

ルヘキ積リナルヤ

此刑ハ日本ニテ行ヒ難ク一併自國ノ罪人ヲ  
他國へ追放スルハ良法トモ言ヒ難キニ似タ  
リ如何

此追放ノ件ハ緊要ノ良法ト思ヘリ何トナレ  
ハ政事ノ罪ハ畢竟其國ノ政事上ニ害アル而  
已ニシテ他ノ國ニ於テハ更ニ其害トナル  
ナシ然シ通常ノ竊盜等ノ犯罪人ヲ他國へ追  
放スル時ハ其他國ヲ害スルコトアルヘキニ  
仍リ決シテ他國へ追放ス可カラサルナリ  
○民權剝奪ノ刑ハ如何ト思惟セラルヤ此刑ハ  
身体ノ害ト財産ノ自由ヲ妨ケサレ其面目  
榮譽ニ関スヘキコトヲ以テ人ヲ懲戒スヘキ

ニ付最モ良法ノ刑ト考ヘリ

民權剝奪ノ刑ハ此内ヨリ幾部分カ後挙用  
スヘキト考ヘリ

此民權剝奪ノ刑ハ此刑法中ニ説明シ有之ニ  
付焉ト熟視アルヘシ

仏國ニテハ裁判官ニテ立法ノ權ヲ犯ス時ハ  
民權剝奪ノ刑ニ処ス固ヨリ裁判官ハ立法ノ  
權ヲ犯ス可カラサルコトハ已ニ民法五條ニ  
モ掲載アル通りナリ故ニ民權剝奪ノ刑ニ処  
スヘキコトニ成レリ

今日死刑ノ事ヲ説キ至ラサルニ仍テ尚後會  
ニ説クヘシ此死刑ニハ種々ノ方法アリ  
千八百三十二年以前迄ハ尊屬ノ親ヲ殺シタ

ル者ハ死刑ニ知スル前ニ指ラ切斷スル方法  
アリタリ  
今日迄ハ大体ノ説明而已ニ付自今目的ヲ以  
雛形ヲ作りタル上高議有之度  
緊要ノ事而已ヲ論議シ其余ハ雛形ノ草案ヲ  
以高議有之度  
後會ニハ懲治罪ノ件ヲ説クヘシ佛國ニハ徒  
刑ノ部類甚多シ  
徒刑ニハ二ツノ區別アリ一ツハ刑法上ニテ  
確定シタル刑ナリ一ツハ裁判官ヨリ別段ニ  
言渡サレタル刑トノ別アリ  
此改定ノ刑法ハ何年何月ヨリ實地執行ト云  
ノコトヲ第一ニ論スヘキコトナリ

第三号

佛國刑法會議筆記

八年九月三十日

刑法會議

佛國刑法會議

佛國刑法會議

八年九月三十日

伊太利亞ノ刑法ハ然ルヘキヤ  
 同國ノ民法ハ詳知セリト虽刑法ハ未タ詳知  
 ヲス故ニ今晚ニモ同國公使ニ面會スヘキニ  
 付其節一應問合スヘシト考ヘリ  
 各國ノ刑法書共凡省中ニ備ヘアレモ未タ伊  
 太利亞ノ刑法書而已其備ヲ欠ケリ故ニ購求  
 マンコトヲ要スルナリ  
 同國公使ノ手許ニハ多ク持合セアルヘシ然  
 シ仏語ノ訳文アル否知ル可カラス尤同國公  
 使ハ仏語ヲ解シ得ルニ付即チ質問スルコトヲ  
 得ヘシ

刑名ノ區別ニ付参考ノ為メ一説ヲ述フヘシ  
前會ニ之レ區別スルニ三ツノ論説アルコト  
ヲ説ケリ

第一公益ヲ害スル大小ト道德ヲ損スル多少  
トヲ酌量シテ定ムヘキコトヲ説ケリ然レ之  
レハ到底酌量シ能ワサルモノナリ

第二重罪ハ重罪ノ刑名ヲ以類集シ輕罪ハ輕  
罪ノ刑名ヲ以類集スル時ハ其刑名多岐繁雜  
ニ涉リ遂ニ行ワレ難キコトヲ説ケリ故ニ尚  
其行ワレ難キ所以ヲ説クヘシ

損名ノミヲ多數ニ分テ類集スル時ハ實際ニ  
於テ甚々煩雜ヲ生スヘキナリ

例ハ八人ノ身体ヲ害スル犯罪ハ其犯罪ニ就

テ重罪輕罪違註罪ヲ區別シ又タ財産ニ就テ

ノ犯罪モ同シク一々其刑名ヲ區別シ又タ之

レテ其種類ニ仍テ類集スル等ニテ其種類多

ク犯罪中ニテ各々ノ重罪輕罪違註罪ヲ區別

スル時ハ實ニ煩雜ニ堪ユヘカラサルナリ

故ニ犯罪ノ種類ニ拘ラス重罪輕罪違註罪ノ

刑名ヲ定メ之レテ以テ刑法ノ基ト為スヘキ  
ヲ良法ト考ヘリ

先ツ此刑法書ヲ開卷スルト做シ  
例ハハ封印アル物ヲ破封シタルト云フ犯罪  
アリ又之レヲ破封シ其内ノ物ヲ盜ミ取リタル  
ト云フ犯罪アリ  
其犯罪監守者ナレハ只其破封而已ニテ重罪

ニ当リ即チ徒場内ニ於テ服役スルノ刑ニ処  
セラルヘシ

若シ監守者ニアラス常人ニテ破封シ其封中  
ノ物ヲ盗取ラサレハ輕罪ナリ

故ニ一ツノ破封シタル犯罪ノ内ニモ監守者  
ナレハ重罪常人ナレハ輕罪ト其重輕罪ヲ分

タサル可カラサルナリ又其重輕罪ノ未ニ於  
テ再ヒ其封中ノ物ヲ盗取レハ如何シ盗取ラ

サレハ如何シト尚其區別ヲ分タサル可カラ  
サルニ至ルナリ

今説カ、ル、所ハ已ニ余等ニ渡リ説カ、ル、論  
ナルマ

前ニ説ク如ク一ツノ犯罪毎ニ就テ刑名ヲ区

別スル時ハ数多ノ条規ニ分タサル可カラサ

ル理ニテ實ニ不都合ノ極ナリ然ラハ實際ニ  
於テ之ヲ如何シテ可ナル乎

則チ  
第三ニ説ク所ノ歐羅巴ノ方法ニ拠ルヘキナ

リ  
歐羅巴ニテ現今実行スル所ノ方法ニ拠ル時

ハ例ヘハ破封ノ犯罪ハ其破封シタル而已カ  
又ハ其封中ノ物ヲ盗取タル等ノ差別ヲ以テ

レテ重罪ヨリ輕罪違註罪ノ条規ニ引当テ処  
断スヘキ訳ニテ一目ニシテ判定シ易キナリ

破封ノ犯罪ノ如キハ違警罪ニ入ル可カラサ  
ルヘシ

之レハ逃警罪ニハ入ラサルナリ然レトモ今  
説ク所ハ若シ重罪以下違警罪ニ至ル迄ノ等  
差アル犯罪トモ其刑名ニ引当ル時ハ一目  
ニテ判定シ易キコトヲ云フナリ  
又人ヲ害スル犯罪ハ人ヲ殺ス者ヨリ暴行セ  
ル者迄モ其重軽罪ノ刑名ニ扱ル而已ニテ判  
定スルコトヲ得ヘシ

故ニ現今実行スル所ノ方法ノ如クスル時ハ  
一ツノ犯罪毎ニ之レヲ其重軽罪ノ刑名ニ照  
シ其目的ヲ立テ判定スヘキナリ  
又重軽罪ノ内期限ノ定メアルモノハ何年ヨ  
リ何年迄ト記載アルニ仍リ例ハ其人ヲ殺  
ス者ハ何年何月何日ニ知スヘシト云フ時ハ之

レヲ其内卷ノ初ノ刑名ニ照シ其重罪タル  
コトヲ判定スヘキ等ナリ  
是ヨリ刑名ニ就テ説クヘシ

輕罪ノ刑名ヲ説ク前ニウコシク死刑ノ論ヲ  
説クヘシ

死刑ノ当否ハ條理ト道德ニ付テ論セサルヲ  
得サルコトニテ甚難事ナリ故ニ寫ト考ヘヘキ  
コトナリ仍テ死刑ノ当否ハサシキ死刑ノ  
執行ノ度ニ於テ一言セントス死刑ノ執行ニ  
於テハ種々ノ方法アリ  
仏國ノ旧法ニ於テハ死刑ヲ種々ノ方法ニテ  
執行セリ

第一其犯罪ノ輕重ト其者ノ貴賤トニ仍テ区



別スルコトアリ

一々巨細ニ説キ難ク何トナレハ仏国ニモ如斯キ不文明ノ方法アリシハ赧顔ノコトナレハナリ

仏国而已ナラス歐羅巴各国トモ旧法ハ同様ナリ

然シ近來ハ人ノ情ヲ貴ムコトヲ重スルナリ殊ニ仏国ノ革命以後ハ其之レヲ貴ムコト最甚シキト為ス

旧法ニテ貴賤ニ仍リ區別スルコトアリトモ其死刑ト為スヘキ者ヲ死刑ト為サハル等ノ區別アルニアラス

通常ノ死刑中ニテ貴族ト平人トノ區別アルコトナリ

貴族ハ 斬首 平人ハ 絞

革命以後ハ貴族平人ノ區別ナク一様ニ斬首スルコトナリタリ

此斬首スルコトニ就テ一目上ヨリ之レヲ論スル時ハ造物者ヨリ具テ以テ生レシメタル者ヲシテ身首兩断其所ヲ異ニ為サシムルハ天

理ニ戻リ不都合ノ様ナレモ爰ニ於テ種々ノ道理アルナリ

故ニ斬首スルコト、為シタルナリ

一体人トシテ罪ヲ受ケ罰セラルハ愍ムハ

キコトナリ殊ニ已レノ生命ヲ失フニ至ルハ

又甚タ愍ムヘキナリ

然ルニ絞罪ハ絶命ノ際ニ於テ苦痛ヲ爲シ斬  
首ハ其苦痛ヲ爲サス故ニ其生命ヲ失フノ愍  
ムヘキ而已ナラス尚其苦痛ヲ爲サシムルハ  
最其愍ムヘキニ耐ヘサルコトナリ  
故ニ此愍ムヘキノ情理ニ仍リ斬首ヲ以テ良  
法ト爲スナリ

然レ又其以未学問ノ進ミタルコトアリ  
何トナレハ昔日ハ斬首シテ身首兩断スレハ  
直チニ即死スヘキコト、爲セリ然レ氏近未  
之レヲ研究スル時ハ仮令身首兩断スルトモ  
幾多間ノ時ヲ経サレハ全ク絶命スルコト能  
ワス故ニ其絶命スル迄ハ自ラ苦痛スヘキ理  
アリ即チ斬首ノ後ニ於テ手足ヲ動カス等ノ

コトヲ以テ知ルヘシ  
故ニ又其即死スヘキヲ研究シテ之レヲ動  
物ニ試シルニ全ク其効アリト爲ス  
之レハ舍密ノ藥劑ニテ之レヲ耳目鼻口等ノ  
ハ穴又ハ小疾ノ出血シタル部多ヨリ感冒セ  
シムル時ハ忽チ即死スルノ効ヲ徴スルト云  
フ  
此死刑ノ殺シ方ニ就テハ長ク弁スルヲ要セ  
ス  
過日モ説キタル如ク千八百三十二年以前ハ  
親ヲ殺シタル者ハ指ヲ剪リ死ニ至ラシムル  
死刑ノ方法アリ  
此刑ハ帝國王ヲ殺シタル者モ同様ナリ尤

共和政事政変ノ大統領ヲ殺シタル者ハ之レ  
 =異ルナリ  
 死刑ニ指テ剪リ苦痛ヲナサシムルハ親ト帝  
 王トヲ殺シタル者ニ限キレリ然シ千八百三  
 十二年以後全ク此刑法ヲ廢シタリ  
 然カニ近來ト魚親ヲ殺シタル者ハ其刑ヲ重  
 ク為スヘキニ付衣服ヲ脱シ既足ニ為シテ刑  
 場ヘ引出スナリ  
 縲祥而已ヲ着セシムルト記載アレモ實際ハ  
 只其上衣ト股引トヲ脱スル而已ナリ  
 先般佛國ノ獄舎ニ於テ死刑人ニ着セシムル  
 衣服ヲ見タリ  
 刑法書ニハ見ヘス

刑場ヘ引出ス時別ニ衣服ヲ改メス獄屋ニテ  
 着タル袴ニ為シ置ナリ  
 是等ノ事ハ獄屋ノ手教迄ノコトナルヘシ  
 然リ  
 陸軍ノ者ヲ死刑ニ処スル時ハ銃丸ニテ打殺  
 スナリ  
 十二發ヲ羽ヘ打チ一發ヲ面部ニ打チ都合十  
 三發ヲ以テ打殺スナリ  
 銃丸ヲ以テ打殺スハ戦死シタル同様ノ体意味カ裁ニ  
 為シ少クシク面目ヲ与ヘリナリ  
 輕罪ニ就テ説クヘシ  
 輕罪ノ刑名ノ数ハ重罪ノ刑名ヨリ少ナシ  
 國ニテハ只三種而已ナリ

第一 禁錮此刑ハ重罪ノ刑ト同シク人ノ自由ヲ妨クヘキモノナレトモ其期限短ク又其内ノ規則モ自ラ寛ナリ  
時ニ仍リ禁錮ヲ十年ノ期限ト為スコトアリ之レハ輕罪ヲ再犯シタル者ニテ即再犯加等ノ為メナリ  
五年ヲ加等シ即二倍シテ十年ト為スコトナ  
ルハシ  
仏國ノ刑法ハ的當ナラス何トナレハ追放ノ五年ト禁錮ノ五年ト同期限ナリ且追放ハ自由ヲ損セス禁錮ハ自由ヲ損スルニ仍リ即追放ノ方輕キナリ  
然ルヲ追放ヲ重罪ト為シ禁錮ヲ輕罪ト為ス

ハ如何  
固ヨリ輕罪ノ刑ヨリ重キモノニアラサレハ之レヲ重罪ノ刑ト云フ可ラサルナリ  
然レトモ之レヲ重罪輕罪ト區別スル所以ノモノ如何トナレハ  
重罪ノ刑ニハ附加ノ刑アリ  
輕罪ノ刑ニハ附加ノ刑ナシ  
重罪ノ刑ハ悉ク民權ヲ剝奪スルナリ  
輕罪ノ刑ハ民權ヲ剝奪スルコトナシ  
彼ノ追放ヲ以重罪ト為シタルハ此民權剝奪ヲ免カル、能ワサル故ナリ  
民權剝奪ト屬籍ノ權ヲ禁スルトハ殆ト同一ノコトノ如シ其差別ハ如何

民権利奪ト屬籍ノ權ヲ禁スルト殆ト相似タルコトナリ然レ氏之レヲ重罪ト輕罪トニ分ツ所以ノモノハ自ラ差別アレハナリ

之レヲ殆ト同一ノモノト為ス時ハ実行ニ於テ如何ナル分界アルヤ

第三十四条ト第四十二条ト見合セテ参考スヘシ只今此細目ヲ説クヲ要セス

何トナレハ無期有期ノ徒刑ヲ説キタル時ト魚モ其細目ヲ説カス畢竟刑法ノ大体ヲ串説セント欲スレハナリ

固ヨリ此ニ様ノ條規ハ同シカラサルナク若シ同シモノナレハ殊ニ并セサル可カラサル

ナリ

第三ノ罰金ハ極少数ヲ十六フランクト定メリ此極少数ハ刑法上ニ示サレナリ何トナ

レハ其罪犯ノ種類ニ依リ自ラ其金高ノ差違アルヘキ故ニ之レハ豫メ計リ知ル能サレハ

ナリ

若シ十六フランクヨリ百フランク迄トアルキハ其犯罪ノ種類ト刑状ニ依テ変易セサル

可カラサレハナリ

民權及屬籍ノ權ヲ禁スルトアレハ輕罪ナルコトハ言フヲ頒タスレテ直チニ了知スヘキ

ナリ

輕罪ノ三刑ハ此三刑ヲ以テ一ツノ犯罪ヲ罰スルコトナリ

例ハハ屬籍ノ禁ト禁錮ト罰金トヲ併セテ一罪ヲ罰スル等ナリ

例ハハ風俗ニ関スル罪ヲ犯セル者ハ固ヨリ禁錮ノ刑ナリ然ルニ其大ニ注意ヲ欠ク所

アレハ屬籍ノ權ヲ禁シ又罰金ヲ収メシムルコトアリ之レ三刑ヲ以一罪ニ加ヘルナリ

重罪ニ於テハ必ラス一刑ヲ以処スルナリ例ハハ死刑ニ罰金ヲ加ヘス無期ノ徒刑ニ有

期ノ徒刑ヲ加ヘル能ハルカ如ク然シ重罪トモ附加ノ刑アル時ハ二刑ヲ以

処スヘキニアラズヤ故ニ追放ノ刑ヲ輕罪ノ内ニ組込メ政変ノ罪ヲ犯シタル追放ト為シテ可ナリ

然ラハ重罪ヲ區別スルニ於テ其適度ヲ失ハナルナリ

連警罪ニハ失張禁錮アリ然レ一日ヨリ五日迄ヲ限ケルナリ

又罰金アリ是亦一「ヲ」ヨリ十「フ」ラシ

リ迄ヲ限レリ連誑罪ニハ附加ノ刑ナシ

連誑罪ニハ附加ノ刑ナシ連誑罪ニハ再犯加等ハ無之哉

再犯ハ加等スルコトアリ然レ屬籍ノ權ヲ禁スルコトナシ

連誑罪ハ再犯トモ失張連誑罪ヲ以処スルナリ

輕罪モ同様ナリ

仁國ノ刑法ハハツリ重罪ト三ツリ軽罪ト違  
註罪ト以刑法ノ基礎ト為セリ  
然レ附加ノ刑アリ此附加ノ刑ニツアリ一  
ツハ本刑ニ仍テ推及シ自ラ不得己生スルモ  
一即本刑ヨリ任裁ケタルモノナリ  
一ツハ裁判所ヨリ更ニ言渡スモノナリ故ニ  
本刑ヲ言渡シタルヲ以テ直ニ生カサルモノ  
下リ但之ハ裁判所ノ便利ニ仍ルナリ  
重罪ノ刑ヲ受ケタル上ハ必ラス始終免カレ  
可ルモノハ民権剝奪ナリ仮令裁判所ヨリ其  
民権剝奪ノ言渡ナレトモ必ラス剝奪セラ  
レモト為スナリ  
民権剝奪ハホリナリ。エウキナリ。ノ権ヲ剝

奪セラルナリ  
ホリナリ。エウキナリ。ハ自ラ區別アルナリ  
政更ノ権ハ政度へ直キニ關係スルモノナリ  
日本ニテハホリナリ。エウキナリ。ハ自ラ區別アルナリ  
各省ノ郡縣公ノ如キハ其職務上ニテ政更ニ  
關係スルモノニシテ職務ヲ止ムレハ通常ノ  
人民ニテ政更ニ關係スルヲ得ス之レホリナリ  
ツク。ノ権ニテシウキナリ。ノ権ニアラス  
ホリナリ。ノ権ハ職務ナレトモ自ラ政更  
ニ關係シ得ヘキモノナリ  
例ハ議員ヲ撰挙セシ又ハ議員ニ撰挙セラル  
ヘキ等ノ権ナリ  
仁國ノ人民トモ革命以前ハ此權ナシ

明治

革命以前ト虽モ一等ヨリ段々ノ官員アリ其  
官員ハ政府ヨリ命セラルタル職務上ニ付其  
政変ノ權ヲ有スルモリニテ即チ之レ。シウイ  
ク。ノ權ナリ  
故ニ革命以前ハ。シウキリ。ノ權アリテホリ  
チウリ。ノ權ナリ  
日本ニ於テモ。シウイリ。ノ權アリト虽モホリ  
チウリ。ノ權ハアラサルナリ  
例ヘハ。ホアリナドハ日本ノ公權ヲ有セス  
何トテ。ハ日本政府ノ官員ニ成ル註ヲス何ト  
ナレハ其國民ニアラサル故ナリ  
シウキリ。ト云語ハ羅画ヨリ出テタル語ニ  
テ即チ國民タルノ權ト云フ意味ナリ

シウキリ。ノ權トハ官員監定人ニ為ルトナ  
又ハ証人ニ為リ得ヘキ等ノ權ヲ云フナリ  
海陸軍ノ兵隊ト為ルヲ得ヘシ  
政ニ犯罪人ノ民權剝奪セラル。者ハ即チ政  
變ノ權ヲ失ヒ。議員ニ撰舉セラレ。又ハ議員ヲ  
撰舉スルコト註ヲサルナリ  
又ハ官員ニ為リ証人ト為ル註ヲサルナリ  
故ニホリチウリ。ノ權トシウキリ。ノ權トナ  
失フモリナリ  
一 体此權ハ男中ノ區別ナリ同様自然ニ有ス  
ヘキ權ナリ  
例ヘ武器ヲ有スルニ己レノ歡娛ノ為ナニ  
之レヲ有スルハホリチウリ。ノ權ニアラス

司  
法  
省



シウキツクハ権ナリ  
又タニ一ノ勝子ニ人ヲ教育スル等モホリテ  
ウクハ権ニアラスシウキツクハ権ナリ  
犯罪人ノ賞牌ヲ佩フルコト註ワサルニ至テ  
ハ自國ノ賞牌ハ勿論假令外國ヨリ授与セラ  
レタルモノトモ之ヲ佩スル註ワサルナリ  
是ヨリ第四十二條ノ属籍ノ權ヲ禁スルコト  
ニ就テ説クヘシ  
第三十四條ト第四十二條トヲ比較スレハ実  
ニ僅カニ差違アル而已ナリ  
第四十二條ニハ賞牌ヲ佩フルコトヲ禁セス  
然シ武器ヲ所有スルコトヲ禁スルナリ

然シ海陸軍ノ兵隊ニ入ルコトヲ得ヘシ何ト  
ナレハ此條ニ於テ其禁テキ故ナリ  
武器ヲ所有スルコト註ワサルハ兵隊ニ入ル  
コトモ亦タ註ワサル刑ナリ然シ只其武器  
ヲ持タザル兵隊ニ入ルコトヲ得ヘキナリ  
武器ヲ持タサル兵隊トハ即海軍ノ隊中カ又  
ハ陸軍トモモ糧食ノ運送方等武器ヲ持タス  
シテ使役コラル者ヲ云フナリ  
此第四十二條ニ於テ教師ニ成ルコトヲ得ヘ  
シ何トナレハ其禁テキ故ナリ  
賞牌ハ其禁アル故ニ佩フルコト註ワサルナ  
リ  
右第三十四條ト第四十二條ノ内僅カ三四件

ノ差違アル而已ナリ然レトモ其三四件ノ差  
違アルノミナリハ民権剝奪ト属藉ノ権ヲ禁ス  
ルトニ於テ到底同様ノモノナリ  
然レトモ民権剝奪ハ三十四条ノ件々ヲ悉ク  
剝奪マラル、ナリ  
属藉ノ権ヲ禁スルトハ四十二条ノ件々中ニ  
テ其犯罪ノ種類ニ仍リ一部或ハ後部ヲ禁ス  
ルト禁マサルコトアリ之レ民権剝奪ト大ニ  
ニ其差別アル所ナリ  
裁判所ノ見込ニ仍リ武器ヲ持ツコトヲ禁ス  
ルトモ海軍ノ兵隊ニ入ルコトヲ得ヘキハ勿  
論若之レヲ禁セサル時ハ海陸軍ノ内何レノ  
兵隊ニ入ルトモ更ニ差支ナキナリ

又属藉ノ権ヲ禁スルト云フコトハ全ク民権  
剝奪ト違ニ其内一二ノ権ヲ禁セラル、近ノ  
コトナリ  
仮令其内ノ一二ノ権トモ其権ノ全部ヲ失フ  
所ヨリ之レヲ見レハ重罪ノ民権剝奪ト同様  
ノ理ニアラス  
固ヨリ其権ヲ失フ所ノ美際ニ於テ之レ見レ  
ハ民権剝奪ト同様ノ姿ナリ然アシ具差別ア  
ル所以ハ仮令後見人ノ権ヲ禁セラル、トモ  
議員ヲ撰挙シ又撰挙セラル、権ヲ有スル等  
各其禁マラル、所ノ次第ニ仍リ其権ヲ有ス  
ルノ得夫アリ故ニ民権剝奪ノ如ク其一身全  
体ノ権ヲ失フ者トハ大ニ差別アルナリ

司  
法  
省

其差別アルミテラス 期限中夫ケ之ヲ失フ  
ト云フ所リ差別モアルヘキナリ  
固ヨリ然リ其期限ハ即チ五年乃至十年間ナ  
リ故ニ其期限中ニ於テ其權ヲ失フコトナリ  
此第百二十二条ニ於テハ教師ニ為ルコトヲ禁  
スル能ワサルナリ  
後會ニハ附加リ刑ノコトヲ説クヘシ

司  
法  
省

刑法會議筆記

第四号

刑法省

刑法省

十月二日

刑法別會

本日ハ附加ノ刑ヲ説クヘシ尤其前ニ本刑ノ年限ヲ説カントス

先ツ有期ノ本刑ト為スヘキ刑ノ年限ヲ説クヘシ

無限ノ徒刑ニ年限ナキハ不須言ナリ

何年ヨリ何年マテト為シ其前後ノ短期ト長期ト示シタル而已ニテ其年限ノ間ニ於テ期限ヲ區別セサルハ裁判官ノ見込ニ任セ其期限ノ伸縮ヲ為サシム詎ケナリ

立法家ニテモ罪名ニ的実ナル所ハ示シ置ヘキ筈ナレバ犯罪ノ情状ニ仍リ必ラス其差違ヲ生スヘキニ付其時ノ便利ノ為メ裁判官ノ

刑

見込ヲ以テ五年或ハ三年ノ期限ヲ之テ適  
宜ニ伸縮為サシムルノ 賦ケナリ  
外國ノ刑法ニ於テハ一休短期ト長期トノ前  
後間隔ニ於テ余リ長キニ失スルナリ即チ後  
刑ハ五年ヨリ二十年迄テ四秋ノ刑ヨシモ同様  
五年ヨリ二十年ト定メアリ  
此前後十五年ノ間ニ於テ其期限ヲ伸縮スル  
ハ裁判官ノ見込ニ任セ置クナリ  
故ニ此年限ノ間隔ヲ一層短ク縮ムル方ヲ可  
ナリト考ヘリ  
尤徒場内駈役ハ其年限ノ間隔ハ已テ短ク  
定メアリ即チ五年ヨリ十年迄ナリ  
徒刑ハ十年ヨリ二十年ト為ス可シ然ラサレ

ハテ徒場内駈役ト同様ノ期限ニテ抵觸ス  
ルナリ  
若シ徒刑ヲ八年ヨリト為ストモ矢張テクレ  
一シヨシノ年限ト抵觸スル故ニ必ス十年ヨ  
リト為スヲ可ナリトス  
禁錮ノ刑ハ六日ヨリ五年迄ト定メアリ是亦  
其年限ノ前後ニ間隔アリ尤此年限ニ長期ト  
短期トヲ示シタルハ固ヨリ大凡ノ定メナリ  
何トナレハ此年限中ニ於テ其犯罪ノ実況ト  
情状トニ仍リ之ヲ酌量シテ其期限ノ伸縮ス  
ルコトアル故ニ固ヨリ六日ヨリ五年迄ヲ以  
テ一罪一人ニ科スルニアラス  
附加ノ刑ヲ説クヘシ

民權利奪ハ或ル場ヲ除クノ外悉ク重罪ニ附  
加スル刑ト為スナリ

仏國ニテハ法律上ニ於テ治産ノ禁ナリ此治  
産ノ禁トハ自己ノ管轄スル所ノ財産ヲ自ラ  
自由ニ治ムル能クサルコトナリ

治産ノ禁ヲ設タル所以ハ何トナレハ犯人ヲ  
シテ若シ其財産ヲ自由ニ治メシムル時ハ或  
ヒハ獄吏ニ賄ヒ逃亡セシコトヲ謀リ又ハ獄

内ニ於テ歡樂ヲ求ムル等ノコトアリ已テニ  
之ヲ罪ニスル所ノ旨意ニ適クハ故ニ必ラス  
之ヲ禁スルコト、為スナリ然カシ其財産ヲ

竊盜ホノ為メ濫リニ損失セシムヘキ理ニア  
ラス故ニ又其財産ノ為メニ後見人ヲ附置ク  
ナリ尤此後見人ハ幼者瘋癲人等ニ附置クモノト

同様ノ手續ナリ

治産ノ禁ハ施体加辱ニ該ルニ普ク通シテ附  
加スヘキモノナリ追放ノ刑又民權利奪ヲ本  
刑トシテ言渡シタル片ハ附加セサル可シ

仏國ニテハ治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ其禁期  
中ハ決シテ自己固有ノ權ヲ行フコト能クサル  
ナリ

即第二十九條説載タル如シ然カシ此条中ニ  
遺漏シタル所ノ一事アリ

若シ治産ノ禁ヲ受ケタル者ト契約ヲ為シタ  
ル者アリ其廢毀ヲ求ル時ハ何レノ方ヨリ之  
ヲ求メテ然ル可キ之レハ仏國ニテモ立法家

ノ議論アル可ナリ

通常瘋癲人等ヨリ能カアル者ハ契約ヲ為シ  
タル時ハ瘋癲人等ヨリ其廢毀ヲ求ム可キニ  
付治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ其者ヨリ之ヲ求  
メテ可ナルヘキ訣ケナリ

然モ犯人ノ契約ノ廢毀ハ通常ノ廢毀ヲ求ム  
ル例ニアラス

犯人ヨリ之ヲ求ムルヲ得ヘキ時ハ通常ノ者  
同様ニテ其処刑ノ旨意ニ適ワス故ニ之ヲ求  
ムル能ワス又能カアル者一方ヨリモ之ヲ求  
ムル能ワス何トナレハ犯人ノ刑場等ニアル  
時ハ皆孰レモ之ヲ知ルヘキ筈ナリ然ルニ之  
ヲ知リテ契約ヲ為シタル者ノ不行届ナレハ

是亦己レノ自由ニ其廢毀ヲ求ムル可カラサ  
ルコトナリ故ニ此場合ニ於テハ犯人ヨリ求  
ムル能ワス又又一方ヨリモ求ムル能ワサル  
コト、定メタリ

第二説ハ犯人ヨリモ其廢毀ヲ求メ又一方ヨ  
リモ之ヲ求ムルヲ得ヘシト為ス

第二説ハ法律ノ意ニ適フト云フヘキナリ何  
トナレハ犯人ニテ不利アル時之ヲ求ムヘク  
又一方ニテハ犯人ト契約ヲ為セハ自ラ不便  
利ノコトアルヘキニ付其不利ヲ以テ之ヲ  
求ムル時ハ又廢毀スヘキナリ此法ハ畢竟犯  
人ト通常ノ者ト契約ヲ為シ能ワサル様ニ仕  
掛ケタルモノナリ



故ニ現今仙國ニテハ双方ヨリ之ヲ求メ得ヘ  
キコトニテ実行セリ

故ニ法律上ニモ若シ治産ノ禁ヲ受ケタル者  
ト契約ヲ為シタル時ハ双方ヨリ互ニ其廢毀  
ヲ求メ得ヘキコトヲ書加ヘ置クヘキナリ

此第二十九条中ニ其治産ヲ禁スルコトハ記  
載アリ候シ其犯人ト若シ契約ヲ為シタル時  
ハ其廢毀ハ如何ト為スト云フコトハ記載ナ  
シ

第二十九条中ニ治産ノ禁アル者ハ重罪中三  
刑而已ニテ無期ノ後刑ハ此治産ノ禁ノ内ニ  
入ラサルモノ、如ク見エルナリ

此治産ノ禁ノ内ニ入ラサルモノ、如ク見エ  
ル

ルハ何故ナルヤ詰問アルヘシ何トナレハ以  
前ハ殉死ノ刑アリ無期ノ後刑ニ処セラレタ  
ル者ハ殉死ノ言渡ヲ受ケタルナリ故ニ此条  
中ヘ加ヘサルナリ

然レトモ殉死ノ刑ヲ廢シタル上ハ無期ノ後  
刑ヲ此条中ヘ組入レヘキナリ尤治産ノ禁ハ  
附加ノ刑ニ付現今実行ハ自ラ之ニモ附加ス  
ルコト、成レリ

附加ノ刑ハ法律上ニ於テ定メアルニ付別段  
言渡サスシテ然ルヘキヤ

固ヨリ本刑ノ重罪ニ仍 附加スヘキコトニ  
テ已ニ法律上ニモ定メアル故ニ改メテ言渡  
スコトヲ要セス

刑法書

無期有期ノ徒刑ニ於テハ附加ノ刑ニ差違アリ  
無期ノ徒刑ハ其犯人ハ勿論他人ヘ一切恩惠  
ノ贈遺ニ物ノ贈与ヲ為ス能ク又之ヲ他人  
ヨリ受ルヲ得ス元ノモールシール同様ナ  
リ併シモールシールハ其処刑後直ニ其家ニ  
相続人ヲ立テシムルナリ此無期ノ徒刑ハ其  
相続人ヲ立テシムルニ及ハサルナリ  
有期ノ徒刑ハ自分ニ財産ヲ治ムル能クスト  
金モ他人ヘ之ヲ贈遺遺物贈与ヲナスヲ得  
又之ヲ他人ヨリ收受スルヲ得ヘシ  
己ニ説ノ所ニテ  
第一 民権剥奪ニハ附加ノ刑ナキコトヲ説

キタリ

第二 治産ノ禁アル所以ノコトヲ説キタリ

第三 犯人ノ自他贈答ノ可否アルヲ説キ  
タリ

第四 附加ノ刑ノ内政府ノ監察ハ或場合ニ  
於テ別段裁判官ヨリ言渡スヘシト金モ又言  
渡ナクシテ必ラス之ヲ附加スルコトアリ  
施休加辱ノ刑ニ処セラレタル者ハ其刑期ノ  
終リタル後一生政府ノ監察ヲ受クヘキナ  
リ

追放ノ刑ハ其刑期ヲ終リタル日ヨリ又其刑  
期欠ケノ年限中監察ヲ受クヘキナリ  
民権剥奪ハ監察ヲ受クヘキ期限ニ何年間ト

刑法書

云フ定メナシ

第四十九條ニ記載アル如ク國ノ内外ノ安寧ヲ害スル犯罪ニテ其監察ヲ受ル時ハ裁判官ノ見込ヲ以テ何年間ト其期限ヲ定メ別段言渡スナリ

第三十九條ノ如ク有期ノ徒刑以下ノ者ハ其財産ノ所有スヘキ私權ヲ剥クニハ得ラス只之ヲ治ムルノ權ヲ禁スルナリ故ニ其刑期ヲ終レハ後見人ヨリ即チ還典スルナリ

第四十七條ニ就テ尚説クヘシ

此條ニ於テ有期ノ徒刑及ヒ驅役等ノ者ハ其刑期ノ終リシ後一生監察ヲ受クヘキコトヲ記載シ無期ノ徒刑ヲ記載セス尤無期ノ徒刑

ハ一生其刑場ニ居ルヘキ若ナリ然カシ爰ニ記載セサル可カラサルコトアリ

何トナレハ小赦ニ仍テ赦免ヲ受ケ其刑場ヲ出テタル時ハ天張監察ヲ受ケサル可カラサルナリ故ニ此件ヲ加ヘ置テ以テ可ナリト為ス

此小赦ニ仍リ赦免ヲ受ケタル者ハ只其刑ヲ宥メラレタル而已ナリ故ニ其監察ヲ受クルコトハ免ル、能ワサルナリ

其罪ヲ宥メラレタリト云フ之ヲ通常ノ者同様に見做可カラサルナリ从國ニテハ復権ト云フコトアリ其復権ヲ得タル者ハ即チ全ク通常ノ者同様ニナルナリ

追放ハ其刑期ヲ終リハ國ニ歸リタル時ハ其  
刑期大ケ生限中監察ヲ受クヘシ之ハ別段言  
渡シヲ為サ、ルナリ

其他ノ犯罪タトヘハ國ノ内外ノ安寧ヲ害ス  
ル重罪輕罪ハ別段言渡シヲナシテ監察ヲ受ケ  
シムルナリ尤重罪ノ内法律ノ成条アル者ハ  
固ヨリ言渡ヲ為スニ及ハサルナリ

又第四十九條中ニ刑ヲ受ケシ者トアリ又原  
文ニハ前ノ條ヲ受ケテ云々ト時卿公ヘ向ヒ  
法律書ヲ以テ説明シ

又ベシト云フ字ト監察ト云フ字ニ説アリ右  
同断

然レトモ現今實際ノ所ニテハ裁判所ノ言渡

ヲ以テ其年限ヲ定ムルコトナリタリ

此條重罪トアル其重罪ハ即前條ノ追放ニ

当ルヘシ然ラハ重罪ノ二字ハ言ハス只輕罪

ト而已記載シテ然ル可シ

爰ニ重罪トアルハ其重罪ヲ酌量シテ輕罪ト

為シタル時ノエトナリ然カシ御説ノ如ク重

罪ノ二字ハ記セスシテ可ナリ

刑法中酌量輕減ノコトハ追テ説クヘシ

政府ノ監察ノ下ニ置カル、時ハ如何ナルカ

アルヤヲ説クヘシ

監察ノコトニ就ケハ種々ノ方法ナリ

又第四十五條四十六條又ハ臨時ノ布告ニテ

改定スルコトアリ

千八百五十二年三世十ボレラン即位ノ後弟  
四十四條ヲ廢止シタリ其後千八百七十年三  
世十ボレランノ亡ビテ共和トナリタル時  
第四十四條ヲ元ニ復シタリ  
現今実行ノ刑法ニテハ監察ヲ受ケタル者ハ  
例ヘハ巴里期リヲシテ等ノ都會ヲ除クノ外何  
レノ地ヘ住居スルトモ差支ヒナシト為ス  
千八百五十二年ノ布告ニ依ル時ハ監察ヲ受  
クヘキ場所ヲ政府ヨリ定メ其外ノ地ハ居住  
スルトモ禁シタリ

此布告ニ依レハ例ヘハ日本ニテ箱館ト定メ  
タル時ハ其箱館ノ外何レノ地ヘモ行コト能  
ク又刑法上ニ仍レハ都會ノ地ノ外ハ何レ

ノ地ヘ行クトモ差支ナシト為ス故ニ如此兩  
様ノ差違ヲ生スルニ至レリ

何レノ地ニテモ差支ナシトハ即チ自分ノ好  
ム所ノ地ヘ行キ住居シ其地ニテ監察ヲ受ク  
ヘキトノコトニテ都會ノ外ハ總テ勝手ニ各  
所ヘ往來シ得ルトコトニハアラサルヘシ  
固ヨリ刑法上ニ仍レハ自分ノ好ム所ノ一ヶ  
所ヘ行キ住居スルコトナリ然シ其一ヶ所ヨ  
リ他ヘ轉居スルコトヲ得ルナリ尤轉居スル  
時ハ其是長ヘ届出可シ邑長ヨリ州長ヘ届ヲ  
為スヘキナリ  
其届ヲ為シタル時ハ其州長ヨリ其道筋ヲ定  
メ且監察ヲモ附ケ置クヘキニ付其道筋ノ各

邑長へ一に其届ヲ為シテ通行スヘキナリ  
若シ指揮ヲ犯シ其定メタル道筋ノ外ヲ通行  
スル時ハ夫ニ付又別段ノ刑ニ処セラレヘキ  
ナリ

例へハ日本ノ旧法ニテ(カマ)ト云刑ト同様  
ナリ

監察ノエトニ付テハ仙國ニテ現今全ク之ヲ  
廢スヘキカ又ハ廢セスシテ其方法ヲ改正ス  
ヘシトノ議論アルナリ

其故ハ一旦罪ヲ犯シタル者ハ自ラ他人ノ嫌  
疑ヲ来タシ之ヲ傭使スル者ナク又他人ニ関  
係シテ營業スヘキ道モナク遂ニ再ヒ最初罪  
ニセラレタル時同様ノ罪ヲ犯スエトアルニ

至ルナリ

仙國ニテ已ニ監察ヲ受ケタル者ノ再ヒ大ニ  
ニ罪ヲ犯シタル者アリ

一體實際ニテハ監察ハ自分ノ決シテ罪ヲ犯  
サ、ル性ナル信用ヲ示シ且其監察ヲ受ケタ  
ルエトノ他へ漏洩セサルエトヲ依頼シ互ニ

其契約ヲ為シ置營業スルエト、成レリ

何トナレハ監察ハ一體各地ノ警察官吏ヨリ  
竊ニ其監察ヲ為ス 訣ケニ付互ニ其契約ヲ為

シタル上ハ又其監察ニ於テ其犯人タルヲ知  
ルノニニテ他人ノ之ヲ知ル者ナキ故ニ全ク

常人同様都テ他人ニ關係シ營業スルエトニ  
差支ナケレハナリ

同法省

然ル後若シ其者酒樓等ニ上リニ妄リニ飲食ヲ  
為ス等ノ一アルヲ警察官吏ヨリ見受ケタル  
時ハ其飲食スル所以ヲ問ヒ糾シ其上不都合  
ノ事アレハ直ニ之ヲ罪スヘキ故ニ自ラ監察  
ノ下ニ居ル訳ケニナルナリ  
又若シ其土地ニ於テ人殺等ノコトアル時ハ  
監察ニ於テ速ニ其者ヲ呼寄セ其人殺ノアリ  
タル時日ニ當テ其者ノ進退シタル奉勅ヲ取  
調ヘ若シ不都合ノ事アレハ即ケ糾問スヘキ  
ナリ  
政府ノ監察ノ原則ハ至極然ル可シ然シ其者  
ノ營業ノ便利ト其土地ノ人民ノ害ヲ受ケサ  
ル為メノ方法ヲ設クヘキナリ

最初定メタル住居ノ地ニテ五年モ経タル後  
巴里期カマルセイイルノ如キ都會ノ地へ轉居  
セシコトヲ乞ヒタル時ハ其乞ヒノ如ク都會  
ノ地へ轉居セシムヘキヤ  
都會ノ地ハ難事アリ何トナレハ人民雜沓ナ  
ル故警察官吏モ常ニ之ヲ注視スト虽モ其注  
視ヲ全フスル能ハス後ニ見夫ヒ監察ノ行キ  
届カサルコトナリ  
然シ都會ノ地ハ繁華ノコト故自ラ營業ニ着  
キ易キ便利アリ尤又夫レ犬ケニ惡事ノ為シ  
易キ場合モアリ  
故ニ都會ノ地へ置ク時ハ其場所ヲ定メ何所  
何番地ト云フコトヲ限り住居為サシメ若シ

其移轉スル時ハ失張其移轉先キ町名等ヲ定  
メ住居為サシムヘシ  
且都會ノ地ハ監察ヲ受ケタル者杯へ注目ス  
ル者ナク只其監察ノ之ヲ知ル面已テレトモ  
邊鄙ノ地ニ至テハ他人モ之ヲ知り易ク自ラ  
營業ヲ為シ能ワサルコトナルヘシ故ニ都會  
ノ地ニ住居為サシムルモ良致ナラシカ

然リ尤本人ハ住居地ノ外へ行コトヲ得サレ  
氏妻子ハ他ノ地へ行クトモ差支ナシト為ス  
日本ニテハ警察官吏ニ於テケ様ナル者ノ住  
居等ヲ悉ク監察シ得ヘキヤ巴里期ノ警察官  
吏ハ其者ノ何レニ住居スル等ノコトヲ詳知

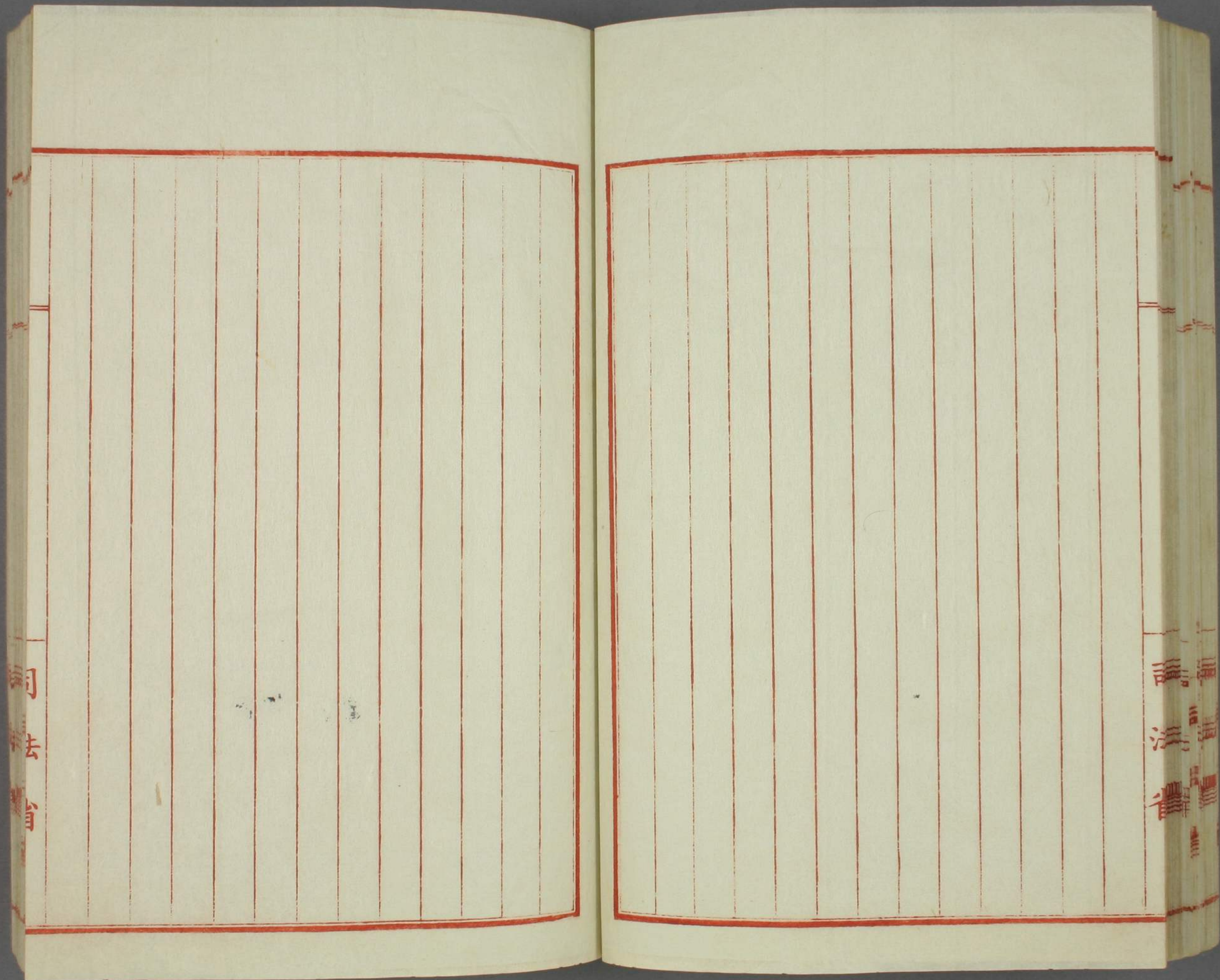
シ得ルナリ

日本ノ警察官吏ト雖モ其持区内丈ケハ各其  
住居セル人民ヲ悉ク詳知シ居ナリ  
監察ヲ受ケタル者ノ内田舎ノ者ハ其自分ノ  
住居へ歸リ營業ヲ為スヘキヤ  
田舎ノ者ハ自分ノ住居へ歸ルトモ差支ナ  
シ

田舎ノ者ハ自分ノ住居へ歸リ得大ケ徳ナリ  
都會ノ者ハ自分ノ住居へ歸リ得サル丈ケ損  
ナリ  
此法律ニ仍レハ幸不幸ハ止ムヲ得サレハ十  
リ

司  
法  
省





詞  
法  
省

詞  
法  
省

第五号

刑法講義

八年十月五日

刑法會

刑法會

刑法講義

八年十月五日

民権剝奪ハ重罪ノ八刑中ニテ算スル時ハ本  
 刑ナリ然カシ又附加ノ刑ト成ルナリ  
 民権剝奪ヲ本刑ト為ス時ハ此刑ノ外ニ附加  
 ノ刑アリ  
 例ハハ外國人ノ犯罪ニ民権剝奪ヲ言渡スト  
 ニ我國民ト違ヒ其剝奪ニ於テ已レノ自由ヲ  
 欠クコトナリ其之レヲ罰スルニテ効ナシ  
 故ニ其本刑ニ附加シテ禁錮ヲ言渡スナリ  
 即チ第三五條ノ注意之レナリ  
 外國人ニアラサル者ハ民権剝奪ヲ本刑ト為  
 シ言渡シタル時ハ別ニ附加ノ刑ヲ言渡スコ  
 トアリ又言渡サハルコトアリ是レ裁判所ノ

便利 = 任ス  
婦人 = 民権剝奪、本刑トシテ言渡シタ時ハ  
裁判官ノ見込 = 仍リ別 = 禁錮ノ刑ヲ附加シ  
テ言渡コトアリ又言渡サハルコトアリ  
ホアソナリ止案スル = 婦人ハ外國人同様民権  
剝奪 = 於ニ己レノ自由ヲ欠クコトナキ故ニ  
他ノ刑ヲ附加スルヲ以可ナリトス最モ婦人  
ニハ民権剝奪ノ刑ニ余リナキ苦ナレモ若シ  
國ノ安寧ヲ害スル犯罪ノ附従トナリタル時  
ハ即チ民権剝奪ノ刑ニ當ルヘシ故ニ此時ハ  
附加ノ刑ヲモ言渡スヘシ  
附加ノ刑 = 別改ノ没収アリ即チ第廿一条ノ  
主意之レナリ

佛國ノ旧法 = ハ悉皆ノ没収アリ是レ即チ日  
本ノ旧法ノ闕所ノ如キモノナリ之レハ一般  
ノ罪 = 用ユルニアラヌ只叛逆ノ罪 = 用ユル  
而已ナリ  
千八百十四年ノ建法ニ拠ニ此没収ヲ廢セリ  
其之レヲ廢シタル所以ハ何トナレハ一体犯  
人ノ罪ハ其犯人一人ニ止マリテ子孫ニ及ホ  
スヘキモノニアラヌ然ルニ其家産等ヲ悉皆  
没収スル時ハ即チ其罪ヲシテ子孫ニ及ホサ  
レムルノ道理ニ當タレハナリ其罪ノ一人ニ  
止マリテ子孫ニ及ホサルハ極良法ト云フ  
ヘキナリ然カレ其一人ニ止マラサル所ノ余  
習ハ未タ尽ク除去シ能ク

例ハ其罪ノ為ニ罰金ヲ出サレムル時ハ  
即チ家産ノ幾部分カニ關係スル故矢張其罪  
ノ子孫ニ及フ一キ訣ケテリ最モ悉皆ノ没收  
トハ差別アレ凡自ラ子孫ニ及ホス一キ道理  
ニ當タレリ  
故ニ其罪ノ一人ニ止マラス子孫ニ及ホレタ  
ル原則ハ未タ全ク消除セサルナリ  
別段ノ没收ハ其子孫及ヒ犯人ニ於テモ後來  
要用ト為ス一キ物ニアラス且之レヲ没收ス  
ル時ハ人民一般ノ公益トナリ又其犯人ヲ戒  
ムルノ道トナルナリ  
此没收物ハ左ノ三件ノ種類ニ於テ取上クル  
ナリ

第一 犯罪ノ物件

第二 犯罪ヨリ生レタル物件

第三 犯罪ヲ為ス為ニ用ヒ又ハ用ヒント  
レタル物件

通常此三件ノ物ヲ没收ス一キカト虽モ時ニ  
仍リ之ヲ皆テ没收シ難キ場合アリ

此三件ノ物ヲ没收スルノ方法ハ更ニ詳説ヲ  
要スルナリ

例ハハ貨幣贋造ノ犯罪人アル時ハ此三件ノ  
物ヲ没收スルヲ得可シ

第一 贋造シタル金ハ則犯罪ノ物件ナリ

第二 其贋金ヲ以品物ヲ買ヒ又ハ正金ト引  
替ヘタル時ハ其正金及品物トモ則犯

罪ヨリ生シタル物件ナリ

第三

其質造ノ為メノ雜形鑄形又ハ諸器械

等ハ則犯罪ノ為メニ用ヒ又用ヒント

為セシ物件ナリ

禁制品ヲ製造シタル時モ同様其品物諸各械

等ヲモ揮テ没収スルナリ之ハ則犯罪ノ物件

ト為スナリ

禁制品ヲ製造シ之ヲ販賣シ又ハ交換シ或ヒ

ハ販賣シタル正金ヲ以買入レシ他ノ物ヨリ

生シタル利益ヲモ尽ク没収スヘキナリ

風俗ニ関スル書籍又ハ政事ニ関スル書籍ヲ

著述シタル時ハ其製本ヲ没収スヘシ之ハ則

テ犯罪ノ物件ナリ又其製本ノ為メノ版本活

版等ヲモ没収スヘシ之ハ則犯罪ノ為メ用ヒ

シ物件ナリ

活版ハ全タク其製本ノ為メ而已ニアラズ他

ノ印刷ノ用ニ供スヘキモノニテ其製本後已

ニ一顆ヲ取放ナシタルモノニテモ之ヲ

没収スヘキナリ

版本ヲ没収スルハ勿論ナレ凡活字版ノ一顆

毎ニ取放ナシタルモノハ没収セス然シ之ヲ

一枚上ニ組合セタル終ノモノハ没収スヘキ

ナリ

但シ其犯罪ヲ訴出テタル時活字板ヲ組合セ

タル終ニテ未ダ取放サハル時ハ警察使之ヲ

取放ナシ没収セサル様ニ為スナリ最モ是等

ノコトハ警察使ノ臨機ニ如置スヘキコトナ  
リ  
己ニ説ク如ノ犯罪ノ物件ニ三種アリ然ルニ  
其犯罪ノ物件ニ於テ没収シ難キ場合アリ  
例ヘハ盜賊ヲ以テ之ヲ云ヘハ  
盜賊門戸ヲ越ヘテ人家ニ入り盜ラナス之レ  
等ノ事ハ貨幣偽造ノ罪ニ比スレハ贖金物ニ  
当ル故犯罪ノ物件ト云フニ等シケレト其盜  
ハ罪状而已ニテ犯罪ノ物件ニアラス故ニ取  
上ルコトヲ得ス其盜賊ノ身体ヲ以テ物件ト見  
做ス記ケナルヤ  
然ラハ牆ヲ踰ヘ壁ヲ穿テ人ノ家屋ヘ忍ビ入  
リ他ノ物品ヲ盜取リ得ル迄ノ犯状ヲ称シテ

犯罪ノ物件ト等シキモノトス  
支レハ無形ノモノニテ難取上記ケナリ  
盜賊ノ盜ニ取リタル物ヲ指シテ犯罪ノ物件  
ト見做ス如ク見ユレト支レハ犯罪ノ物件ト  
為ス可カラス何トナレハ其物タル一時盜賊  
ノ手ニ落ケタル迄ニテ其持主ノ手ニアル時  
ハ固ヨリ公正ノ物件ナリ故ニ之レヲタトヘ  
一時盜賊ノ手ニ落ルト犯罪ノ物件トハ云フ  
可カラサルナリ  
例ヘハ此時計(此時各出スヨリ)ノ如キモ甲ノ手  
ニアル時ハ公正ノ物件ナリ然ラハ仮令盜賊  
ニ盜マレ其手ニ落ツルトモ之ヲ指シテ一概  
ニ犯罪ノ物件トハ云フ可カラサルナリ

刑法

最モ此法律中ニテ犯罪ノ物件ト云フ内ニハ  
盗取リタル此時計ノコトヲ含蓄セル積リノ  
如ク見ユレテ決シテ犯罪ノ物件ト見做ス可  
カラス故ニ之ヲ政府ヘ没収スヘキニアラス  
必ラス盗マレタル持主ヘ返典スヘキナリ  
又謀殺等ノ人殺ニハ犯罪ノ物件ト云フコト  
ナシ其人ヲ殺シタルコトハ則犯罪ノ物件ト  
等シキナリ  
人殺盜賊等ニハ其事柄而已ニシテ其物件ト  
シ然カシ其時ニ用ヒタル物ヲ指シテ物件ト  
云フカ  
先キニモ説キシ如ク此法律書ノ犯罪ニ物件  
ト云フハ文章總カナラス

犯罪ノ物件ヨリ生シタル利益ヲ没収スヘキ  
トノコトハ例ハハ贖札ノ犯罪人アリ之レヲ  
遺ヒ出シ其贖札ヲ受取タル他ノ者ニ利益ヲ  
得タル時ハ其利益ヲ犯罪人ヨリ取上ケ之ヲ  
他ノ者ヘ償ヒ渡スヘキヤ又ハ其没収スヘ  
キヤ  
夫レハ他ノ者ノ姓名等分明ナル時ハ之ヲ持  
主ヘ返スヘキナリ  
例ハハ何某ノ著述書ノ偽版ヲ為シタル者ア  
リ其版水等ヲ取上ケ一キハ勿論其偽版ヲ以  
テ得タル所ノ賣徳ヲモ政府ヘ取上ケ夫レヲ  
何某ヘ償ヒ渡スナリ何トナレハ何某ニ於テ  
ハ其偽版アル故自分著述書賣捌ケバ幾多ノ



損失ヲ受ケタル記ニ付夫レハ何某ハ償  
ヒ渡スヘキナリ此事ハ如何

其場合ニ仍賣徳ハ政府ハ没取セム何某ハ渡  
スヘキナリ

偽取ノコトハ別ニ法律アリト虽モ先ツ其製  
本及板木賣徳トモ一切板木ニ下ケ渡スヘキ  
ナリ

竊盜ノ品ヲ取上ケルヤアリ

例ハハ小盜如本者ノ類スリノ日ニ數ケ所ニ  
テ多少ノ品物ヲ盜ミ取り生計ヲ為ス者アリ

夫レヲ捕ヘ其家ヲ搜索シ其多少ノ品物ヲ見  
出シタル時之ヲ盜取ラレタル先キハ返シ  
渡スヘシト為ス然ルニ其先キハ家分明ナ

ラサレハ之ヲ没收スヘキナリ

其時ハ之ヲ犯罪ノ物件ト云ワス犯罪ヨリ生  
シタル物件ト為スナリ

何トナレハ通常其盜取ルヤ以生計ト為シ  
夫レヨリ生シタル品物ト云フ譯ケナリ

竊盜物ハ其持主ヲ探索シ返レ渡スヘキ若シ  
付着シ其盜取ラレタル者分明ナラス弥没收

物ト為スハ其盜取ラレタル者ヲ探索スル  
ニ期限ノ定メアルヘキヤ

固ヨリ持主ヲ見出シタル時ハ返レ渡スヘキ  
ナリ故ニ容易ニ没收セス其終長ク取り置ヘ

キナリ最モ其期限ノ定期ハ遺失物ナレハ持  
主ノ出ル迄ノ定期ヲ一ケ年ト為ス仍テ之レ

同法省

ト同様ノ期限ナルヘシト考ヘリ  
凶國ニテハ女ニ小盗多シ何トナレハ女ノ衣  
服ハ裁縫方中ハ廣ク隠レ所多キ故之ニ品物  
ヲ盗ミ隱スノ便アル故ナリ  
日本ニテモ衣服ノ袖袂ニ品物ヲ隠シ易ク自  
ラ盗取ノ便ヲ得ヘキニ甘小盗ハ多カルヘシ  
今マ説カル所ノ犯罪ノ為ニ用ヒレ物件  
ト云ハ例ヘハ犯人ノ自分ノ力ニテ人ヲ殺シ  
タル時ハ不須言若シ他人ノ知ラサル内ニ其  
刀ヲ以テ人ヲ殺シタル時ハ之ヲ其終取リ上  
テハキヤ又タハ之ヲ本主ヘ返スヘキヤ  
支レハ全ク他人ノ刀ナレハ返スヘキナリ何  
トナレハ其刀ハ固ヨリ犯罪人ニ屬スヘキニ

ノニアラス故ニ其犯罪人ヲ罪ニスル所ニテ  
没収スヘキトニアラス  
例ヘハ若シ遊獵ノ規則ヲ犯シタル時ハ其銃  
器ヲ取リ上クヘシ然カシ其銃器犯人ノ所持  
ノモノニアラカレハ之ヲ取リ上ケサルナリ  
遊獵ノ規則ヲ犯シタル者良好ノ銃器ヲ所持  
シタル時ハ之ヲ其終取上タルモ惣然ニ甘其  
良好ノ銃器ノ代リ品トシテ他ノ尋常ノ銃器  
ヲ出サセ之ヲ取上タルナリ  
何故ナレハ時ニ仍リ遊獵ノ規則ヲ犯シタル  
者ノ内ニテ良好ノ銃器ヲ取上ケラルト尋  
常ノ銃器ヲ取上ケラルトノ幸不幸アリ故  
ニ其平均ヲ得ル為メ代リ品ヲ出サシムルノ

司  
法  
省

知置アルナリ

罰金ハ時ニヨリ附加ノ刑ナリ即チ輕罪ニハ  
本刑ト為シ重罪ニハ附加ノ刑ト為ス、差違  
アリ

死刑ト有期無期ノ徒刑ニハ罰金ヲ附加スル  
コトナシ若シ之レ附加スルナラバ其ニ笑  
フヘキノ甚シキモノナリ最モ其以下ノ刑ニ  
ハ之ヲ附加スルナリ

例一ハ政事犯ヲ罰スル刑ノ内至輕ノ刑ナル  
追放又ハ民權剝奪ハ時ニ寄罰金ヲ附加スル  
コトアリ

何トナレハ追放ノ刑ニ也セラレタル者國境  
一放逐セラル、トモ其犯人有富ノ者等ニテ

別ニ懲戒スヘキ又ケノ困苦ト為ラサル時ハ  
夫レヲ推シ量リ罰金ヲ附加スルコトアリ民  
權剝奪ニ於テモ亦之ト等シキナリ

重罪ト虽モ裁判入費及ヒ損害ヲ概ケタル其  
償ヒハ必ラス之ヲ出サシムヘシ最モ此二件  
ノ金額ヲ出サシムルナリ言渡ストモ之ヲ罰

金ノ部類トハ為サ、ルナリ裁判入費ハ素ヨ  
リ刑事ノ起リタル時ヨリ犯人自ラ負フヘキ  
モノナレバ反リニ政府ニテ立替タル譯ナリ  
又損害ノ償ヒハ素ヨリ之ヲ償ヒ返スヘキ譯  
ナリ

且損害ノ償ヒハ刑ノ部分ニアラス譬ハハ契  
約ヲナシテ人ニ借りタル金ヲ返スモ同様ノ

理ニシテ必ラス償ワサル可カラサケナリ  
竊盜物ヲ追徴スルモ又タ刑ニアラス其所有  
品ノ損失又ケテ盗マレ主ヘ償ヒ返シ満足セ  
シムル記ケナリ  
故ニ此ニツクモノハ刑ノ部類ヘ入レル可カ  
ラス刑ハ犯罪人一人ニ留ルヘキ筈ニ付其犯  
罪ニ屬シタルコトハ都テ其犯罪人ノ存生中  
ニ整調裁決スヘキナリ  
若シ其糾問中ニ犯罪人ノ死シタル時ハ總テ  
其糾問ヲ中止シ其子孫及ヒ死骸ニモ其罪ヲ  
言渡サハルコトナリ  
然カシ其損害ノ償ヒハ其犯人糾問中ニ死シ  
タル時ハ子孫ニ對シテ之ヲ言渡スヘキナリ

裁判入賞ハ固ヨリ刑ニテラス又損害ノ償ヒ  
トハ少シ差違アリ何トナレハ若シ犯人ノ死  
シタル時ハ之ヲ子孫ニ對シ取立ツルヲ能ワ  
サレハナリ  
最モ其刑ヲ言渡シタ後ニ死シタル時ハ之ヲ  
子孫ニ對シ取立ツルヲ得ヘシ  
裁判入賞ノ生スル所以ハ畢竟犯人ニ其罪ア  
ル故ナリ然ラハ犯人ニ於テ其罪ノ有無爰セ  
サル内之ヲ取立ツル能ワス故ニ若シ其罪ノ  
爰セサル内死シタル時ハ夫迄ノ入賞ハ詰リ  
政府ニ於テ浪費ニ遣ヒタル譯ケナリ  
損害ノ償ヒハ裁判入賞ト違ヒ民事ニ於テト  
虽モ出スヘキ記ニ付反令犯人ノ糾問中死ス

司  
法  
省

ルに其子孫ヨリ之ヲ出サシムヘキナリ  
裁判入賞ト損害ノ償ヒトハ真ノ刑ニアラス  
然カシ自ラ刑ノ様ニ成リ居ルナリ罰金及ヒ  
裁判入賞ト損害ノ償ヒトハ之ヲ収メシムル  
為メ、保証トシテ拘留スルヲ得ヘシ若シ  
其同犯三人或ハ四人アル時ハ之ヲ連帶セシ  
ムルナリ

後會ニハ再犯加等ノ解ヲ説クヘシ

裁判入賞ヲ言渡シ直チニ火シタル時ハ之ヲ  
子孫ニ對シ取立ツヘキカ

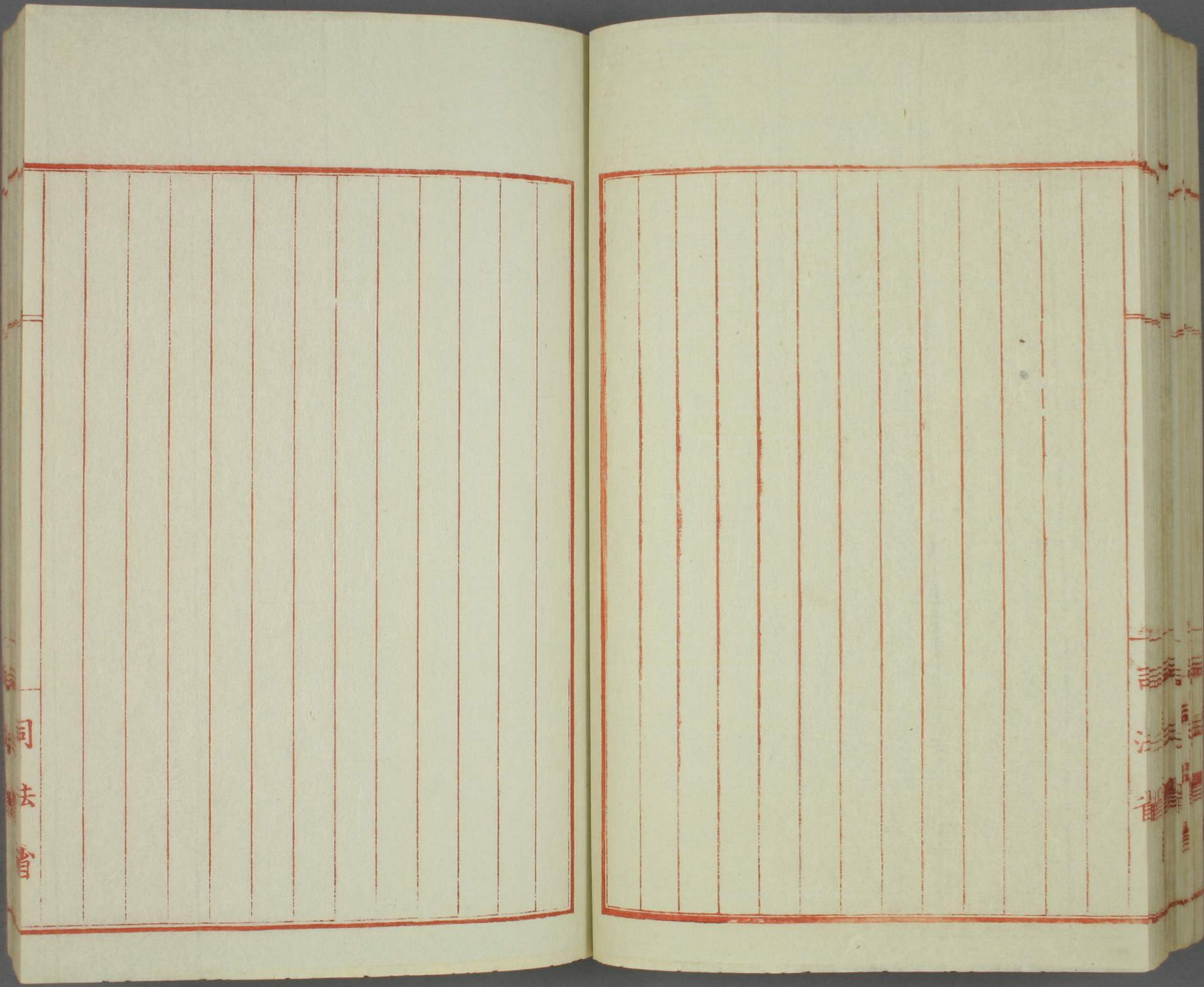
一旦裁判ヲ言渡シタル上ハ己ニ其犯罪ノ刑  
状判然シタル譯ニ自其權利政府ニアリ故ニ  
之ヲ取立ツルヲ得ヘキナリ

裁判入賞ノコトハ民事ニ屬スヘキニ付反令  
之ヲ収メサルトモ支レカ為メ拘留スルハ不  
可ナルナリ

拘留スルト虽モ不可ナシ固ヨリ其拘留ハ之  
ヲ刑スルニアラス権理アル者ニ於テ其保証  
セシムル為メ引當ト為ス譯ナリ

商法ニモ拘留スルコトアリシ最モ之ハ千八  
百六十七年以前ノコトナリ

司法省



司  
去  
會

司  
去  
會

第六號

刑法講義

八年十月七日

刑法講義

刑  
法  
講  
義

刑法講義

八年十月七日

再犯加等ノ刑名ヲ説カントスル前ニ有期ノ  
刑ノ初日ヲ確定スルコトヲ説クヘシ即第二十  
三條第二十四條ノコトナリ  
有期ノ刑ハ何日ヨリ刑期ノ初日ト為スヘキ  
コト確定スルハ肝要ノコトナリ  
何トナレハ其初日ヲ以早ク刑期ヲ始ムレハ  
早ク刑期ヲ終ル故ナリ  
有期ノ刑ハ始終引續キタル期限アルモノナ  
リ故ニ之レハ必ラス人間一生ノ内ニ於テ其  
刑期ヲ過了セシムヘキナリ  
無期ノ徒刑ト雖初日ヲ確定スルハ肝要ナリ  
無期ノ徒刑ニ処セラレ、者ハ即チ其民權ヲ



剥奪セララル、モ固ヨリ無期ナリ然レトモ以此

不分明三語小赦ヲ蒙リ又復權ボヲナスニ必要

ナル故ニ其初日ヲ必ス知ラスヘキナリ

罰金ハ無期有期ノ刑ニアラス然カシ其罰金

ヲ言渡サレタル者ヨリ取立ツヘキ期日ハ之

レニ知ラスヘキナリ

己ニ説ク処ノ内ニテ順序ヲ立弁説スヘシ

先ツ此第二十三條ハ有期ノ刑ニ就テ説キタ

ルモノナリ

此第二十三條ニアル所ハ其言渡サレタル有

期ノ徒刑ニテ例ヘハ十年ノ徒刑ト雖モ其言

渡サレタル日ヲ以刑期ノ初日ト為スニアラ

ス其確定シタル日ヲ以初日ト為スヘキヲラ

去フナリ

有期ノ徒刑ニ処スヘキモノヲ重罪裁判所ニ

テ言渡シタル時若シ其刑ノ改正ヲ大審院エ

上告セントスル時ハ其言渡シタル日ヨリ三

日ノ間ノ猶豫ヲ與フヘキナリ若シ犯人ニ於

テ三日ノ間ニ上告セサル時ハ最初其刑ヲ言

渡シタル日ヨリ四日目ヲ以テ刑期ノ初日ト

為スナリ

三日ノ間ニ上告シタル上ハ大審院ノ決放ア

ル迄猶豫スヘキナリ若シ其上告ヲ退ケラレ

タル時ハ其退ケラレタル日ヲ以確定ト為ス

ナリ

若シ大審院ニテ重罪裁判所ノ言渡ヲ破毀シ

同法

タル時ハ他ノ重罪裁判所工引渡スベシ故ニ  
其裁判ハ又改メテ多少ノ日數ヲ要スヘシ  
其他ノ重罪裁判所ノ裁判ヲモ又改正ヲ乞フ  
時ハ再ヒ大審院江上告スルヲ得ヘシ  
三日ノ猶豫ヲ與ヘ其三日ヲ経テ上告セサル  
時ハ其三日後ヲ以確定ノ日ト為スヘキヤ又  
ハ其最初ノ俛三日前ノ日ヲ以確定ノ日ト為  
スヘキヤ

三日後ヲ以確定ノ日ト為スナリ

現今日本ニテハ三日前ヲ以確定ノ日ト為セ

リ尤之レヲ制定セシ時ハボアソナードモ一

應質問シタル苦ナルヘシ

佛國ニテハ三日ノ間ハ上告ノ有無ニ拘ラス

其刑期ノ日數中ニ算入セサレ氏其三日ヲ以  
算入スルハ良法ナリ尤仏國ニテモ輕罪ハ之  
レヲ算入シ重罪ハ算入セサルナリ即チ第二  
十四條ハ之レニ当ルナリ

第二十四條ノ所ハ輕罪ニ就テ説ケルナリ

若シ留メ置ニナリタル者ハ更ニ禁錮ノ刑ヲ  
言渡シ控訴又ハ上告ヲ不為時ハ即郡裁判所  
ヨリ最初言渡シタル日ヲ以テ禁錮ノ刑期中  
ニ算入スルナリ

尚メ置ノ間ハ同シク禁錮ノ刑ニ處セラレタ  
ルモノト見做ナリ若其犯人伎リニ解除ヲ受  
ケ出獄セシ時ハ其刑ノ確定シタル日ヲ以初  
日ト為ナリ

犯人ヨリ上告控訴ヲ為シ勝訴ト为リ其刑ノ減等ヲ得タル時ハ郡裁判所ニテ最初其裁判ヲ言渡シタル日ヲ以初日ト為シ之レヲ刑期中ニ算入スルナリ

何トナレハ最初ノ郡裁判所ノ裁判ニ於テ誤リアルトモ其誤ノ為メニ別ニ初日ヲ改ムル時ハ自ラ日數ヲ増シ犯人ノ為メ懲罰スヘキ故ナレハナリ

若シ檢事ヨリ控訴又ハ上告ヲ為シ其檢事ニ於テ敗訴トナリタル時ハ其控訴上告ノ為メニ犯人ハ其害ヲ加ヘバキコニアラス故ニ矢張最初ノ郡裁判所ニテ言渡シタル日ヲ以初日ト為シ刑期中ニ算入ス

且檢事ノ勝訴ト为リタル時モ同様最初言渡シタル日ヲ以刑期中ニ算入ス

畢竟其控訴上告ノ為メニ刑期ヲ延シ犯人ヲ苦メサル主意ナリ

檢事ノ控訴上告ニ付テハ其是非ニ拘ワラス總テ最初ノ裁判ノ日ヲ以刑期ニ算入スヘシ輕罪ニテモ最後ノ裁判確定ノ日ヲ初日ト為シ執行セサル可カラサルノ一事ナリ

若シ犯人ヨリ控訴上告ヲ為シタルトモ最初ノ裁判ノ如ク改正ナラサル時ハ固ヨリ其犯人ノ見込違ニ付即チ之レヲ最後ニ確定シタル日ヲ以初日ト為スナリ

輕罪ハ重罪ニ比スレハ總テ寛裕ニ取扱フナ

リ故ニ輕罪ニ就テノ方恣ハ余程道理ニ當レ  
ルナリ

重罪ト雖モ矢張檢事ノ上告ノ時ハ最初ノ日  
ヲ以確定ト為ス可シ然ルヲ最後ノ言渡ヲ以  
確定ノ日ト為スハ道理ニ當ラサルナリ

重罪ニテ自分ヨリ上告シ勝訴ト为リタルカ  
又ハ檢事ノ上告ナレハ最初ノ確定ノ日ニ戻  
ラスシテ初日ヲ筭スルハ固ヨリ道理ニ當ラ  
サルナリ

及令檢事ノ上告ニテ其刑ハ重ク成ルトモ固  
ヨリ其裁判上ノ可否ハ犯人ニ拘ワル可キニ  
アラサレハ最初ノ日ヲ以テ確定ト為スヘキ  
ナリ

然ラハ重罪モ輕罪同様最初確定ノ日ヲ以テ  
初日ト為スヲ可ナリト云フカ

重罪ト雖モ輕罪ト同様ニ為ス可シ然ラサレ  
ハ其道理ニ當ラサルナリ

然カシ犯人ヨリ自ラ上告シテ敗訴シタル時  
ハ自己ノ勝手ヲ以刑期ヲ延シタル款ニテ固  
ヨリ自ラ為セル禍ヒナレハ不得已ナリ  
再犯加等ノ事ヲ説ク可シ

第五十六條以下ノ刑法中ニハ刑名ヲ記シタ  
ル丈ケノ再犯加等ニ就キ説ケル而已ニテ之  
レニ拘ラサル者ノ再犯シタル時ハ如何ント  
云フナシ故ニ先ツ其再犯ニ付説クベシ  
再犯ト云フ事ハ一旦重輕罪オヲ犯シ已ニ罰

セラレタル者ノ再ヒ罪ヲ犯シタルコトナリ  
之レハ必ス最初ノ犯罪ト同等ノ罪而已テ以  
テ再犯ト云フハキニアラス  
仮令ニ罪三罪ヲ犯シタル者ト雖モ裁判所ニ  
テ其刑ヲ受ケサルモノハ之レヲ再犯トハ云  
ワス必ス一度罰セラレタル者ニ限ルベシ  
再犯加等ノ主意ハ一度重罪ヲ以罰シタル  
ヲ悔悟セス再ヒ其罪ヲ犯シタル者ナリ故ニ  
之レヲ重ク罰スルハ畢竟人民一般ノ公益ニ  
於テ其害ヲ為スノ恐れアル故ナリ  
再犯シタル者ヲ罰スルハ其初犯ノ罪ヲ重子  
テ罰スハキニアラス只其重キニ從テ之レヲ  
罰スルナリ

若シ其初犯罪ニ溯リ之レヲ罰スル時ハ期滿  
得免モ同シク其初犯ニ溯リ日數ヲ算スハキ  
理ナリ

故ニ其更ニ犯シタル罪ヲ以罰スヘキト為シ  
又期滿得免モ其初犯ニ溯ルハキニアラサル  
コト、為セリ

已ニ輕罪ヲ受ケタル者期滿得免ヲ得タル後  
ニ至リ再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ矢張再犯ト見  
做ス可キ乎

訴訟法ノ期滿得免ハ刑法ノ期滿得免ノ半分  
ナリ

故ニ重罪刑言渡ヲ受ケサル者ハ十年ト為シ  
已ニ其言渡ヲ受ケタル者ハ二十年ト為スヘ

シ  
輕罪ハ同ク三年同五年

違警罪ハ同ク一年同ク二年ト為スヘシ  
若シ其訴訟中ニ逃亡シ又ハ其刑ヲ言渡サレ  
タル後逃亡シ遂ニ其刑期ノ期限ヲ過キタル  
時ハ再ヒ之レヲ裁判セス無期ノ徒刑ト虽二  
十年ヲ過キタル時ハ之レヲ免除スルコトハ  
為セリ

無期ノ徒刑ニテ二十年ヲ過キタル時ハ再犯  
ト為サ、ル乎

及令二十年ヲ過キタルトモ再ヒ罪ヲ犯シタ  
ル時ハ矢張再犯ヲ以論スヘキナリ  
期滿得免ヲ言渡サレタル者ト雖モ全ク其罪

ノ消滅シタルニアラス故ニ再ヒ其罪ヲ犯シ  
タル時ハ已ニ一旦罰セラレタルコトニ懲リ  
サル罰ケニ付固ヨリ再犯ト為スヘキナリ  
政府ノ小赦ニテ免除セラレタル者ト雖一旦  
言渡サレタル罪ハ消滅スヘキニアラス故ニ  
是亦再犯ヲ以論スヘシト為ス  
大赦ハ小赦ト違ヒ一旦之レヲ受ケタル時ハ  
其罪全ク消滅スヘシ故ニ再犯ヲ以論セサル  
ナリ

再犯加等ノ順序ヲ説クヘシ

第一 初犯重罪ニテ再犯重罪ナレハ固ヨリ  
之レヲ重クスヘシ

第二 初犯重罪ニテ再犯輕罪ナレハ輕罪ノ

再犯ヲ以之レヲ論スヘシ

第三 初犯重罪ニテ再犯違警罪ナレハ更ニ加等ヲ以重クスルコトナシ

第四 初犯輕罪ニテ再犯重罪ナレハ更ニ加等スルコトナシ何トナレハ固ヨリ重罪ハ輕罪ヨリ重ク罰スヘキニ付則其再犯ノ重罪ノ本刑ニテ十分ナレハナリ

第五 初犯輕罪ニテ再犯輕罪ナレハ之レニ加等シ重クスルナリ

第六 初犯輕罪ニテ再犯違警罪ナレハ更ニ加等ヲ以重クスルコトナシ

第七 初犯違警罪ニテ再犯違警罪ナレハ之レニ加等シ重クスヘシ

第八 初犯違警罪ニテ再犯重罪ナレハ更ニ加等ヲ以重クスルコトナシ

初犯重罪ニテ再犯モ又重罪ノコトニ付再説スヘシ

初犯重罪ト虽モ其時酌量輕減ニテ輕罪ニ罰セラレタルモノハ其再犯ノ重罪ニ加等スルニ就テハ格別寛裕ニ処スヘキコトニ為ス

例ハハ初犯ノ重罪ヲ酌量輕減ニテ五年ノ禁錮ニ罰セラレタル者ニテ再ヒ重罪ヲ犯シ其重罪ノ無期ノ徒刑カ又ハ有期ノ徒刑ニ相当スヘキモノハ其刑ヨリ別ニ加等スルコトナシ

初犯ハ重罪ト虽モ其時酌量輕減ニテ輕罪ニ

罰セラレタル者ハ即チ全クノ輕罪同様ニ見  
做スヘキナリ

若シ初犯重罪即施体加辱ノ刑ニテ再犯モ同  
様ナル時ハ本刑ヨリ一等ツ、上ケテ加等ス  
ルアリ

例ハハロクリシヨシノ再犯ハ有期ノ徒刑ニ相  
当スルナリ尤其時ハ必シモ有期ノ徒刑ノ内  
第一ノ長期二十年ヲ言渡ヘキコト、為サス  
依令其相当ノ刑期ヨリ五年ヲ重クスルトモ  
法律上ニ於テハ矢張加等シタルコト、見做  
スナリ

初犯有期ノ徒刑ニテ再犯モ同様ナル時一等  
ヲ上ケ加等スレハ即チ無期ノ徒刑ニ相当ス

ルナリ然レ之レハ余リ苛酷ニ失スルヲ以直  
ニ無期ノ徒刑ト為サス初犯刑タル有期ノ刑  
ニ処ス止々其刑期ニ加等スルナリ

例ハハ初犯十年ナレハ其再犯ヲ二十年ト為  
シ又ハ初犯二十年ナレハ之レニ倍シ四十年  
ト為ス等ナリ

政事ノ刑モ同様初犯追放ノ刑ニテ再犯モ又  
追放ニ相当スヘキ時ハ囚獄ノ刑ニ処ス

若シ初犯囚獄ニテ再犯囚獄ノ刑ニ相当スヘ  
キ時ハ徒刑ト同様ニ為ス

若シ初犯囚獄ニテ再犯無期ノ徒刑ニ相当ス  
ヘキ時ハ死刑ニ処セス矢張無期ノ徒刑ト為  
スナリ



然テ再犯加等ノ詠ケテ以死刑ト為スハ甚苛  
酷ニ失スルナリ然シ其死刑ヲ言渡スコトア  
リ即チ初犯無期ノ徒刑ニテ再犯無期ノ徒刑  
ナレハ死刑ト為ス尤無期ノ徒刑ナレハ固ヨ  
リ再犯スヘキ苦ニアラサレ凡刑場ヲ逃云シ  
タル等ニテ再ヒ罪ヲ犯シタル時ヲ云フナリ  
初犯有期ノ徒刑ニテ再犯有期ノ徒刑ナレハ  
幾度ニ至ルトモ矢張有期ノ刑ヲ以処スルナ  
リ  
若シ初犯無期ノ徒刑ニテ再犯無期ノ徒刑ナ  
レハ他ニ方法ナク不得已死刑ト為スナリ  
初犯ノ重罪ヲ酌量輕減シ有期ノ徒刑ト為シ  
タル者ハ若シ其再犯施体加辱ノ刑ニ当ルト

虽之レニ加等スルコトナシ  
若シ初犯ノ重罪ヲ酌量輕減ニテ輕罪ト為シ  
再犯モ又箇様酌量輕減スヘキ時ハ其輕罪中  
ノ刑ヲ以加等スルナリ  
例ハハ之レヲ酌量輕減シ五年ノ禁錮ニ相当  
スヘキ時ハ十年ノ禁錮ト為ス等ナリ  
真ノ輕罪ヲ犯シ一ケ年以上ノ禁錮ニ処セラ  
レタル者ノ再犯輕罪ナル時ハ初犯ト同シク  
禁錮ニ処シ只其刑期ノ五年ニ処シ又ハ其期  
ヲ十年迄延スヲ得可シ  
夫レハ五年以下ニテモ然カル可シ例ハハ初  
犯一ケ年ノ禁錮ト為シタル者ハ之レニ倍シ  
二年ノ禁錮ト為スヘキナリ

法律上ニ於テ得<sup>レ</sup>バシトノ字アリ故ニ必スシ  
モ十年ナラサル可カラサルトノ意ニアラス  
即チ五年以下ノ禁錮ト為シ置クトモ苦シカ  
ラス

初犯重軽罪ニテ再犯違警罪ナレハ初犯ノ重  
軽罪ニ関係ナシ

又タ例ハ初犯夜中無提燈ニテ往來スルヲ  
禁スル等ノ違警罪ヲ犯シ重罪ヲ再犯シタル  
時ハ少シモ其初犯ニ関係ナシト為ス

初犯違警罪ニテ再犯違警罪ナレハ之レヲ懲  
戒セシムル為メ必ス加等スヘキト為ス

若シ之レヲ加等セサル時ハ日々其違警罪ヲ  
犯ス者多カルヘキ故ナリ

違警罪ノ加等モ五日ヨリ十日迄ノ内ヲ以加  
等ト為スヘキヤ

然リ尤違警罪ノ再犯ハ佛國ニテハ一ケ年中  
ニ初犯ヲナシタル同シ邑内ニ再犯ヲナスヲ  
要ス

故ニ一ケ年ヲ過キテ再犯スレハ再犯ヲ以テ  
論セス

又タトハ一年中ト虽モ地ヲ換エレハ再犯ヲ  
以テ論セス

罰金ノ再犯ハ如何

罰金ノ再犯ハ其罰金ヲ以之レヲ重クスルナ  
リ  
例ハ初犯ノ違警罪ハ罰金又ハ禁獄等ノ差

別ニ拘ワラス再犯ノ時罰金ニ当ルハキモノ  
ハ其罰金ヲ以之レヲ重クスルナリ一  
体此主意ハ死刑以下何ノ罪ニテモ之レヲ以類推ス  
ハキナリ

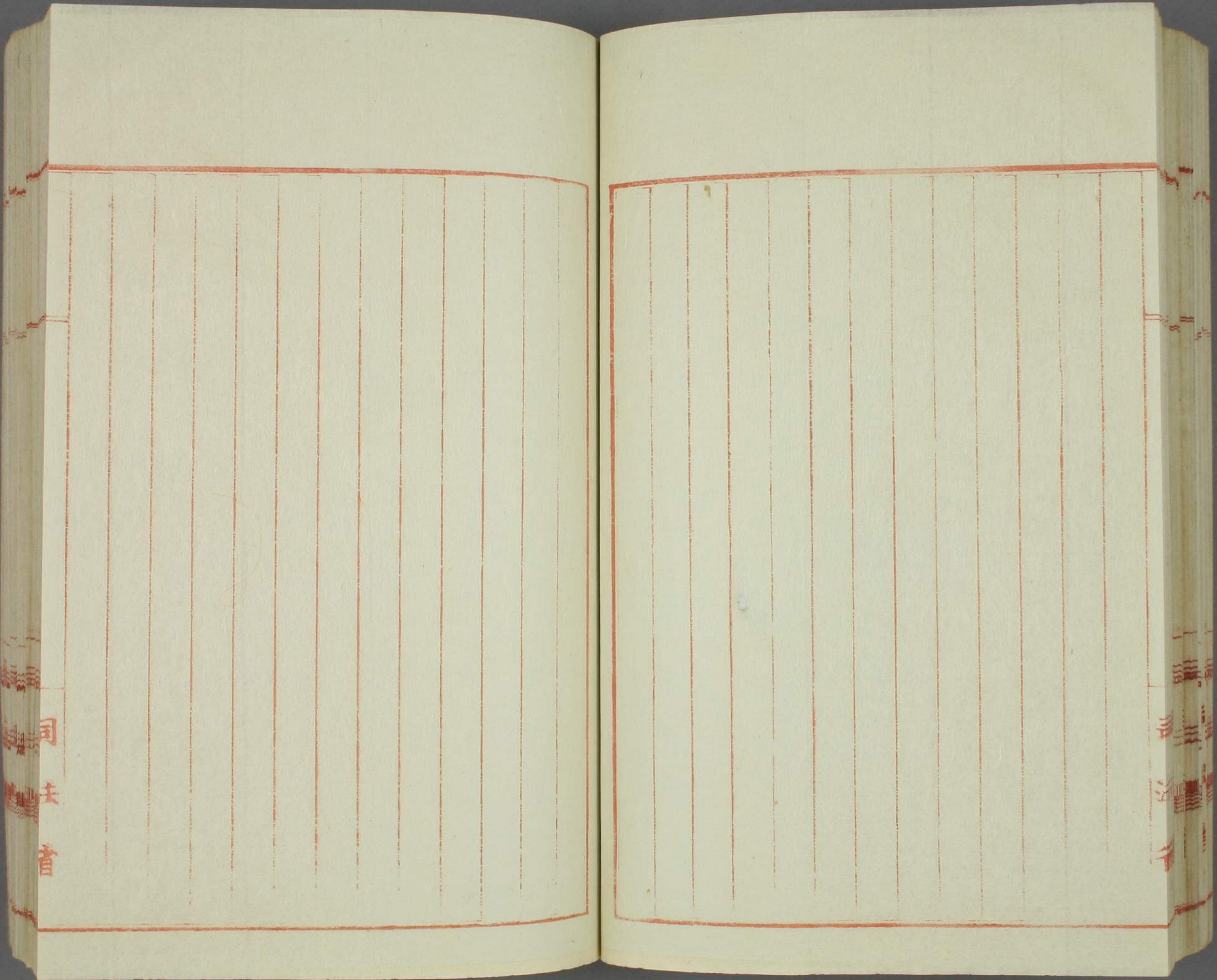
輕罪中ニハ罰金アリ其再犯ニハ必ラス其罰  
金ノ金額ヲ以テ加等スハキヤ

初犯ハ輕重罪禁獄罰金等ニ拘ワラス再犯罰  
金ナレハ其罰金ノ金額ヲ増シ加等スハキナ  
リ  
已ニ説ク所ハ刑法ノ原則ト為スハキモノナ  
リ

此後會ニハ其條目中ニ就テ之レヲ説クハシ  
初犯流刑ニテ再犯流刑ニ当ル時ハ無期ノ徒

刑ト為スナリ之レハ政事ノ罪ニテ死ニ至ラ  
シムハキ者ニアラサレハナリ

司  
法  
官



司  
去  
音

司  
去  
音

第七節

刑法會議筆記

八年十月十日

刑法會議筆記

十月十日

刑法會議

再犯加等ハ佛國ニテハ再犯以上三四犯ニ至  
ルトモ其三回犯ヲ以テ一ニ之レニ加等スル  
コトナク必ス再犯ヲ以テ論スルナリ  
然カニ再犯以上三四犯ヲ重クシ之レニ加等  
スル場合アリ之レハ刑法第百零九條ノ僧侶ニ  
於テ身上証書ニ管スル官吏ニ先テ婚姻ノ教  
礼ヲ行ヒシ者之レナリ  
刑法中ニハ只此一ヶ所ナリ  
佛國ニテハ婚姻ノ式ヲ行フニ等一戸長ノ行  
フヘキ若シテ其前ニ先テ僧侶ニテ之レヲ  
行フコト能ハス故ニ若シ之レヲ犯ス時ハ

初犯ヲ 百フランクノ罰金ト爲シ  
再犯ヲ 禁錮ノ刑ト爲シ  
三犯ヲ 囚獄ノ刑ト爲ス  
此加等ハ 不都合ノコトナリ  
何トナレハ 初犯ハ罰金再犯ハ禁錮ニテ等シ  
ク輕罪ナリ然ルニ三犯ハ囚獄ニテ重罪ニ當  
ル故ナリ  
其他再犯以上ノ加等ニ付特別ノ法ナリ即チ  
税関ノ規則ヲ犯シタル者不直税ノ規則ヲ犯  
シタル者漁獵ノ規則ヲ犯シタル者ナリ然カ  
レ之レハ何レモ輕罪ナリ  
再犯以上三四犯ヲ以加等スルハ法律ノ本旨  
ニ適ワス

且再三再四等逐次ニ加等スル時ハ其刑逐ニ  
至重ノ極ニ至リ大ニ衆人ノ爲トニ害ナル  
ナリ  
故ニ日本ニテ之レヲ設リ可キカ之ハ設リ可  
カラザルカト云ハ設ケサルヲ以可ト爲ス  
再犯ノコトニ付法律上ニ於テ之レヲ論スハ  
佛國ニテ再犯ノ加等ハ本刑ヨリ一段宛其刑  
ヲ重クスルナリ之レハ政羅巴中大概同様ナ  
リ  
然レモ自分ノ業スルニハ本刑ヨリ一段宛其  
刑ヲ重クスルヨリ本刑中ニテ刑期ヲ加等ス  
ルヲ以可ナリト爲ス

司  
法  
省

例ハハ初犯有期ノ徒刑ノ五年ニ該ルモノナ  
ラハ再犯ハ其十年又二十年ニ知スル等ナ  
リ  
法律上ニ於テモ原則ニ甚適セサルコトアリ  
何トナレハ本刑ヨリ一段宛上ケテ重クスル  
ト云フ原則ナリ  
然ルニ有期ノ徒刑ノ者ノ再犯シタル時ハ之  
レヲ直チニ一段上ケテ無期ノ徒刑ト為サス  
矢張有期ノ徒刑中ニテ長期ノ二十年又ハ其  
一倍四十年迄刑期ヲ延スルヲ得可レハナリ  
且一段宛上ケル時ハ時ニ寄極重キコトアリ  
リ或ハ極輕キコトアリ  
若シ初犯徒場<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>驅役ノ刑ノ八年ニテ再犯<sup>レ</sup>同

刑ニ當ルヘキ者ヲ一段上テ有期ノ徒刑ニ知  
シ其刑期ヲ五年ト為ス時ハ其名而已重クシ  
テ其実ハ刑期ノ短クナル誤ケナリ故ニ自分  
ノ業スルニハ矢張其驅役ノ刑ノハニテ其刑  
期ヲ加増シ十年カ又十五年ト為スヘシ  
佛國ノ刑法ニハ有期ノ徒刑ト囚獄ノ刑トハ  
一段ツ、上ケテ重クスルコトナリ只其刑期  
ヲ加増スルヲ以テ差別アル而已ナリ  
然テハ驅役ノ刑モ同様其刑中ニテ刑期ヲ以  
テ加等スヘシ  
初犯追放重罪ニテ再犯追放ノ刑ニ當ル者ハ  
昂<sup>ク</sup>テ<sup>レ</sup>タン<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ヨ<sup>シ</sup>ノ刑ニ當ル然レ<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>モ  
矢張十年ノ追放ニ据置コト、為スヘシ

司  
法  
省



故ニ此再犯加等ノ段指ハ能熟考シテ定ムヘキナリ

重罪ノ内ニ一段ヲ上ケ重クスルヲ以テ可ナリト為スヘキ一事アリ

初犯民権剥奪ニテ再犯民権剥奪ノ時ハ一段ヲ上ケテ重クスル方然ル可シ何トナレハ民権剥奪ハ元来無期ナル者故又民権剥奪スルニ加等ノ効ナシ如期ナス可シ

二罪俱発ノコトヲ説クヘシ  
二罪俱発ハ再犯ト粗相似タル所アリト虽モ其実大ニ違フ所アリ

再犯ハ一度罪ヲ犯シ己ニ其刑ヲ受ケシ後又再ニ罪ヲ犯シタル者ニアラサレハ之レヲ再

犯ト為リ加等スルコト能ワス數罪俱発ハ再犯ニモ當ルヘキ數件ノ罪犯ノ一時ニ發覺シタル者ヲ云フ之レハ治罪法第百六十五條第ニ項ニ明文アリ

二罪俱発ノ明文ハ刑法中ニ入レテ當然ナリ然ルヲ何故治罪法中ニ入レシ歟ケナルヤ其由ル所ノ如何シテ質問セン

然リ固ヨリ刑法中再犯加等ノ次ニ數罪俱発ノ明文ヲ入レテ當然ト為スヘシ則自分此所ニテ説キ及フ所以ナリ

數罪俱発ノコトハ訴訟ノ手續ニ屬スヘキモノニアラス  
數罪俱発ハ其一罪毎ニ就ニ皆尽ク之レヲ罰

スルカ又ハ數罪中第一重キ罪ニ就テ之レヲ  
罰スルカノ規則ヲ定メ再犯加等ノ余ノ次ニ  
入レ置クヘシ

數罪俱全ノ者ハ其一罪毎ニ就テ尽ク之レヲ  
罰スルトモ然ル可キニ似タリ故ニ之レヲ合  
算シテ罰スルカ又ハ其内第一重キ所ノ罪ニ  
就テ罰スルカノ法方ハ能講究シテ定ムヘキ  
ナリ

然カレ其數罪ヲ合算シテ罰スルコトハ決シ  
テ行フコト能ワサルナアル可シ何トナレハ  
或ル盜罪ハ有期ノ徒刑ナリ

故ニ若シ十度犯シタル盜ノ罪一時ニ發覺シ  
タル時其徒刑ノ刑期ヲ合算スレハ百年以上

ノ徒刑ニ処スヘキ理ニシテ到底之レヲ行フ  
コト能ワサル況ケナリ且其數罪ヲ合算スル  
時ハ又甚ク苛酷ニ失スルノ害アリ

故ニ之レハ能ク講究シテ定ムヘキナリ  
再犯ノ者ヲ加等シテ重ク罰スル所以ハ何ト  
ナレハ一旦罪ヲ犯セシ時ニ其惡事タルコ  
トヲ諱メテ之レヲ罰セシニ尚其罰ニ懲リサ  
ルノ罰ヲモ含ム意味アレハナリ

故ニ再犯ハ必ラス加等シテ重ク罰スヘキナ  
リ數罪俱全ノ者ハ未タ一度モ之レヲ罰シテ  
懲ラシメタルコトナリ再犯ニ比スレハ自ラ  
差違アリ故ニ先ツ其數罪中ノ重キモノヲ以  
テ罰スル而已ナリ

テ罰スル而已ナリ

此再犯ト數罪俱發トシテ罰スルノ輕重等差ハ  
能ク注意スヘキコトナリ  
仮令數罪俱發ノ者ヲ合算スヘシト爲ストモ  
到底其刑ヲ重キテ罰スル能ワサルコトナ  
リ  
例ハ追放ノ刑ト囚獄ノ刑トテ重スル時ハ  
一挙ヲ以テ之レヲ放テ之レヲ留ムルノ兩全  
ヲ得ント欲スルモノナリ  
之レヲ到底行フ可カラサルコトナリ  
故ニ數罪中一罪ノ重キモノヲ以テ言渡スコ  
ト、爲シタリ  
且數罪俱發ハ只犯人而已ノ罪トモ爲シ難ク  
公衆ニモ自ラ罪ナキニアラス何トナレハ其

公衆ノ取締嚴ナレハ其一罪ヲ犯シタル時ニ  
於テ直ニ之レヲ罰スヘシ然ルニ之レヲ罰セ  
スレテ遂ニ數罪ヲ犯サシムルニ至ルハ畢竟  
其公衆ノ取締ノ嚴ナラサル所ナレハナリ  
又其數罪中ニテ何ノ罪ヲ以テ第一重シト爲  
スコトヲ審判スルハ最所要ナリ  
然カシ之レヲ説ク前別ニ一言説ク可キコト  
ナリ  
治罪法第百六十五條第ニ項ハ時ニ寄取除  
ケト爲ルコトナリ  
盜罪ヲ爲セシ時ニ於テ人ヲ殺ス者ナリ其故  
殺ト鬪殺トニ拍ワラス盜罪ト人殺トノ二罪  
ノ内ニテ重キ一罪ヲ以テ論スレハ無期ノ徒刑

司  
法  
省

ニ為スヘキナリ然ルヲ之レヲ死刑ト為スナ  
リ  
此時ハ二罪俱発ノ重キヲ以テ論スルノ誤ケ  
ニアラス自ラ二罪ヲ重キヲ罰スルノ姿ナ  
リ  
此件ハ刑法第百四條ニ明文アリ  
第ニ項ハ人ヲ殺スト他ノ重罪ト一犯中ニテ  
相牽連シタルモノニアラス云々前ニ同云  
第ニ項ハ他ノ重罪ト人殺ト一犯中ニテ相牽  
連シタルモノナリ云々前ニ同云  
此場合ニ於テハ二罪俱発ヲ重キヲ罰スル  
云可カラス全ク其人ヲ殺シタル情状ノ重キ  
ヲ推シ究メタル意味ナリ

法律上ニテハ其情状ノ重トヲ推シ究メタル  
意味ナレ氏然カレ一体ノ本旨ハ二罪俱発ヲ  
重キヲ罰スルノ所為ヲ含メリ故ニ今様ノ場  
合ニ於テハ治罪法ノ第百六十五條ハ全ク  
不用ニ屬セリ  
一ノ重罪ハ無期、徒刑ナリ又他ノ重罪モ同  
レク無期、徒刑ニ當ル時ハ如何ントモ此無  
期ノ徒刑ヲ重キヲ罰スルコト能ワス故ニ此  
時ハ全ク別ナル所、他ノ刑ヲ以テ之レヲ罰  
スル誤ケナリ  
刑法第百四條第ニ項ハ他ノ重罪ト其人ヲ  
殺シタルト一犯中ニ牽連シタルモノナリ  
例ハハ二人ニテ重罪ヲ犯シ其一人ヲ逃亡セ

刑法  
第百四條

シムル爲ノニ追捕ノ人ヲ殺ス等ノコトナリ  
故ニ二罪ト虽モ必ラス相牽連シタルモノナ  
リ  
然カシケ様ナル犯罪ハ常ニ相牽連スルモノ  
ナリ故ニ人ヲ殺スニハ第一項ノ場合多シ  
然カシ又例ハ人ヲ殺シタル時ニ當リ他人  
ノ来リ之ヲ防キタルガ爲メニ又其其他人ヲ  
殺シタルモノハ第一項ニ屬セス第一項ノ部  
類ニ入ルノナリ  
或ヒハ酒興ニ乘シ三人ニテ爭論シ遂ニ其二  
人ヲ二度ニ殺シタル時ハ死刑ニ処ス  
通常ノ人殺ニテハ必ス二度昂テ二罪ニアラ  
サルハ死刑ニ処セサルナリ

人ヲ殺シタル後幾分間カノ時間ヲ経テ又人  
ヲ殺シタル者ニアラサレハ死刑ニ処ス可カ  
ラサルナリ  
例ハハ銃丸ノ一発ニテ二人ヲ殺シタル時ハ  
一罪ナリ故ニ死刑ニ処セサルナリ  
法律上ノ主意ヨリ之レヲ論スレハ一罪ニテ  
人ヲ殺スハ道德ヲ損スルコト至テ少シ二罪  
ニテ人ヲ殺スハ道德ヲ損スルコト甚ク大ナ  
リ何ントナレハ最初人ヲ殺シタル時ニ於テ  
己ニ其非ヲ悔ヒ思ヒ止ルヘキ者ナリ然ルニ  
之レヲ顧ミス又再ヒ人ヲ殺ス等其心実ノ苛  
悪ナルヲ以テナリ  
一席上ニテ二人ヲ殺シタルハ二罪ト爲スヘ

刑法

キヤ銃丸ノ一発ヲ以テ二人ヲ殺シタルトハ  
自ラ差別アルヘシ

名村ノ一刀ニテ鶴田ヲ殺シ又他ノ者ヲ殺シ  
タル時ハ二罪ニテ死刑ナリ然シ一発ノ銃丸  
ニテ二人ヲ殺シタル一罪ト為スヘキナリ  
自分ハ余リ第一項ノ主意ヲ取ラス故ニ之レ  
ヲ採用スヘシト主張スルコトヲ欲セス第一  
項ノ主意ハ當然ノコトトシ思ヘリ  
第一項ハ他ノ罪ヲ犯サンガ為リ其妨ケトナ  
ル人ヲモ殺シ遂ニ其惡ヲ逞フスル譯ニテ人  
間ノ公益ヲ害スル甚ク大ナリ且已レノ已ニ  
テ犯シタル罪ヲ隠サレガ為リ人ヲ殺スカ如  
キハ其道徳ヲ損スルコト又甚ク大ナリ

然シ二罪ヲ犯シ初メ一度人ヲ殺シタルハ死  
刑ニ処セスレテ只其二度目ナル故ヲ以テ死  
刑ニ処スルハ不都合ナリ  
例ヘハ六ヶ月以前ニ鬪殺シ六ヶ月以後ニ盗  
罪ヲ為シタル時ハ如何此第一項ニ依レハ死  
刑ニ処スヘキナリ  
此第一項ハ他ノ罪ヲ犯サンカ為リ其先キニ  
人ヲ殺シ又ハ他ノ罪ヲ犯セシ後ニ人ヲ殺シ  
タルモ同シク死刑ト為スナリ  
例ヘハ盗罪ヲ先キニシ人殺ラ後ニスルカ又  
ハ人殺ラ先キニシ盗罪ヲ後ニスルトモ同ク  
死刑ト為ス等ナリ  
然レモ先ノ罪ト後ノ罪ト其罪ヲ異ニシ其時

司  
法  
省

ラ異ニシ其場所ヲ異ニスレハ其念慮モ自ラ  
異ナルヘシ然ラハ之レヲ以テ罪一項ノ如ク  
重ク罰スルハ不都合ナリ  
故ニ此罪一項ノ主意ハ己ニ一罪ヲ犯シタル  
其場所ニ同時ニ又一罪ヲ犯シタルモノト為  
セハ可ナリ  
此罪一項ト罪二項トヲ除クノ外ハ二罪俱発  
ハ何レモ其内一罪ノ重キニ從テ罰スヘキコ  
ト、為ス  
二罪俱発ノ内其重キヲ審判スルコトヲ説ク  
ハシ  
二罪トモ重罪ナル時ハ其内ニテ一ツノ重キ  
刑ヲ認得ルハ易シ何トナレハ流刑ヨリ無期

ノ徒刑ヲ以テ重シト為ス如ク重罪ノ八刑中  
ニテ下ヨリ上ヘ順次ニ上ケテ之レヲ見レハ  
直ニ其輕重ヲ認メ得ヘキナリ  
輕罪ト重罪トノ二罪中ニテ其重罪ヲ重シト  
為スハ是亦言フヲ須タスレテ認得易シ  
ニツノ輕罪中ニテ一ツハ禁錮一ツハ罰金ト  
為スヘキ者アリ其禁錮ノ刑期ハ少ク罰金ノ  
金高ハ多シ例ヘハ六日ノ禁錮ヲ犯シ又三午  
ヲラシクノ罰金ヲ犯シタル時ハ六日ノ禁錮  
ヲ重シト為スカ三午ヲラシクノ罰金ヲ重シ  
ト為スカ法律上ニテハ六日ノ禁錮ヲ重シト  
為ス然シ其六日ト三午ヲラシクトヲ以テ実  
情ヨリ之レヲ論スレハ六日ヲ輕シト為スヘ

刑罰法

シ若シ又之レラ二百日ノ禁錮ト為ス時ハ禁錮ヲ重シト為ス一シ  
故ニ法律上ニテ輕罪アル所ト実情上ニテ輕重スル所ト自ラ矛盾スルコトアリ然カレ法律上ニテハ金高ノ多少ニ拘ワラス仮令其日數ハ少クトモ罰金ニ比スレハ禁錮ヲ以テ重シト為スヘキナリ  
此場合ニ於テハ立法官モ未タ其差別ヲ立テス故ニ此輕重ヲ認得ルコトハ甚々難シト為ス  
出板條例中ニ禁錮ト罰金トヲ合セテ罰スルコトアリ然レ現今ハ己ニ廢セリ  
自分ノ業スルニハ日本ニテハ輕罪ノ二罪俱

テハ合セテ罰スルヲ以テ可ナリト為ス則罰金ト禁錮トヲ合セヘキ等ナリ  
輕罪中四罪ニ當ルヘキ者アリ然カレ二罪ハ罰金ニ罪ハ禁錮ト夫々分裂シタル罪アル者ヲ云フニアラス例ヘハ罰金ト禁錮ト牽連相重ナリタル時ヲ云フ  
之レハ固ヨリ罰金ト禁錮ト各其一罪ニ就テ罰スルノ外別ニ言渡スヘキニアラス  
ニ罪中ニテ罰金ト禁錮トヲ言渡スニハ子細ナシ  
佛國ニテハ一罪ヘ二罪ヲ言渡シ又其上民權剝奪ヲ言渡スナリ  
或ル重罪ニハ罰金ヲ言渡スコトアリ

司  
法  
省



輕罪ノ罰金ト禁錮トラ合セテ言渡スハ可ナ  
リ然カシ重罪ノ禁錮ト輕罪ノ罰金トラ犯シ  
タル時ハ重罪ノ禁錮而已ニテ然ル可シ  
固ヨリ重罪輕罪俱登ノ時ハ重罪而已ニテ十  
分ナリ然カシ輕罪ノ内ニテハ時ニ寄一罪而  
己ニテ不十分ナル場合アリ故ニ罰金ヲモ重  
テテ言渡スコトアリ

司  
去  
省

第八號

刑法會議筆記

八年十月十二日

司法部  
刑法司  
會議

司法部  
刑法司  
會議

刑法會議

八年十月十二日

數罪俱發ハ其内一罪ノ重キモノヲ以罰スル  
原則ナリ然レ其原則ニ取除ケアリ

人ニ害ヲ与ヘタル者ハ其犯罪ノ刑ヲ受ケタ  
ル上又別ニ民事ノ償ニ出スルアリ此民事

ノ償ニハ被害者ノ損害セシ文ヲ悉ク合  
セテ償ワシムルキナリ

盜罪ヲ犯セハ其贓品ヲ悉ク取上クハシ若シ  
其現品ナク取上ル能ワサル時ハ其代價ニ

テ之ヲ取上ルコトヲ為ス

一人ニテ數人ヲ傷スル時ハ犯人一人ヨリ其  
被害者數人ニ對シ其償ニ出サシムル

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

或ル刑ノ内ニ刑ノ性質ト損害ノ償ノ性質ト

司  
法  
省

兩様ノ性質ヲ帶フルモノアリ  
即チ罰金ハ損害ノ償ト刑トノ兩様ノ性質ヲ  
帶フルモノナリ

罰金原語「アマン」ト云フハ心ヲ戒メ改心セ  
シムルト云意味ニテ即チ其罪ヲ罰シ其心ヲ  
懲ラシメ且其損害ヲ償ワシムヲ云フ  
金ノ金額ハ政府へ取上ルナリ  
故ニ罰金ハ兩様ノ性質ヲ帶フルモノトス  
例へハ印紙税ノ規則ヲ犯セハ罰金ナリ此規  
則ヲ數度犯セハ其數度分ノ罰金ヲ合セテ取  
上クルナリ  
故ニ之ハ二罪俱發ノ原則ニアラス  
金錢貸借ノ簿政府ノ簿冊へ登記スヘキ規則

ヲ犯シタル者モ同様ナリ  
森林ノ規則ヲ犯シタル者モ同様ナリ畢竟政  
府ノ森林一損害ヲ掛ケタル款ニ付一度ヨ  
リ三四度ニ及ブトモ其罰金ハ一ニ之レヲ合  
セテ取上ルナリ  
政府ニテ專賣ノ權ヲ握リタル火藥烟草其外  
劇烈ノ藥等ノ規則ヲ犯シタル者モ其罰金ハ  
一ニ之レヲ合セテ取上ルナリ  
刑ノ内ニ損害ヲ償フト云フ性質アルモノハ  
總テ其金額ヲ合算シテ之レヲ罰スルナリ  
之レハ立法上ニ於テ論スルトモ粉別議ス  
ヘキコトニアラス  
何トナレハ其性質ニ兩状ヲ帶フル故之レヲ

合セラ罰スルトモ取テ不可ナルコトナシ  
其一性質ノミノ罪ハ其重キヲ以罰スヘキ若  
十レハ仮令両性質ヲ帶フルモノト虽モ之レ  
ヲ合セラ罰スヘキニアラサレトモ其内ニテ  
幾部分ハ刑ノ性質幾部分ハ損害ノ性質  
ト其分界ノ定限ナシ故ニ不得已両性質ヲ合  
セラ罰スル可ナリ  
爰ニ犯人アリ其犯人ヨ己ニ重軽罪ニテ罰シ  
刑期中ニ於テ又更ニ重軽ノ罪ヲ犯シタル時  
ハ二罪俱発ニアラス昂テ再犯ナリ然ラハ固  
ヨリ重キ罰スヘキナリ  
其時ハ初犯ノ罪ト再犯ノ罪ト重キヲ罰ス  
ヘキ可ケテアルヤ之レハ如何

其時ハ初犯ノ刑期ヲ過リタル上又更ニ再  
犯ノ罪ヲ以テ之ヲ罰スヘキニアラヌナ  
例ハハ初犯ノ罪ヲ徒刑ニ処シタル時ハ其刑  
期ヲ過リタル上又更ニ再犯ノ罪ノ刑期ヲ  
執行スルナリ  
例ハハ初犯徒刑ニテ其刑期五年内ニ又再ニ  
罪ヲ犯シタル時ハ再犯ヲ以テ論シ之レヲ十年  
ノ徒刑ニ処スルハ固ヨリ當然ナリ  
然レ其刑期五年内ニ於テ其以前犯シタル回  
罪ノ發覺シタル時ハ如何  
之レハ再ニ裁判所ニ出シ乱向スヘキコトナ  
リ若シ其前發ノ罪ヨリ重キ時ハ其前發ノ罪  
ヲ免シ後發ノ罪ヲ以罰スルナリ

司  
法  
省

其後発ノ罪ヲ有期ノ実決ノ刑ニテ罰スル時  
ハ前発ノ罪ニテ過了シタル丈テ、刑期ヲ差  
引之レラ言渡スナリ

前後発ノ罪ニテ同種類ノモ、ハ之レラ判別  
シ易シ例ハ前発ノ刑期五年ニテ已ニ三年  
ヲ過了レ後発ノ刑期八年ニ當レハ則之レラ  
十年ト為ス等ナリ、言渡書ニハ其刑期何年  
ノ如前発ノ刑期ノ何年ヲ此五年ノ内ニ量  
置クト云コトヲ示スヘキナリ

若シ其後発ノ罪前発ノ罪ヨリ重キ又其刑  
ノ種類ノ異ナル時ハ面倒ナリ

前発ノ罪ヲ囚獄ニ知レ後発ノ罪徒刑ニ當ル  
時其囚獄ノ刑期ハ已ニ三年ヲ過了セリ然ラ

ハ其三年ヲ等トシテ徒刑ノ刑期ニ組込ヘキ  
カ一体囚獄ハ徒刑ヨリ軽キ罪ナリ

前発ノ罪輕罪ニテ已ニ禁錮三年ヲ過了セリ  
其後発ノ罪ヲ徒刑ニ罰スル時ハ尚更ニ面倒

ナリ

其時ハ如斯為スヘシト云フ法律ノ定メナキ  
故佛國ニテモ又各國ニテモ之レラ罰スルハ

甚面倒ノコト、為スナリ然シ佛國ニテ已ニ  
實際上ニ於テ執行セシ所ノ例規ナリ

例ハ前発ノ罪ノ禁錮囚獄等ヲ以後発ノ罪  
ノ徒刑ニ比スレハ其禁錮囚獄ヲ輕シト為ス

然シ犯人ノ自由ヲ奪フ所ハ一樣ナル故ニ其  
刑期ノ三年ヲ過了シタル時ハ其三年ヲ以後

登ノ徒刑ノ刑期三年ヲ過了シタルモト見  
做シ之レヲ以言渡スナリ  
前登ノ罪追放ニテ已ニ過了シタル時モ矢張  
同様ナリ  
追放ハ禁錮囚獄等ノ自由ヲ奪フモノト違ヒ  
外國ニテ勝手ニ自由ヲ得ル訳ケナレ凡吾本  
國ニ歸ル能リサル者ノ自由ヲ欠ケル故  
ニ矢張其刑期ヲ過了スレハ則其徒刑ノ刑期  
ヲ過了シタルモ同様ニ見做ナリ  
若シ前登ノ罪三千フランノ罰金ニテ已ニ  
其罰金ヲ出シ後登ノ罪徒刑又ハ禁錮ニ當ル  
時ハ如何  
罰金ト徒刑禁錮トハ全ク性質ノ違フモノナ

リ  
何トナレハ一ツハ犯人自己ノ身上ヲ罰スヘ  
キ刑ナリ一ツハ犯人ヨリ其損害ヲ掛ケタル  
者ニ償フヘキ罪ナリ故ニ其性質ニ於テ全ク  
違フモノト為スナリ  
一体原則ニ仍レハ後登ノ罪ノ重キ時ハ其已  
ニ取上ケタル罰金ハ犯人ニ返シ其後登ノ罪  
ヲ以テ之レヲ罰スヘキナリ然レ佛國ニテハ  
其罰金ヲ政府ヨリ更ニ返シタルナリ  
現今此法ヲ立ツルニハ後令前登ノ罪罰金ニ  
テ已ニ之レヲ取上タルトモ後登ノ罪禁錮等  
ノ刑ニ當ル時ハ其罰金ハ返スヘキナリ若シ  
之レヲ返サレハ政府ニ於テ其正理ヲ失フ

ハキナリ

故ニ自分ノ業スルニハ同性質ノ罪ハ前発ト  
後発トノ比較シ其重キニ從ヒ之ヲ罰シ前発  
ノ罪ノ刑期ヲ差引ヘシ若シ前発ノ罪罰金ニ  
テ後発ノ罪ノ重キ刑ニ當ル時ハ其刑ヲ以テ  
之レヲ罰シ其罰金ハ之レヲ免ルシテ返スレ

然ル時ハ後発ノ罪ニ於テ重キ罰スル訣ニ  
當ラサルナ

爰ニ風俗ニ闕スル罪ヲ犯シ罰金ト禁錮トニ  
処セラレタル者アリ其後発ノ罪徒刑ニ當リ  
之レヲ其徒刑ニ処スル時ハ前発ノ罰金ハ全  
ク其犯人ヨリ出サスシテ消ム訣ナリ故ニ決

シテ重キ罰スル理ニアラサルナリ

此法律ニ從ヘハ罰金ト禁錮トノ二罪アル時  
例ヘハ罰金ハ三千フラント爲シ禁錮ハ十  
日位ト爲ス其時ハ仮令禁錮ノ日數ハ少シト  
モ罰金ニ比スレハ禁錮ヲ以テ重シト爲ス故ニ  
必ス其禁錮ヲ以之レヲ罰スルナリ然ラハ其  
三千フラントノ罰金ハ自ラ免除セラレ、訣  
ナリ

教師ノ説ハ罰金ニ當ルヘキ罪ハ前発後発ヲ  
合セテ罰スヘシト爲スヤ

然レ己ニ説ク所ノ刑法ニテ又別ニ一弊害ヲ  
生スルナリ何トナレハ三千フラントノ罰  
金ニ當ルヘキ罪ヲ犯シ其罰金ヲ避ケンガ爲

司  
法  
省



ノ外ニ五日カ十日ノ禁獄ニ當ルヘキ罪ヲ犯  
シ此禁獄ヲ以テ三千フランクノ罰金ヲ出ス  
ルラ免カレントスルノ弊害アリ

爰ニ二罪ヲ犯シタル者アリ前登ノ罪ハ遊獵  
ノ規則ヲ犯シタルニ付罰金ト特別沒收トニ  
処セラレ其後登ハ重輕ノ内ニテ重キ罪ニ當  
レリ其時ハ其重キ罪ヲ以罰スヘシ然カレ前  
登ノ罪ノ罰金ト特別沒收ハ其終取上ル  
ナリ

此特別沒收ヲ其終取上ルハ畢竟人ヲ害スヘ  
キ兇器ヲ持タシム可カラサレハナリ

爰ニ政府ニテ專賣ノ權ヲ握ル所ノ火藥其外  
劇烈ノ藥ヲ製造シタル者アリ佛國ノ法ニテ

其火藥及製造器械等悉ク沒收シ其後登重キ  
罪ニ當ル時ハ矢張其重キニ從テ之レヲ罰ス  
ヘシト虽モ其火藥等ハ其終沒收シテ取上ル  
ナリ

自今ハ同性質ノ罪ハ其内一ノ重ハ罪ニ從テ  
之レヲ罰シ性質ノ異ナル罪ハ別ニ罰スヘキ  
コト、為スラ可ナリト考ヘリ

現今ノ佛國ノ刑法ハ己ニ説キタル如ク前登  
ノ罪ヲ五年ノ囚獄ニ処シタルニ後登ノ罪ノ  
有期ノ徒刑ニ當ル時ハ其囚獄ニテ己ニ過リ  
シタル年限ヲ差引殘リノ刑期ヲ合算シテ  
後登ノ徒刑ノ刑期ヲ定メ之レヲ言渡ス  
ナリ

司  
法  
省

前登ノ罪ニテ過リシタル囚獄三年ハ後登ノ  
徒刑ヨリ輕シ故ニ其輕キ刑ノ年限ヲ重キ刑  
ノ年限同様ニ為ズ時ハ余リ輕ニ失ス一キ  
ナリ

故ニ禁錮又ハ囚獄ノ一年ハ徒刑ノ何年ニ當  
ルト云フ一ノ制限等ヲ立ツヘキナリ

日本ニテモ二罪俱登ノ原則ハ制定為スヘキ  
積リナルヘシ

佛國ニテハ盜罪ノ贓ヲ以テ日本ノ如ク節次  
合算シテ罰スルト云フ一ハ決シテナキ一ナ  
リ

日本ニテ二罪俱登ノ法ヲ制定シ其内贓罪ハ  
折次合算スルトノコトヲ取除ケノ規則ニテ

定ムルハ不可ナルヘケレ元來二罪俱登ノ  
原則ニハ大ニ背クナリ

日本ニテ贓罪ヲ折次合算スルハ全ク取除ケ  
ノ規則ナルヘシ然レ政事上ニ於テ之レヲ論

スル時ハ不適當ノ法ト為スナリ

何トナレハ數ヶ所ノ盜罪即チ數度ノ小罪ヲ  
合算シテ大罪ト為ス時ハ該ニ所謂ル塵ヲ積

テ固ト為スノ理ニテ其定大罪アルニアラサ  
ルナリ

尤モ他ノ罪ニ及ボサス贓罪而已ニ限ル折次  
合算スルコト、定ノラレタルコトナルヘシ

然レ法律上ニ於テ不適當ノ一ト考ヘルニ付  
一應申述置クナリ

司  
法  
省

盗人ノ甲ノ家へ三度忍び入り三度盗取タル  
贓品アル時ハ其三度ノ贓品ノ合算スルトモ然  
ルへク見エレモ若し乙ノ家其外数ヶ所へ忍  
び入り盗取タル物ヲ合算スルハ甚不適當ナ  
リトス

固ヨリ其罪ヲ罰スルハ其人ニ害アルヲ以テ  
之レヲ罰スル説ケナリ故ニ一ヶ所ニテ百円  
ヲ盗取タル時ハ一ノ大罪ナリ然レモ數ヶ所ニ  
テ少しツ、盗取タル金額ヲ合算シテ之レヲ  
罰スルハ不適當ナリ何トナレハ其一ヶ所一  
人ニ付テ之レヲ見レハ極少数ツ、金額ニテ  
其害ヲ受クルコトモ亦極少ナシ故ニ之レヲ  
合算シテ重罪ト為スニ至ルハ甚不適當ト為

スナリ

佛國ノ刑法ニ於テモ日本ノ如ク面倒ノコト  
アリ然レ盗罪ノ贓品ヲ合算スルニアラス  
仏國ニテハ裁判官ニテ賄賂ヲ取り枉法ヲ為  
シ又ハ証人ニテ賄賂ヲ取り枉法ヲ為セル  
時ハ賄賂ノ金額ヲ合算シ其全數ノ一倍ヲ加  
増シタルヲ以テ罰金ト為シ之レヲ言渡ス  
アリ  
其賄賂ヲ取り枉法ヲ為シタルニ同シ裁判上  
ニ於テ三人等ヨリ取りタル時ハ之レヲ一罪  
ト為ス然レ各種ノ裁判ニ付各種ノ者ヨリ賄  
賂ヲ取りタル時ハ不殘之レヲ合算ス一キナ  
リ

司  
法  
省

刑法ノ第百七十七條ニアリ  
此各種ノ者ヨリ賄賂ヲ取りタル時ハ民權利  
奪ニ犯シ其罰金ヲモ言渡スナリ  
其罰金ハ各種ノ各人ヨリ取りタル金額ヲ合  
算シテ罰金ト為スナリ  
此条ニ仍リ其賄賂ノ金額ヲ折次合算スル時  
ハ例ハ其合算ノ金額三百円ナレハ之レヲ  
又一倍シテ六百円ト為シ其金額ヲ以テ罰金  
ヲ言渡スナリ  
然レ此罪ハ一体數罪ヲ合セラ登シタルモノ  
ニ付其内ノ第百一十條キ一罪ニ就テ之ヲ罰シ其  
他ノ罪ハ合セスレテ可ナリ  
**現今ノ日本ノ刑法ハ教師ノ説ク一所トハ全ク**

**又体シタル姿ナリ**

二罪俱發ノ原則ハ極テ人情ニ適シ極テ正理  
ヲ主トシ之レヲ制定スヘシ然ル上ハ其餘ニ  
取除ノ規則ハ設ケサルヲ以テ最モ可ナリト  
為ス  
此第百七十七條ニ就テ説ク所ハ枉法ニ至ラ  
ス不枉法ノ場合ナリ枉法ハ即無期ノ徒刑ト  
為スナリ  
第百四十五條ニアリ  
之レハ無期ノ徒刑ニ犯シタリト虽モ罰金ハ  
自ラ附添スヘキモノナリ  
第百七十八條ヲ見ルヘシ  
之レハ第百一十條キ罪ニ就テ犯スヘキニ付其罰

金ハ到底放レサルモノナリ  
此賄賂ノ罪ハ法ヲ枉テ己レノ富ヲ計ルモノ  
ナリ故ニ其法ヲ枉ケタル其身ノ罪ト其不正  
ノ富ヲ計リタル罪トヲ罰スヘキ訳ケニ甘無  
期ノ徒刑ニ処シタル上罰金ヲモ言渡スナ  
リ  
己ニ説キタルコトハ篤ト懸考アルヘシ  
曾テ質向スヘシト考ヘルハ今日己ニ説示  
サレタル事ニテ渾テ了解セリ  
夫レハ宜鋪  
日本ニテ現今執行スル所ノ刑法ト教師ノ己  
ニ説カル、所ト拾別ノ相違ナシ然レ只其罰  
金ト他ノ刑トノ權衡ヲ比較シ乘除スルノ方

法ニ於テ未タ決定シカタク所ナリ之レハ追  
々教師ノ論説ニ仍リ制定スヘシト考ヘリ  
佛國ニテハ何日ノ禁錮ハ何程ヲ罰金ニ當ル  
ト定メ之レヲ以テ其刑ヲ乘除スルコトナシ  
然レ獨逸ノ刑法ニ其成規アルコトヲ聞  
ケリ  
爰ニ又一ノ大弊害アリ何トナレハ禁錮ノ刑  
ヲ罰金ニテ買得ヘキ様ナルコトアリ  
例ハハ富者ニテ罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ當ルヘ  
キ時ハ又外ニ罰金ニ當ルヘキ罪ヲ犯シ此罰  
金ヲ出シ先キノ禁錮ノ刑ヲ免カレント計ル  
者アリ又タ之レニ及シテ貧者ハ其罰金ヲ免  
カレンカ為メ別ニ二三日ノ禁錮ニ當ルヘキ

司  
法  
省

罪ヲ犯シ其禁錮ヲ以テ許多ノ金額ヲ出スコト避ケント計ル者アルニ至ルヘシ故ニ犯人ヲシテ刑ヲ撰ハシムル様ナルコトアルハ極不適當ナリ  
各自己ノ適宜ニ寄刑ヲ受クルトナリ恰モ法律中ニ罰金又ハ禁錮等ノ内犯人ノ撰ミニ任セ之レヲ罰スルト云フ一ヲ記載セルカ如シ其記載ナレトモ自ラ其道理ニ徧ルナリ  
一併罰金又禁錮等ヲ撰ミ之レヲ其犯人ニ施スハ固ヨリ裁判官ノ見込ニ任セヘキコトニテ其罰ヲ受ル者ニテ撰ハシムヘキ罰ニアラス  
尚二事アリ之レヲ説クヘシ

違警罪ノ二罪俱発ノ一ハ法律中何レノ所ニモ明文ナシ治罪法第百六十五條ニ數罪俱發ハ其内重キ罪ニ從テ其刑ヲ定ムルト云フ所ニモ違警ノ一ハ其明文ナシ  
然レ違警罪ノ數罪俱發ハ其數罪ヲ合セテ之レヲ罰スルナリ  
過日説キタル第百四條ノ件ニ付尚説殘セルコトアリ之レヲ説クヘシ  
此第百四條ニ一犯中ノ關係ナク二人ヲ殺シタル時ハ二罪ニテ死刑ニ処スルト云フ一アリ此原因ヲ説クヘシ  
此第百四條ニ一國ニテ昔シ此刑法ノ改正ヲ為セル以前此本條ニ記載アル所ハ昂テ若

刑法省

レ人ヲ殺スニ一罪ヲ犯シタル時ヨリ先キカ  
後カ又ハ同時カニ之レヲ犯セハ必ラス別ニ  
一罪ヲ附ケ死刑ニ知スヘシトアル而已ニテ  
現今ノ第三百四條ノ如ク第ニ項トノ區別ヲ  
立ツルナシ

千八百三十二年ニ於テ又再ニ改正アリ其改  
正ノ時ノ草案ニハ第ニ項而已ニテ第ニ項ハ  
掲ケサルコトナリ

其時議院ニ於テ大ニ議論アリ

一休重罪ニハ陪審人アリ重罪裁判所上席人  
其罪ノ未由ヲ陪審人ニ問フ即ケ何ノ罪ヲ犯  
サンカ为メ人ヲ殺シタルトカ又ハケ様ナル  
子細ヨリ遂ニ之レヲ殺シタル等ノコトヲ詳

細ニ問フナリ

故ニ此第ニ項ハ其陪審ニテ此等ノコトヲ充  
分區別スルナリ甚ク難シ故ニ陪審人ヲシテ了  
解シ易ラシメシ為メケ様ニ簡畧ニ立テタル  
モノナリ

第ニ項ハ輕罪ニテ陪審人ヲ用ヒス輕罪裁判  
所ノ裁判官ニテ審判スルヲ以テ其尙糺ノ時  
其模樣等ヲ了解スルニ自第ニ項ノ明文ヲ存  
ス

第ニ項ニアル如ク其人ヲ殺シタル時他ノ犯  
罪ノ豫備ヲ为ス为メカ又ハ其犯人ヲ逃込セ  
シムル为メカ等ノコトヲ陪審人ニ問糺スル  
トモ其陪審ヨリ一々之レヲ詳細ニ答フルコ

同法省

ト能ワス故ニ裁判官ヨリ其原々ヲ尙糺スル  
為メニ之レヲ設ケタル記ケナリ  
自分ノ業スルニ此身一項ハ刑ルトモ可ナリ  
然レ此身二項ハ存ニ置ク一レト為ス  
二罪ヲ同時ニ犯シタル時ハ必ス其一罪ヲ犯  
カサンカ為メト云フ一ハ自ラ判然分ルヘキ  
コトナリ

佛國ニテハ家屋ノ結構高キ故ニ階ニテ支婦  
喧嘩等ニテ遂ニ其婦及ニ其子ヲ墮落シ合セ  
テ殺スコトアリ其時ハ二罪ヲ以テ論シ死刑  
ニ処ス一休ハ一罪ナレトニ罪ヲ犯シタル一  
ト為レ之レヲ死刑ニ処スルナリ

司  
法  
省



第九号

刑法講義

八年十月十七日

刑法講義

刑法會議

十月十七日

第五十九条附従ノ罪ヲ説カントスル前ニ先  
ツ附従ハ如何ナルモノヲ以テ附従ト為スコ  
キヤノ大体ヲ議スニシ

第六十条ニ附従ノ罪ニ於テ三種ノ區別ヲ示セリ  
此三種ノ區別ハ一般ノ罪ノ附従ニ就テ充テ  
用ユ一キモノナリ

故ニ此次ニ於テ特別ノ罪ノ附従ニ充テ用ユ  
一キ一ヲ説クニシ

第六十条ノ三項ハ附従ト為スニモ種類ヲ挙  
ケタルモノナリ

第一項ニ贈物約束云々トアリ此附従ハ其实

物ニ就テ直チニ附従タルノ形迹アル一キモ  
ノニアラス只其心実ノ附従タルコトヲ以テ  
論スルナリ

第二項ハ直ニ其实物ニ當リ附従タル形迹ヲ  
見ル、キモノナリ即兵器々具等ヲ貸シ与一  
ル云々之レナリ其貸与一タル兵器々具等ハ  
其罪ヲ犯ス為メノ用ニ共スルト云フテ認  
メ得ヤル可カラサルナリ

仮令其兵器々具等ヲ貸与一ルトモ罪ヲ犯ス  
為メナレトモ不知偶然之レヲ貸与一タル時  
ハ附従ト為サ、ルナリ故ニ其貸与一タル原  
因ヲ以テ附従ト為ス一キナリ  
第一項ハ其指揮ヲ為スルニ於テハ其

原因ヲ知ル不知トテ論ハス必其罪ヲ犯ス為  
メナレトモ判然ナル譯ナリ

第三項ハ其犯罪ノ實際ニ當リ一層其附従タ  
ルノカラ進メシモノナリ何トナレハ其犯罪

ノ最初ヨリ加功シタルノミナラス實際ニ於  
テ全ク其犯罪ヲ終成セシメタルモノナリ

此第三項ニハ大ニ難事アリ

附従ト見做シテ論ス、キカ又ハ其謀者ト見  
做シテ論ス、キヤノ區別ニ於テ之ヲ難事ト  
為スナリ

佛国ニハ附従ト共謀者トノ區別アリ故ニ附  
従ト共謀者トノ區別ヲ説ク、シ  
例ハ盗罪ヲ犯スカ又ハ風俗ニ浼スル罪ヲ

犯スカ之ヲ数人相共同心懷カシテ犯シタル  
時ハ其情状ノ最悪ム一ニ所アルヲ以テ通常  
ノ犯罪ヨリ重キ情状アリトシテ論擬ス一キ  
ナリ  
又一人カ二人カケニテ罪ヲ犯シタル時ハ別  
ニ之レヲ重キ情状アリトシテ論スル一ナリ  
附従ノ罪ハ如何トナレハ主犯ト同一ナリ故  
ニ共謀者ト附従トノ區別ハ敢テ行要ニアラ  
ザルニ似タレモ今已ニ説キタル如ク其區別  
ハ立ハル可カラハル一ナリ  
此第三項ニ輕罪又ハ重罪云々  
容易ク為シ得ル云々其主謀ヲ助クル者云々  
トアリ之ヲ何故附従ト見做一キカ己ニ重輕

罪ヲ助ケ之ヲ犯サシメタル者ハ固ヨリ共謀  
者ト見做一キ答ナリ  
前項ノ如ク武器等ヲ貸与一タル等ノ一ハ附  
従ト見做一トモ巳ニ其犯罪ヲ助ケテ遂  
ケシメタル上ハ全ク共謀者ト見做一キ答ナ  
リ  
盜罪ヲ以之レヲ譬フレニ一人ハ人ノ家屋中  
一入り其物品ヲ盜取一人ハ門前ニ立テ他人  
ノ來ルヲ見張リタリ其時ハ即チ家屋中ニ入  
盜取ル者ノ為メニ他人ノ來ルヲ見張リ遂ニ  
其盜罪ヲ犯サシメタル記ニテ全ク共謀ノ罪  
ナリ然シ此項ニ依シハ是等ハ同シク附従ト  
見做一可キナリ

又一人隣家ニ忍ビ入ラントスル時其塀牆ヲ乘リ踰  
ルニ為メ他ノ一人ノ肩ヲ貸シテ之ヲ乘リ踰ルシタル時  
共謀者ト云フ何トナレハ他ノ一人ヨリ其肩ヲ貸サレ  
ハ乘踰ルル能ク即其罪ヲ犯スル能クナルナリ  
前ニ説キタル盜罪ヲ犯スルメ門前ニ立テ見  
張タル者ハ彼令其者ノ之レヲ見張ラサルト  
モ家屋中エ入りタル上ハ其品物ヲ盜取リ得  
一キ譯ナリ  
此肩ヲ貸シタルモノハ其肩ヲ貸サレハ塀  
牆ヲ乘踰ル能ハス即チ其罪ヲ犯ス能クナル  
モノナリ  
例一ハ甲ヨリ乙ヲ打タントスルニ丙ハ乙ノ  
手ヲ押一テ甲ニ打タシメタル其時ハ甲ト丙

ハ即チ共謀者ナリ  
何故共謀者ト云フニ甲一人ニテハ打コト能  
クス全ク丙ノ手ヲ以テ乙ヲ押一即チ甲ノ手ヲ  
四本ニ為シテ乙ヲ打ケタル訳ケ故共謀者ト  
為ス一キナリ  
直ニ犯罪ノ實際ニ關係シタル者ヲ共謀者ト  
云フ  
例一ハ風俗ニ關スル所行即チ強盜等ヲ為ス  
ニ一人ニテ之レヲ犯シ能クス他人ノ手ヲ借  
リ其罪ヲ犯シタル者ハ全ク共謀者ト為スナ  
リ最前ニ説キタル盜罪ヲ犯スルメ門前ニ見  
張タル者モ附従ト為サス共謀者ト為スニ  
ハノ説モナリ然レハ少ク差違アルハ

シト考一リ  
一 体人ノ家屋中へ入り盗罪ノ犯サントスル  
者ノ為メニ其門前ニ立チ他人ノ来ルヲ防キ  
タル者ハ直キニ其盗罪ヲ犯セシニアラス然  
ラハ之レヲ附従ト為ス一キカ共謀者ト為ス  
一キカ其時ノ情状ニ仍リ判然ト區別スル  
ハ甚タ難シ  
自分ノ考ハハ共謀者ト為ス一ニ何トナシ  
ハ其他人ノ来ルヲ防キタル為メニ遂ニ其盗  
罪ヲ犯サシメタルモノナレハナリ  
其時即チ一人以上二人共ニ盗罪ヲ犯シタル  
訳ニ付共謀ノ罪ト為ス一ニ  
然ラハ此第三項中犯罪ヲ容易ク為シ得ルノ

加功云々ハ共謀者ト為ス一キニ似タレトシ  
シハ其罪ヲ犯ス以前即チ未タ實際ニ当ラサ  
ル時ノ事ト見做シ先ツ附従ト為ス一キナリ  
然レ此終成スルノ加功云々ハ己ニ其實際ニ  
当リタル訳ケニ付断然共謀者ト見做ス一キ  
ナリ故ニ此項中ニテ容易以下ノ文ハ削除シ  
設備云々ヲ附従トナク方ヨロシト思フ止ム  
一ヲ得スハ容易ノ二字ヲ存ニテ附従トナス  
モ妨ケナカラシ然レモ修成ノ二字ハ削除シ  
修成スル所ハ附従トシテ論セズ必ス共謀者  
トシテ論ス可レト思フ  
附従ト為セハ其罪輕ク一人以上共謀ノモノ  
ト為セハ其罪重シト云フ譯ナルヤ

刑法

佛国、年明法ニ於テハ其助ケアル為メニ全ク其罪ヲ犯ラ遂ケタル時ハ之レヲ主従ト分タス即共謀者ト為ヌナリ  
故ニ門前ニ見張ヲ為シ其見張リタル為メニ盗罪ヲ犯シ遂ケタル時ハ共謀者ト為シ之レヲ附従トハ為ササルヤリ  
自分ノ考ニハ此第三項中輕重罪ヲ終成スル云々以下ハ附従ニアラズ共謀者ト為ヌ一キニ付此項ニハ除ク一ニ最此論ハ寛ニアラズ酷ニ過クルヤリ  
但以下ヨリニ主意モ此項中ニ限り記載スハキニアラズ若シ之レヲ記載ス一レト為セハ他ノ条中ハモ均シク記載スハキ記ニ付必ス

シモ此項中ニ置テテ要セサルヤリ  
但以下国ノ内部及セ外部ノ安寧ヲ害ス一キ密謀ト云フテハ畢竟未タ其行ヲ施サズ相誘迫ニテ主従ノ區別ヲ分タサル以前ノ一ニ付是亦此條ニハ不用ノコトナリ  
第六十一條  
此条ハ少シク別種ノコトナリ  
此條中ニ常ト云字アルハ其苦ナリ何トナレハ全ク只一度ト為セハ附従ノ部ニ為ラザルヲ脱スルハナリ  
原語ハアヒキユルコト云フ意味ヲ譯書中ニ脱セルコト似タリ  
此意味ハ常ニ其事ニ慣テ之レヲ行フト云フ

意味ナリ

一度ニテハ附従ト為サレハ 誤ハ何トナレハ  
犯人ニテ他ノ者ヲ追捕等ヲ恐レテ突然其家  
屋中ニ逃込タルモ計リ難キ故ナレハナリ  
然レ今日一人ノ逃込タルヲ助ケ翌日又一人  
ヲ同シク助タル時ハ矢張附従ト見做ス一キ  
ナリ

然レ三人一度ニ逃込タル等ハ必ラ又人数シ  
以テ附従ト為ス一キニアラヌ矢張一度ト見  
做一キナリ

犯人ヲ隠匿ニタルヲ以テ附従トシテ論スル  
ハ必ス国ノ安寧以下ノ四件ニ誤ル罪ヲ犯シ  
タル犯人ヲ隠匿ニタルキニ限ル可シ此四件

ノ罪名ハ甚タ意味廣キヲ以テ何ナル 犯罪ト  
虽モ此ノ四件ニ入ラサルモノハナシ

然レ無宿者乞食ヲ常ニ家屋中ニ圍ヒ置ク等  
ノユトハ此六十一条ノ制限ニ入レハ一キニ  
アラヌ

一体無宿者乞食ハ即チ輕罪ナレ其者ヲ家  
屋中ニ圍ヒ置クトモ之レヲ以テ附従ト為ス一  
キニアラヌ

第六十二條

此条ハ人ヲ隠ニ置ク譯ニアラヌ盜罪ノ贓物  
ヲ

隱藏スルユトナリ故ニ重モニ盜罪ニ限ル一  
キナリ



奪ヒ取又ハ盜取タル贓物ヲ知テ隱藏スル等  
ノコトハ盜罪ヨリ外ナキ筈ナリ

此附従ノ種類ハ第六十條中ニ三種第六十一  
條第六十二條ニ二種都合五ツノ種類ナリ

是ヨリ附従ノ罪ハ如何シテ罰ス、キヤノコ  
トニ説キ及一シ

第五十九條ニ附従ノ者ハ重罪輕罪ノ主犯ノ同  
ノ刑ヲ以テ罰ス、キトアリ

其所以ハ何トナレハ一人ニテ其罪ヲ犯シ能  
ハス附従アリテ其設備ヲ為シ或ハ其便利ヲ

得セシムル考ニテ遂ニ其罪ヲ犯シ得ル訳ニ  
テ実迹ハ固ヨリ同一ナレハナリ然ラハ主犯

ノ公益ヲ害ムルト道德ヲ損スルトニ比シ全  
ク同等ノモノナリ

自分ノ考ヘニハ主犯ト附従ト同等ノ罪ニ定  
メタルハ少レク酷ニ失スルヤト為ス何トナ

レハ主犯ハ遂ニ其罪ヲ犯シ遂クルトモ附従  
ハ其犯罪ノ實際ニ臨ミ或ハ自ラ其惡事ヲ

ルラ願ミ又ハ其刑ヲ恐ル、等ニテ半途ニ踏  
ミ止リ全ク其罪ヲ犯サ、ルコトアリ

凡ソ人タル者ハ惡事ヲ為スノ實際ニ臨ミ善  
惡ノ境界ヲ顧ミ全ク其惡事ヲ為シ遂ケサル

コトアリ故ニ主犯ハ終ニ其罪ヲ犯シ遂タル  
トモ附従ハ其境界ニテ踏ミ止リ共ニ其罪ヲ

犯シ遂ケサル者アルトノ差別ハ必ス立テサ  
ル一カラサルナリ

何トナレハ道德ヲ害スルト公益ヲ損スルト  
ニ於テ大ニニ差別アレハナリ  
然カシ主犯ハ現ニ手ヲ下シ其罪ヲ犯シ公益  
ヲ害シ道德ヲ損シ附従ハ之ヲ實際ニ犯サハ  
一ニ畢竟其罪業ヲ罰スルニアラヌ其心術ヲ  
重モニ罰スル故ニ之レヲ同一ト為スナリ  
此附従ヲ以主犯ノ同一ト云フコトニ付大ニ  
ニ難事アリ  
何トナレハ罪ヲ犯スニ其害ヲ与ヘタル人ニ  
仍テ其罪ノ重キ情状アリ故ニ其人ハ仍テ罪  
ノ重キ情状アル時ハ其附従モ同様重ク罰ス  
一キヤ  
例一ハ親ヲ殺シタル者ハ通常ノ人殺ヨリ一

層重ク罰スルナリ仮令親ヨリ其子ニ暴行ヲ  
為シ夫故之レヲ殺シタリトモ其次弟ニ拘ラ  
ス親殺ハ重ク罰スル訳ナリ  
常人ニテ暴行ヲ受ケシヨリ之レヲ殺シタル  
時ハ無罪トモ成ルヘキ訳ナレハ親殺ハ之レ  
ト大ニニ差別アリ  
故ニ子ノ親ヲ殺シタル時ノ附従ヲ為シタル  
者ハ矢張重キ罪ト為シ主犯ト同一ニ罰スヘ  
キナリ  
一 体人ヲ殺スハ惡ムヘキ所行ナリ其内親ヲ  
殺スハ最モ惡ムヘキト為ス故ニ夫レヲ助  
ケ附従ヲ為シタル者ハ同様最モ惡ムヘキコ  
トニテ其道德ヲ損スルト公益ヲ害スルコト

モ亦最大ナリ

故ニ若シ其從附ヨリ自分ノ親ニアラサレハ

仮令之レラ助クルトモ其主犯ト同一ニ処ヒ

ラル、キ理アラスト云トモ然ラハ何故共最

悪ム、キ親殺ノ罪ニ附從シタルヤ其已ニ附

從ヲ為シタル上ハ主犯ト等トシク最悪ム、

キ罪タルラ免カレガタシト云フ道理ヲ以言

渡ス、キナリ

之レニ及レテ他人ノ我親ヲ殺ス主犯ニテ其

子ノ附從ヲ為シタル時ハ其子ノミラ親殺ニ

ノ刑ニ罰シ他人ハ通常ノ又殺ト為ス、キ罪

ナレ尺之レハ其子附從ナルユ、本犯ト同一

ノ刑ニ処シ而テ親殺ノ刑ニ処ヤス

固ヨリ其子ハ直ニ親ヲ殺サ、レ尺他人ノ我

親ヲ殺ス附從ヲ為シタル上ハ甚々悪ム、キ

者ナレハ子附從タル片ニ親殺ノ刑ニ処スル

正條ナキヲ以テ止ムヲ得ス通常ノ附從ノ正

條ニ從フナリ

然レ自分ノ考ニハ

仮令他人ハ主犯ニテ其附從ヲ為シタルトモ

其子ハ親殺ノ罪ト為シ其他人ハ通常ノ人殺

罪ニ為ス、レ

此自分ノ説ハ法律上ニ於テモ正当ト考ヘリ

法律中ニ於テ此論ハ未タ明文アラサルナリ

尚一難事アリ

主犯ハ再犯ニテ附從ノ初犯ナル時ハ主犯ノ

刑法

再犯加等ノ重キ罪ヲ以附從ラモ同一ニ罰ス  
一キカ又ハ全ク初犯ト為シ之レヲ罰スルカ  
其区別ハ是亦甚難

其時ハ通常ハ再犯加等ノ罪ヲ以テ之ヲ罰  
ス然シ茲ニ難問アリ

其害ヲ受ケタレ人ニ仍リ其罪ノ重クナル一  
キ情状ハ其主犯ト同一ニ罰シ主犯ノ再犯ナ  
ル時ハ其附從一再犯加等ヲ以テ罰セサルハ

其不都合ナラスヤ  
然シ其差別アル次第ハ一ツノ道理アリ

子ノ親ヲ殺シタル罪ハ全リ別種ノ重罪ニシ  
テ其刑モ亦別種ナリ故ニ其別種ナル所以

其附從ヨモ別種ノ罪ニテ之レヲ罰スルナリ

此第五十九條ニ重罪云々

トアレ氏子ノ親ヲ殺シタルハ別種ノ重罪ニ  
附從シタル譯ニテ之レヲ罰スルナリ

一体附從ノ罪ハ其主犯同一ナル  
罪ト同一ニ為ス一ニ故ニ

此第五十九條ノ同一ト云フヲ以再犯加等ヲ  
モ同一ニ為スハ無理ナリ

公ケノ官吏ノ職務上ニテ其公文書等ノ偽造  
ヲ為時ハ無期ノ徒刑ナリ然ルニ常人ノ之ヲ

為ス時ハ有期ノ徒刑ナリ  
官吏ノ公文ヲ偽造シタルヲ常人ノ之ヲ助ケ

附從シタル時ハ如何ナルハキ  
其時ハ矢張無期ノ徒刑ニ処ス可キカ

此第 五十九條ノ主意ニ仍レハ主犯同一ニ罰  
セサル可カラサルナリ

官吏ノ公文ヲ偽造シタルハ天張重キ別種ノ  
犯罪ト為シ同一ニ罰ス一キナリ

矢張親シ教シタルト同様ノ罰ナルヤ

然リ佛国ニハ酌量輕減アリ故ニ主犯ノ酌量

輕減ニテ一二等ノ罪ヲ減スル時ハ必ズ其附

從モ其酌量輕減ヲ受ク一キ理ニ似タレ氏之

レハ然ラサルナリ

至犯ヲ酌量輕減スルハ畢竟其主犯人ノ精神

惑乱等愍諒ス一キ情状アルヲ以ノ故ナレハ

其情状ヲ附從ニ追推シ及ホレ等トミク酌量

輕減ス一キ理ニアラス

尚且ツ主犯ハ全ク赦免セラルトモ附從ハ其

罪ノ以テ罰セラレ、ユトアリ之レハ瘋癲人

等ヲ教唆脅迫シテ其罪ヲ犯サシメタル附從

ヲ云フナリ

此第 六十四條ノ重罪又ハ輕罪ニ至ル一キ所

業ヲ威迫ニ仍テ已ムヲ得ス為ス等ノ一ニテ

即チ其主犯ハ無罪ナレ氏之ヲ犯サシメタル

附從ハ必ズ罰セラレ一キナリ

及令附從ト虽モ一概ニ主犯ト同一ノ罪ト為

シ難キ場合アリ故ニ第 五十九條ノ旨方直ニ

カラス

此第 五十九條ニ附從ハ首謀ト同一ノ刑ヲ以

テ罰ス一シトアリ之ハ裁判所ノ言渡ニ於テ同

一ニ為スハシト云フ訣ケニ当リ宜シカラス  
故ニ附従ハ其重罪輕罪ノ首謀ニ對シ法律ニ  
ニ定メタル所ノ刑ヲ以同一ニ罰スハシト改  
ム一ニ

同一ノ刑ト云ハ例一ハ有期ノ徒刑ニテ主  
犯ノ刑期十年ナレバ矢張其附従モ同一ニ十  
年ト為ス一モカ又ハ其刑名ノミヲ同一ニ為  
シ其刑期ノ年限ハ主従ノ等差ヲ立四罰スルト  
モ然ル一モキヤ

主従トモ同性質ノ刑ニ処スレハ可ナリ例一  
ハ主犯ハ十年ノ徒刑ニテ従犯ハ五年ノ徒刑  
ト為ストモ又ハ之レニ反シテ主犯ヲ五年ト  
為シ従犯ヲ十年ト為スコトアルトモ不可ナ

其刑期ノ年限ハ犯人ノ分限ニ仍テ差連アリ  
特別没収ハ多ク附従ニ對シテハ言渡サレ  
コトナリ

例一ハ他ノ者ノ人ヲ殺シタル時或ル人ノ附  
従ヲ為ストモ其兇器ハ其ノ手許ニハ無キ  
者ナリ

例一ハ輕罪ニテ主犯ヲ禁錮ト為シ附従モ亦  
禁錮ト為シタル時裁判所ノ見込ニ因リ其主  
犯ニハ屬藉ノ權ヲ禁スルコトアルトモ附従  
ニハ之レヲ禁セサルコトアリ又主犯ニ他ノ  
刑ヲ附加スルトモ必ズ附従一迄及ホサレ  
ナリ

何トナレハ主犯ト同一ノ刑ヲ以罰スルトモ  
其外ノ附加ノ刑ヲモ必ス同一ニ罰スルキニ  
アラサレハナリ

講議ノ主意ハ得ト整考スルニ何トナレハ日  
本ノ刑法中ニハ不可ナルト云カラス又仏国  
ノ刑法ニモ亦ニ採取シ難キユトアレハナリ

刑法

第十號

刑訟會議筆記

八年十月二十二日

刑訟會議筆記

刑訟會議筆記



今日モ尚附従ノ刑ニ就テ説クヘシ

第五十九條

此條ノ原則ハ重罪輕罪トモ其附従ト为リタル者ハ主犯ト同罪ナリ此同罪ト云フハ法律ニテ定メアル刑目中ニテ主犯ニ相当スル所ノ罪ト同罪ナル故ニ及令其主犯ハ酌量輕減セラルコトアリトモ其附従ニマテ推シ及スヘキニアラス矢張其本刑ニ及セラルヘキナリ

然ルニ法律ニ定メアル罪ノ内其主犯ニ重キ情状アル時ノ附従ハ矢張主犯同様其重キニ

從テ処セラル、ナリ

例ハハ子ノ親ヲ殺シ盜罪ノ内強盜ヲ為シタル等ノ時ハ即チ其主犯ノ重キ情状アル故附從モ同様重キ罪ニテ罰スル等ナリ

然シ主犯ノ再犯加等ハ附從ニ及サ、ルナリ再犯加等ハ其罪ノ事柄ニ拘ラス其主犯ノ一身上ニ屬スヘキコトニ付附從ニマテハ推シ及サ、ルナリ

前會ニモ説キタル如ク之レニ反シテ主犯ハ酌量輕減ニテ赦宥セララル、氏附從ハ其赦宥ヲ受ケス其主犯ノ本刑同罪ニ處セラル、ナリ

此條中ニ附從ハ云々首謀ト同一ノ刑ヲ以テ

罰スヘシト云フコトニ付外ニ取除ケアリ

即チ第六十二條中ノ攘奪掠奪等ノ品物ヲ全部或ハ一部分ヲ故意ニテ隠蔽シタル者ハ此第五十九條ノ原則ニ仍テ附從ト為シ主犯ハ同罪ニ罰スヘシト虽氏此次キノ條ニ於テ取除ケアリ

第一取除ハ第六十三條第一項ノ場合ニ於テハ其主犯ハ死刑ニ当ル罪ヲ犯シ即死刑ニ処セララル、トモ其附從ハ決シテ死刑ニ処セララル、コトナシ之レハ無期ノ徒刑ト為スナリ贓物ノ隠蔽ヲ以テ附從ト為スハ固ヨリ盜罪ノ附從ナリ其盜罪ノ死刑ニ当ルハ即チ其盜罪ヲ犯サン

ガ为メ人ヲ殺シタルモノナリ此時其主犯ハ  
死刑ニ処セラレトモ其贓物ヲ隠藏シタル  
附従ハ決シテ死刑ニ処セサルナリ

第二ノ取除ケハ

其贓物ヲ隠藏シタルニ若シ主犯ノ無期ノ徒  
刑ニ当ル可キ情状ヲ知り之レテ隠藏セシ時  
ハ等トシク無期ノ徒刑ト為スヘシト虽モ若  
シ其情状ヲ不知時ハ無期ノ徒刑ニ処セサル  
ナリ

其時ハ其附従ヲ有期ノ徒刑ト為スナリ

然ルニ其主犯ノ有期ノ徒刑ニ当ル時ハ其情  
状ヲ知ラサルトモ矢張同罪ニテ其附従ヲモ  
有期ノ徒刑ト為スナリ

此主犯ノ有期ノ徒刑ニ当ル時ハ其情状ヲ知  
ルト知ラサルトニ関セス附従ヲ以同罪ト為  
スハ不適當ニハアラスヤ

其情状ヲ知ラサルトハ仮令其盜罪ヲ犯シタ

ルトノコトハ知ルトモ其重干刑ニ当ルヘキ

コトヲ知ラスシテ其贓物ヲ隠藏セシコトナ

ルヤ

贓物タルコトハ固ヨリ之ヲ知ルト虽モ強盜

カ穿踰ノ盜カヲ知ラスシテ隠藏シタル時ノ

コトナリ

故ニ此第二項ノ主意ハ其罪ノ重情状ヲ知り  
ツ、之レテ隠藏シタル時ハ其主犯ト同罪ニ  
処スルト云フナリ

主犯ノ死刑ニ当ル時ハ附従ヲ無期ノ徒刑ト  
爲シ主犯無期ノ徒刑ニ当ル時ハ附従ヲ有期  
ノ徒刑ト爲セトモ主犯ノ有期ノ徒刑ニ当ル  
時ハ其情状ヲ知ルト知ラサルトニ関セス同  
罪ニテ有期ノ徒刑ト爲スハ不適當ニハアラ  
スヤ

教師ノ説ニハ其情状ヲ知ルト知ラサルトニ  
仍テ其差別ヲ立テ主犯ト附従トノ輕重ヲ分  
ツヘシト爲スナリ

全ク其贓物タルコトヲ知ラサレハ固ヨリ無  
罪ナレ氏其罪ヲ犯シタル情状ヲ知ルト知ラ  
サルトニ於テハ差別ヲ立ツヘキナリ  
例ハ其強盜タルコトヲ知リテ其贓物ヲ隠

藏シタル時ハ其主犯ト同罪ニ爲シ若シ之レ  
ヲ知ラサル時ハ主犯ヨリ輕クスル等穿踰ノ  
盜ハ又其順序ヲ以テ之ヲ輕重スル如ク各其  
差別ヲ立ツル方然ルヘシ

然ラサレハ爰ニニツノ不適當ノコトアリ  
已ニ説キタル如ク主犯ノ有期ノ刑ニ当ル時  
ハ其情状ヲ知ルト知ラサルトニ関セス同罪  
ト爲シ又主犯ノ死刑ニ当ル時ハ其情状ヲ知  
ルト知ラサルトニ関セス死刑ニ処セサルト  
不適當ナルコトアリ

第六十三條ハ全ク其贓物ヲ隱藏シタル而已  
ノ附従ヲ以テ論スル故ニ其主犯ヨリ輕ク爲  
スヘキナレ氏其他犯罪ニ付テ品物等ヲ隱藏

シタル而已ト虽モ主犯ノ死刑ニ当ル時ハ矢  
張同罪ヲ以テ論シ其附從ヲモ死刑ト為スハ  
キカ

第六十條ハ別ニ疑ヲ容サルコトナリ

第六十一條ハ其重罪ナル兇行ヲ知リテ故ラ

ニ云々ト云フニ付別ニ取除ナシ然レ此附從

ハ通常酌量輕減ヲ以テ処スルコトナリ

此條ニ兇行ヲ知リ故ラニ云々ト云故ノ字ハ

最モ注意スヘキナリ

其全ク兇行ナルコトヲ知ラスシテ家屋等ヲ貸

シ与ヘタル時ハ固ヨリ無罪ニテ放免スヘキ

ナリ

第六十四條

此條ニ於テハ重罪輕罪ヲ犯シタル者故意ニ  
出テサル時ハ固ヨリ無罪ナリ假令故意ニ出  
ルトモ無罪ト為シ之レヲ重罪輕罪ノ内ニ算入  
セサルナリ

何トナレハ其罪ヲ犯ス時ニ於テ精神惑乱シ  
タル者ナレハナリ

其精神ノ惑乱ハ犯氣逆上オ種々ノ病症アリ  
故ニ是等ノ者ノ罪ヲ犯シタル時ニ於テ其重

罪輕罪オテ判別スルハ甚々難シト為ス

民法ノ内ニアル精神ノ惑乱ノ為メニ治産ノ

禁ヲ言渡スコトアル之ハ其病ノ慮ヘ難キコト

ヲ知リ其病ノ故ヲ以テ他ニ弊害ヲ生セサル

為メ其治産ノ禁ヲ言渡スモノナリ

司  
法  
省

此刑訟ニテ狂癲ト為スモノハ平常其病ニア  
ルニアラス其罪ヲ犯サントスル時ニ方テ時  
候オニ感シ俄ニ発病シタル狂癲ノフヲ云フ  
ナリ故ニ民訟中ノ瘋癲人ノ如ク常ニ其病ヒ  
アルモノヲ云フニアラス  
刑訟中ニテハ其罪ヲ犯ス時ニ方テ発症シタ  
ルニアラスハ此取除ケノ方訟ニテ処スル  
能ハス  
故ニ其罪ヲ犯ス前ヨリ発症セル者ニ對シテ  
ハ此訟律ノ惠ミヲ与ヘサルナリ  
其発症ノ前後ヲ認メ得可キ為メ刑訟ニ於テ  
ハ必ス一々其証拠ヲ要スルモノナリ  
此時ハ其犯罪ノ取調ヲ為シ而テ檢事ハ平常

其人ハ精神ヲ失ハサル者トシテ原告ス可シ  
之レニ固テ代言人ヨリ慥カニ狂癲シタル所  
ノ証拠ヲ書スヘキナリ  
通常ノ原則ニ於テハ凡ソ人々ル者ハ固ヨリ  
精神アルヘキモノナレハ容易ニ狂癲ヲ為ス  
ヘキモノニアラス故ニ檢事ハ其犯人ヲ精神  
アルモノトシテ訴フルナリ  
仍テ代言人ニ於テハ其犯人ヲ保護スル為メ  
勉メテ瘋癲人ナル慥カナル証拠ヲ出ス可キ  
ナリ  
此第六十四條ニ於テハ  
第一 重罪輕罪ノ景况ニ寄其証拠ヲ確實ナ  
リト認メ難キ場合アリ

司  
法  
官

第二 狂癲ナル故カ又脅迫セラレタル故カ  
何故ニ其罪ヲ犯シタリト定ム可カラサルコ  
トアリ

此脅迫ニニツノ違ヒアリ

即チ現ニ脅迫セララルト暗ニ脅迫セララル  
トノ差別ナリ

現ニ脅迫セララルトハ

例ハ其主犯ノ言ニ従ハサレハ現ニ高岸ヨ  
リ深谷ハ突キ隨サレントスル如キ時ヲ云フ  
ナリ

暗ニ脅迫セララルトハ

例ハ其主犯ノ言ニ従ハサレハ其者ヲ暗殺  
ボニテ早晚殺サント謀ラルトヲ云フナリ

此脅迫ヲ防ク能ハス止ムヲ得ス人ヲ殺サシ  
タルボノ時ハ其犯人ヲ重軽罪ヲ以テ罰スル  
能ハス然ラハ誰ヲ以其犯人ト為ス可キカ

其時ハ其脅迫シタル者ヲ以第六十條ノ主意  
ニ仍リ罰スルナリ

然ラハ其脅迫シタル者ヲ以主犯ト為スカ附  
従ト為スカ

矢張附従ト為スヘキナリ

此主犯トハ第六十四條ニアル所ノ如ク脅迫  
ニ仍リ止ムヲ得ス其事ヲ為シタルモノナレ  
ハ固ヨリ無罪ト為スナリ

例ハ甲ヨリ乙ヲ脅迫シテ其罪ヲ犯サモメ  
タル時乙ハ固ヨリ脅迫ニ仍テ其罪ヲ犯シタ

ル訊ケニ付其重輕罪ハ之レヲ定メ難ク無罪ト為スヘケレ氏甲ハ附従ト為シテ其本刑ト同罪ニ論シ之ヲ罰スヘキナリ  
正理ヲ以テ已レノ身体ヲ防衛スル為メニ罪ヲ犯シタル片ハ暴行ヲ為ス者ト之レヲ受ル者ノ兩人ノ時ナリ

然レ此条ニ於テハ脅迫シタル者ト脅迫セラレタル者ト其害ヲ受ケタル者トニテ必三人アルヘキナリ故ニ現ニ甲ノ脅迫ヲ受ケ其罪ヲ犯シタル場合トハ違フナリ

此脅迫ニ仍リ止ムヲ得ス其事ヲ為ス云々ニ付テハ議論アル所ナリ

若シ親ヨリ子ヲ脅迫シ夫ヨリ妻ヲ脅迫シタ

ル時ハ他人同志同様之レヲ避ケルコト能ハス其脅迫ニ從テ罪ヲ犯シ然ルヘシト為ス道理アルヤ

通常ハ親ヨリ子又夫ヨリ妻ニ對シ生スル所ノコトハ当然ノ罪ヨリ一層輕ク論スヘキ原則ナリ然レ氏此附従ノ場合ニ於テハ第六十四条ニ仍リ其一体ノ原則ニ仍ラス親子夫妻トモ他人同志同様ニ処ス可キト為セリ何故ナレハ親子夫妻ノ間ニ於テハ其事ヲ避ケ能ハサルノ理ナシ故ニ他人同様ニ処スルナリ

親ヨリ子夫ヨリ妻ニ對シテハ固ヨリ威權アルモノナリ故ニ其従順ヲ尽スヘキハ当然ナ



レ氏其善惡邪正大關係アル場合ニ於テ子又  
妻ヲモテ其從順ノ道ヲ尽サシムヘキニアラ  
ス故ニ父又ハ夫ニテ子又ハ妻ヲ脅迫シテ已  
ムヲ得ス罪ヲ犯サシムルハ自然ノ理ニ悖ル  
故ニ通常ノ他人同様ニ之ヲ論スナリ  
此ボノ外尚重輕罪ト論シ難キコト三ヶ条アリ

第一ハ此第六十六條ニアル所ノ場合ナリ其  
他ノ二ヶ条ハ第三百二十七條ト第三百二十  
八條トニアリ

先ツ第六十六條ニ就テ説クヘシ

此条ハ狂癲人ノ場合ト聊カ似タル所ナリ即  
チ其犯人十六歳以下ニテ其罪タルヲ知ラ

スシテ犯シタルモノナリ

故ニ其十六歳以下ノ幼者ニ於テハ其罪ヲ犯  
シタルトモ之ヲ罪アリト爲サ、ルナリ故ニ  
只其愍然ナルモノハ其害ヲ受ケタル相手方  
ノ者ナリ

然シ其罪ハ免スト虽氏幼者ニ於テ再ヒ之ヲ  
犯サ、ル爲メ其親ニ預ケルカ又懲治監ニ入  
レ置クナリ

此懲治監ニ入置年限ハ滿二十年ヲ限ルナリ  
其懲治監ニ入シ置クハ固ヨリ其罪ニ処スル  
ニアラサル故依令再犯スルトモ之ハ再犯ヲ  
以テ論マサルナリ

然シ依令十六歳以下ノ幼者ト虽モ故意ヲ以

テ其罪ヲ犯シタル時ハ之レヲ罰スヘキナリ  
尤其刑ハ極テ輕キ罪ニ処スルナリ  
此主意ハ第六十七條ニ明文アル故今茲ニ説  
クテ要マサルナリ

此次ハ第三百二十七條ノ場合ヲ説クヘシ  
然レ其前ニ十六歳以下ト云フフニ付聊カ説  
クヘキコトアリ

仏國ニテハ二十一歳マテハ人智ノ未タ具マ  
サルモノト為スナリ

然レ事ノ善惡邪正ヲ弁知スルハ必シモ二十  
一歳マテヲ待タス十六歳ヲ以足レリト為ス  
ナリ日本ニテハ如何

日本ニテハ十五歳以下七十歳以上ノ者ト處

疾ノ者ハ何レモ通常ノ刑ヨリ輕ク罰スルコ  
ト、為セリ

年齢ノ違ヒアルヲ以テ全ク赦免スルニアラ  
ズ然レ幼者ハ取除ケト為スナリ

仏國ニテモ七十以上ノ者ノ罪ヲ輕クスルノ  
原則ハアリ故ニ七十以上ノ者ハ流刑ニ送ラ

サルゴニテ通常ノ者トハサレノ違ヒアルヲ  
見ルヘシ

尤老人故輕キ罪ヲ以処スルトモ全ク罪ナキ  
モノト為スニアラス

日本ニテモ七十歳以上ノ者ハ全ク無罪ト為  
スニアラス故ニ其罪ニ仍リテ相当ナル輕キ  
刑ニ処スルナリ

然ラハ固ヨリ幼者トハ違ヒアルヘシ幼者ハ  
全ク人ノ人タル智ヲ具セサルモノトシテ之  
シテ魚罪ト為スナリ  
**幼者ト雖モ故意ヲ以テ犯シタル時ハ罪アリト**  
**為スヘキニ付其再犯ハ天張再犯ヲ以テ論シ**  
**加等スヘキヤ**  
再犯ナル時ハ其再犯ヲ以加等スヘシ然シ通  
常ハ極輕ク知スヘキ訣ナリ  
第四ノ重罪輕罪トモ定メ難キコトハ威權ア  
ル者ヨリ指揮セラレテ人ヲ殺シタルオノ場  
合ナリ  
前ニ説ク如ノ第三件コトハ即チ瘋癲  
人ト脅迫セラレタル者ト幼者トナリ

此三者ハ重罪輕罪ノ差別ナク其罪ヲ犯シタ  
ル者ヲ以悉ク無罪ト為シ放免スルコトナリ  
第四ノ者即チ第三百二十七條同二十八條ノ  
場合ニ於ケル者ハ總テ其重罪輕罪ヲ定メカ  
タシト云フニアラス只必ス此條中ニ擧ケタ  
ル所ノ件々ニ限ルヘキコトナリ  
此條中ニ人ヲ殺スト云フハ即裁判官ニテ死  
刑ヲ行フ等ノコトナリ  
次ノ創傷毆撃ノ二件ハ  
一揆ノ起リタル時其犯人ヲ捕縛セントシテ  
改撃シ又ハ創傷シタルコトナリ  
**法律ニ循ヒ又ハ相当ノ威權アル者ノ指揮ニ**  
**從フト云フ意味ハ其法律ニ循ヒタル時ト又**

司  
法  
省

法律ニ循ハストモ其威權アル者ノ指揮ニ從  
テ人ヲ殺シタル時ト云フコトナリヤ  
法律ニ循フ云々ハ人ヲ死刑ニ処シタル時ハ  
ノコトナリ即威權アル者ノ指揮ニ仍テ法律  
ニ循ニ之レテ知シタル時ヲ云フナリ  
一揆ノ時ニ於テ其犯人ヲ創傷スル等ハ固ヨ  
リ言フヲ俟タス然レ威權アル長官ノ指揮ト  
虽モ若シ殺ス可カラサル者ヲ死刑ニ処スルカ  
又ハ創傷ス可カラサル者ヲ創傷シタル時ハ  
其之ヲ實地ニ施シタル者ヲ罰スヘキカ又ハ  
其指揮シタル長官ヲ罰スヘキカ  
如斯場ニ於テハ其定メアル法律ト威權アル  
者ノ指揮トヲ參照シテ其正不正ヲ并知マサ

ル可カラサルナリ然レ後其不正ナルコトヲ  
知りタル時ハ其指揮ヲ避ケテ實地ニ施サ、  
ルヘキナリ  
若シ其不正ナルコトヲ知ラスレテ實地ニ施  
ストモ後日ニ至リ發覺シタル時ハ矢張夫丈  
ケノ罪ヲ受クヘキナリ  
故ニ相当ノ長官ヨリ指揮タリト虽モ其法律  
ニ違ニタルコトヲ知りタル時ハ之レヲ實地  
ニ施サスレテ止ムヘキコトナリ  
例ハ八集會ス可カラサル地ニ於テ兵隊ノ集  
會シタル時其指揮官來リ号令ヲ為シタルハ  
其号令ニ從フ可キカ固ヨリ從フヘキニアラ  
サルナリ

故ニ長官ノ指揮ニ仍テ従事スヘシト虽徒ラ  
ニ其指揮ニ従ヒタル者ヲ以無罪ト為スニア  
ラス必ラス其長官ノ指揮ノ正不正ヲ辨知シ  
テ従事スヘキナリ

然ラハ此第三百二十七條ノ意味ハ法律ニ循  
ク且長官ノ正当ナル指揮ニ従ヒト云フコト  
ナリ

然リ

此後會ニハ已レノ身ヲ正当ニ防衛スルコト  
ニ就テ説クヘシ

第十一号

刑法會議筆記

八年十月廿五日

佛國刑法會議

八年十月廿五日

今日モ尚正当ニ已レノ身ヲ防衛スルコトニ  
 付之ヲ説クヘシ  
 正当ニ已レノ身又ハ他人ノ身ヲ防衛スル等  
 ノ時ニ於テ人ヲ殺シ或ハ創傷ヲ為スト云  
 フコトハ自ラ定限アリ故ニ廣ク一般ノ罪ヲ  
 防衛スル為メニ於テハ之ヲ重軽罪ト謂ベカ  
 ラスト云フ部類ハハ入ル、能ハサルナリ  
 例ハハ盜罪ヲ犯ス者ヲ防衛スルモノヲ以テ  
 已レノ身ヲ防衛スルトハ為シ難キナリ  
 法律ニ於テ正当ニ已レノ身ヲ防衛スルトハ  
 他ノ者ヨリ已レラ殺シントスルカ又ハ創傷

セントスルノ時ナリ尚<sup>其</sup>防衛スルハ如何ナル  
場合ト云フ丁ラ説クヘレ若レ人ニ切拭ケラ  
レタル片ハ不得已之ヲ殺スヘキナリ又打拭  
ケラレタル片己レノ性命ニ関スヘキ場合ニ  
於テハ之ヲ殺スヘキナリ  
然レ耳又ハ指ヲ切ル位ノ創傷ヲ受クヘキ場  
合ニ於テハ之ヲ防衛スル為メナリトモ其人  
ヲ殺シテ然ルヘレト為サスヤ何トナレハ其  
人ニ於テ固ヨリ其殺意ナキコトノ判然ナル  
訳ケナレハナリ  
男女ノ區別アル大切ナル取即陰具ヲ切ラシ  
トスル片ニ當リ之ヲ避ケカタキ場合ニ於テ  
ハ其人ヲ殺メ当然ナリト為スナリ

其陰具ヲ切ラントスル時ハ其人ヲ殺シテ当  
然ト為シ然ルニ其耳一ツ指一本ヲ切ラント  
スル時其人ヲ殺スハ不可ナリト為スハ矛盾  
スルニ似タレトモ之ハ固ヨリ避ケ難キ場合  
ナレト云フ可カラサル故ナリ  
故ニ其時ニ當リ全ク避ケ得ヘキ場合アルヤ  
否サルヤヲ知ラサル可カラス然レ片之ヲ知  
ル甚タ難シ  
又其腕ヲ切ラントスルカ又ハ指一本ヲ切ラ  
ントスルカノ區別ハ之ヲ計リ知ル丁甚タ難  
シ  
故ニ計リ知リ能ハサル場合ニ於テ又人ヲ殺  
サ、レハ己レノ身ヲ防衛スル丁能ハサレハ



人ヲ殺シテ無罪トス  
然レモ支那人ニテ髮尾又鬚髯ヲ切ラレタリ  
トモ其人ハ殺スヘカラサルナリ何トナレハ  
後日ニ至レハ自ラ發生シテ再ヒ其害ヲ補ヒ  
得ヘキ故ナリ  
婦人ニテ銀簪ノ疾行ヲ仕掛ケラレタル時ハ  
其人ヲ殺スヘキカ固ヨリ之ヲ殺シテ不可ナ  
ルコトナレ何トナレハ佛國ノ婦人ニテハ仮  
令ヒ其身ヲ殺サルハトモ穢カサレサルヲ以  
面目ト為ス故ナリ  
此事ハ法律中ニハ明又無キヤ假令ナレトモ  
モ第**三百二十八條**ノ部類ニテ之ヲ論スヘキ  
詎ケナレハレ

法律中ニハ別ニ明又ナレトモ此條中ニ身体  
ヲ防衛スルニ去々トアリテ性命ニ関スヘキ去  
々ト云フナレ故ニ其身体ヲ防衛スルノ部  
類ニ於テ之ヲ論スヘキナリ  
此第**三百二十八條**ニ於テハ如何ナル場合ヲ  
以テ正当ニ防衛スルト云フヘキナレハ即チ現  
在他人ノ者ヨリ殺サレントスル實地ニ際シタ  
ル時ヲ云フナリ尚此條ノ如キモノ二件アリ  
即第**三百二十九條**中ノ二項ナリ  
之モ正当ニ己ノ身体ヲ防衛スル為メ人ヲ殺  
シタルモノト同様ニ見做スヘキナリ  
第一項ハ夜間ニ於テ墻垣門戸ヲ攀援シ又ハ  
破壊セントスルヲ防止スル時ナリ之レハ直

チニ其家内ノ者ノ性命ニ関スヘキニアラサ  
レ氏其家内ノ者ノ危害ヲ受クヘキ患アルヲ  
以之ヲ防止スルナリ故ニ其時ハ其人ヲ殺シ  
テ可ナリト為スナリ  
第二項ハ重モニ財産ニ拘ハリタルコトナリ  
尤只其財産ヲ盗取ル而已ニアラス即チ強盜  
杯ノ其盗取ラシカ为メ暴行ヲ仕掛ケタル時  
ノコトナリ故ニ若シ其暴行アルニアラサレ  
ハ之ヲ殺スヘカラサルナリ  
仮令正当ニ己レノ身ヲ防衛スルトモ他人  
ヨリ手疵ヲ負フ位ニテ避ケ得ヘキ時ハ之ヲ  
殺スヘカラサルナリ  
故ニ其人ヲ殺シテ罪ナシト為スハ進退ヲ谷

メ如何ントモ己レノ身ヲ避クルコト能ハサ  
ル時ノ場合ニ限ルナリ  
殺傷ノ害ヲ受ケントシタル時其人ヲ殺サス  
シテ幸ヒニ避ケ得タル上ハ後日ニ至リ其人  
ヲ殺スヘカラサルナリ若シ之ヲ殺スハ則  
復讐ノ理ニ付無罪トハ为サ、ルナリ  
故ニ其実地ニ際シ之レヲ防衛スル为メ其人  
ヲ殺シタルコトナリ仍テ此條中ニ原旨ニハ  
「アクチエールト云フ語アリ即チ現ニト云意  
味ナリ此「アクチエールト云語ニ注意スヘキ  
ナリ  
此條ハ千七百九拾一年ノ刑法各ニ於テハ尚  
一層説明ニ説示シアリ

一体此條ノ意味ハ已レノ身ヲ防衛スル場合ニ於テ現在其人ヲ殺スヨリ外他ニ避ヘキ手段ナキ時ヲ云フナリ

故ニ前同年ノ刑法各ハ已レノ身或ヒハ他人ノ身ヲ正当ニ防衛スル為メ現在他ニ避ヘキ場合ナク不得已其人ヲ殺シタル時ハ云々ト記載アリ

已ニ説キタル無罪ト為ヘキ所ノ五ツノ場合ハ即チ

第一 其罪ヲ犯シタル時ニ於テ精神ノ惑乱シタル者

第二 胁迫セラレテ其罪ヲ犯シタル者

第三 十六歳以下無智ノ者

第四 長官ニ指揮セラレタル者

第五 正当ニ已レノ身ヲ防衛スル為メ其人ヲ殺シタル者

此五件ノ内ハ何レモ無罪ト為スヘシ就中第五ノ場合ニ於テハ仮令親ヲ殺シタルトモ之

ヲ無罪トシテ赦免スルヲ当然ト為スナリ何

トナレハ親ヨリ暴威ヲ以其子ヲ殺サント仕

裁ケタル時ハ其子タリト雖モ已レノ身ヲ防

衛セサル可カラズ其騎虎ノ勢ニ於テハ或ヒ

ハ其親ヲ殺シタルトモ之ヲ罪アリト為サ、  
ル訳ケナリ  
福原曰第三百二十八條中ノ他人ト云フハ如  
何ナル者ヲ云フカ其他人ノ内ニモ自ラ方界

アリヤ

他人ト云ニ分界アララス。然レテノ他人ヲ云フナ

リ。他人ノ害ヲ受ケントスル場合ニ於テハ必ス

其弱キ者ヲ助ケ之ヲ防衛スヘキナリ

又曰福原ノ親ヨリ名村ヲ殺サントスルハ福

原ハ名村ヲ防衛セント為レ夫カ为メ自分ノ

親ヲ殺レタル時ハ如何矢張之ヲ可ナリト為

スカ

一般ノ法律ニ依リテ之ヲ論スレハ名村ヲ助

クルヲ以当然ト為ス然レ道德上ヨリ論スレ

ハ局外中立ニテ自ラ手ヲ束子テ已ムヨリ外

手段ナレトナス

佛國ニテモ之ニ似寄ノ一事アリ

夫婦即チ父母ノ争論ニテ父ヨリ母ヲ殺サシ

トシタル時其子ニテ母ヲ助ケンガ为メ父ヲ

殺レタルコトアリ之ハ矢張一般ノ法律ニ從

ヒ其母ヲ助ケタルヲ以可ナリト為スナリ

父母ノ争論ニテ子ノ母ヲ助クルハ可ナリ然

レ他人ト父トノ間ニテ他人ヲ助クヘキ理ア

ル時ハ手ヲ束子テ之ヲ已ムヘキヲ当然ト為

スナリ

兄弟ノ内一人ヲ父ヨリ殺サントスル時兄或

ヒハ弟ニテ其一人ヲ助ケントレテ防クガ为

メニ却テ其父ヲ殺レタル時ハ如何

矢張親殺レヲ以之ヲ處セス

夫レハ親屬ト親屬同志ニ付等レク重ク欠ス  
ル 誤ニアラズ

故ニ如斯雜事ノ場合ニ当リテハ詰リテ来  
子テ已ムヨリ外子般ナケルヘシ

後會ニハ赦宥ノコトニ付テ論説スヘシ

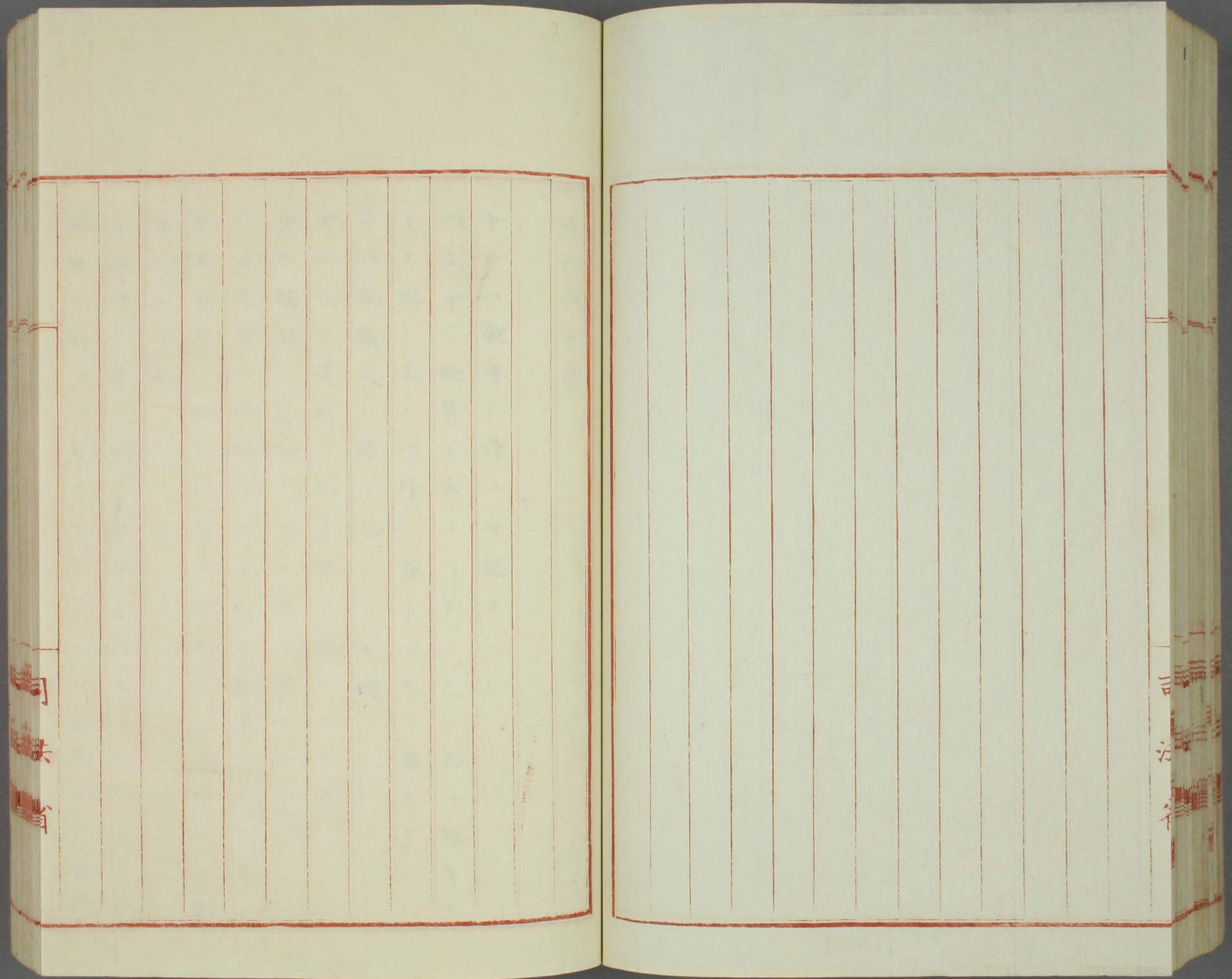
第十二号

佛国刑法會議

八年十月二十七日

刑法會議

刑法會議



同  
集  
新

言  
六  
行

今日ハ赦宥ノ件ニ付説クヘシ  
 刑法中ニ赦宥ト云フコトアリ之ハ已ニ説キタ  
 ルノ処ノ左ノ四件ノ者トハ大ニ異ナリ  
 第一痴癡人ノ罪ヲ犯シタル時  
 第二人ノ威迫ニ仍テ罪ヲ犯シタル者  
 第三精神ノ惑乱ニ仍テ罪ヲ犯シタル者  
 第四長官ノ指揮ニ仍テ人ヲ教傷シタル者  
 第五正当ニ已レノ身ヲ防衛スル为メ人ヲ教  
 傷シタル者  
 此五件ノ者ハ全ク無罪ト为スヘキモノナリ  
 赦宥ハ固ヨリ罪アルモノニシテ交シテ無罪

刑法會議

刑法會議



ト方スヘキモノニアララス然シ其情状ヲ以テ  
論スル時ハ公益ヲ害スルト道徳ヲ損スルコ  
ト少シ故ニ之酌量シテ其罪ヲ赦宥スルモノナ  
リ  
此赦宥スヘキ場合ハ極テ稀ナルモリナリ  
尙詳説スレハ其罪ノ事跡アリトモ之レヲ罰  
セサルモノヲ赦宥ト云フ故ニ全ク無罪ト為  
ス赦宥スル者ト其罪ノ事跡アリトモ之レヲ  
赦宥スル者トノ區別ハ注意スヘキコトナリ  
原註ニテエキスキユースアブリリエーワー  
ルトヲ余知スルハ即チ裁判官ノ審判ニアル  
コトナリ  
裁判官ノ審判ハ其陪審ノ意見ト犯罪人ノ実

況トヲ参照シテ其可否ヲ余知シ之ヲ裁定ス  
ルナリ  
酌量赦宥トノ場合ハ犯行ノ実際ニ於テ大ニ  
ニ差違アリ  
酌量輕減ハ其減等ノ等差少クモ一等ヲ減  
スルカ又ハ二等ヲ減スルカニ立マレリ例ヘ  
ハ死刑ヲ一等減シ無期ノ徒刑ト為ス等ナリ  
酌量赦宥ハ格別ノ減等ナリ例ヘハ死刑ヲ輕  
罪ニ為ス等ナリ  
酌量赦宥ニハ五件ノ區別アリ  
第一十兵衛以下ノ幼者ノ故意ヲ以テ罪ヲ犯シ  
タ時ニ就テ之レヲ減等スルコトナリ  
但シ若シ故意ニアラサルハ固ヨリ無罪ト

司  
法  
省

為スナリ

此十六歳以下ノ幼者ニテ罪ヲ犯シタル時ハ  
重軽罪ニ拘ワラス減等スヘキモノト為スナ  
リ

芽ニヨリ第五逆ハ全ク特別ノモノナリ之ハ  
聞政教場ノ場合ニ於テ特別ニ其故有ノ法テ

ルモノニテ固ヨリ年齢ニ拘ワラス一般ニ施  
行シ得ヘキナリ但シ幼者ニテ此罪ニ當ル時

ハ全ク幼者ノ部ニ入レテ之ヲ論ス  
「エキスキユノス」ニエテニエヤニトシルユニヤ

スタンスアツテニエヤニトトノ三様アリ相  
各似タモノナリ

エキスキユノス」ニエテニエヤニトシルユニヤ  
エキスキユノス」ニエテニエヤニトシルユニヤ

ノ証ハアレバ十六歳以下ノ無意ニ出テタル  
「又ハ法律上正条ナキ等ヲ以テ之ヲ故宥放

免スルヲ云フ  
エキスキユノス」ニエテニエヤニトシルユニヤ

等スルト云フ意味ニテ即チ十六歳以下ノ幼  
者故意ニ出テ罪ヲ犯シタルヲ以テ本刑ヨリ

減等スルコトナリ  
エキスキユノス」ニエテニエヤニトシルユニヤ

ノ正条ニ仍ルヘキモノナキ等ニテ之ヲ用ニ  
ル政其実行スヘキ場合ハ至テ少キコトナリ

シル獨ハ釋タニ輕ス減リテニヤアトトハ一般  
ノ罪ニ普通スヘキモノナリ故ニ其実行スヘ

キ場合ハ至テ多シト為ス  
司  
法  
第

ニ同クハスタニスアツテニヤアニトハ其犯  
罪人ノ次第ニ仍リ倍審ヨリ意見ヲ以テ裁判  
官へ申請シ裁判官ニテ之ヲ判別シテ之裁ス  
ルモノナリ

工キ動ス量ユ故スアテニエヤニトハ法律ノ正  
余ニ引當テ之ヲ陪審ヨリ陳述スルナリ  
其陪審ヨリ申請陳述スル所ノ可否如何ルナ  
リ

酌量裁着ノ五件ノ區別ノ内一件ハ幼者ノ罪  
ヲ犯シタルコトニテ其余四件ハ闘毆殺傷中  
ノ區別ナリ

幼者ノ減当ノコトハ即チ六十七條ニ明文ア  
リ尤此条ノ場合ニ於テハ格別ノ減等ニアラ

ス故ニ他ノ四件ノ場合ニ此スレハガコシク  
嚴酷ニ失スルニ似タリ

十六歳以エノ者ナレハ無期ノ徒刑ニ當ルハ  
キ罪ナリ之ヲ十六歳以下ノ幼者ニテ犯シタ  
ル時ハ十年ヨリ二十年ノ禁錮ト為スナリ之  
ハ長期ヲ用エルモノナリ

又有期ノ徒刑ニ當ルハキ罪ヲ犯シタル時ハ  
失張禁錮ト為スト虽モ之ハ無期ノ徒刑ニ當  
ルヘキモノニ此スレハ大ヒニ短期ヲ用ユル  
ナリ

故ニ其本刑ヨリ比較ヲ立テ、減等シ其期限  
ヲ伸縮スルノ割合ヲ定ムルニ於テハ甚々煩  
雜ヲ生スルコトアリ

刑法

此条中ニ三分一ヨリ少カラス半分ヨリ多カ  
ラストアリ故ニ此比較ノ割合ヲ計算スルニ  
或ヒハ三分一ヲ用ヒ或ハ半分ヲ用ヒ裁判官  
ノ見込ニテ各區々ニ其期限ヲ伸縮スルヲ  
得ヘキ沢ニテ甚タ煩雜ヲ生スヘキナリ  
例ヘハ有期ノ徒刑ハ五年ヨリ二十年迄ノ原  
則ナリ故ニ幼者ニテ其五年ニ当ルヘキ罪ヲ  
犯シタル時ハ即五年ノ割合ヨリ計算シテ其  
三分一ノ年何ケ月ト為シ之二十年ニ当ルヘ  
キ罪ヲ犯シタル時ハ其半分ニテ十年ト為ス  
ヘキ割合ナレモ一体此割合ハ不都合ナリ何  
トナレハ刑期ノ伸縮ヲ裁量スルハ裁判官ノ  
見込ニ任セアルモノナリ故ニ若シ仮令二十

歳以上ノ者トモ五年ノ徒刑ニ処スヘキニ  
ノヲ裁判官ノ見込ニ仍リ二十年ノ徒刑ニ処  
スヘシト為シ其半分ヲ以テ幼者ニ施シ十年  
ト為ス時ハ其減等セラレタル者ハ却テ其本  
刑ノ五年ヨリ格別ノ長期ト為ル誤ナリ  
然シ其犯罪ノ次第ニ仍テ十六歳以上ノ者ヲ  
処スヘキ本刑ノ長期ト短期トノ差別ヲ分ケ  
其差別ノ一部完ニ就テ三分一或ハ半分ト  
ノ伸縮ヲ為スコトト見做スヘキナリ尤此三  
分一ヨリ少カラス半分ヨリ多カラスト而已  
記載セル所ニテハ是亦裁判官ノ見込ニ仍リ  
三分一ヲ用ヒ或ハ半分ヲ用ユル誤ニテ結局  
ニ様ノ伸縮ヲ為シ得ヘキ理ナリ故ニ時ニ等

リ意味ノ煩雑ヲ生スヘキナリ此條ニ於テハ  
三分一ヨリ少カラズ半分ヨリ多カラスト而  
已ニテ他ニ詳明ノ割合ヲ記載セスト雖モ一  
律ノ原意ハ本刑ノ長期ト短期トノ一部宛ニ  
就テ其三分一或ヒハ半分ト為シ差別ヲ必  
コト、見做スヘキナリ

刑期ヲ定ムルハ固ヨリ裁判官ノ権限中ノコ  
トナリ故ニ三分一又ハ半分トノ二ツノ刑期  
ヲ定ムルモ全ク其見込ニ任セヘキナリ故ニ  
例ヘハ此犯罪ハ二十歳以上ノ本刑ト虽モ五  
年ノ刑期ニ當テヘキモノニテラス二十年ノ  
刑期ニ処スルヲ當然ナリト為シ之レニ基キ  
其半分又ハ三分一ノ比較ヲ立テ、其刑期ヲ

言渡スヘキナリ然ル時ハ

此刑期ニ於テ仮令不服ノ者アリ大審院へ上  
告スルトモ大審院ニテ破毀スルコト能ワサ  
ルモノナリ

然シ此刑期ハ明了ニ定メ置テ以テ可ナリト  
為ス故ニ有期ノ徒刑ハ五年ヨリ二十年迄ニ  
付其減等ノ極短期即チ五年ノ三分一ト極長  
期即チ二十年ノ半分トノ割合ヲ以テ二年七  
ヶ月ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラズ判然記  
載ニ置テヘキナリ

然ル時ハ此刑期ヲ伸縮スル割合ニ於テ煩雑  
ヲ生スルノ患ナシ

此刑期ノ割合ヲ定ムルニ年々裁判官ノ見込

ニ仍テ伸縮スル時、大罪ヲ犯シタル者ニ向テ  
テ手刑ノ短期五年ヲ以テ起算シ小罪ヲ犯シタ  
ル者ニ向テ手刑ノ長期二十年ヲ以テ起算シ  
遂ニ其小罪ト為シタルノミ分一ハ其大罪ト  
為シタル半分ヨリ格外重キ刑ニ當ルノ弊ア  
ルヘシ故ニ此十六歳以下ノ幼者ハ必ス五年  
ヲ長期ト為シ其五年間ニ於テ三分一ト為シ  
又ハ半分ト為ス等ノ割合ヲ定ムル方然ルベ  
キニアラスヤ

至当ノ高論ナリ

短期ノ五年ト長期ノ二十年トノ間ニ於テハ  
余ク十五年ノ差違アル故ニ其罪ノ輕キト重  
キトニ仍リ刑期ヲ伸縮スル時ニ於テ或ヒハ

格別ノ差違ヲ生スルノ不都合アルヘキモ計  
リ難シ尤其幼者ニテ十年ノ禁錮ニ當ル罪ヲ  
犯シ之ヲ十六歳以上ノ者ト見做ス時ハ大抵  
二十年ノ徒刑ニ処スヘキモノナリ  
然シ此法律ノ書方ハ畢竟曖昧ニ失セリ故ニ  
日本ニテハ二年ヨリ不少五年ヨリ不少ト定  
ムルトモ然ルトモ然ルヘキナリ  
此末項ニ於テハ民権剝奪及追放ノ刑ニ當ル  
モノハ一年ヨリ不少五年ヨリ不少禁錮ノ刑  
ヲ言渡スヘシトナリ  
此前項ノ有期ノ徒刑等ニ當ルヘキ者ノ極短  
期ヲ一年七ヶ月ト為シ末項ノ民権剝奪等ニ  
當ルヘキ者ノ極短期ヲ一年ト為スナリ

第六十九条は於テ只輕罪而已ヲ犯シタル時  
ハ其本刑ノ半以上ニ至ル可カラズトアリ之  
ハ其半以上ノ刑期而已ニテ其半以下ノ定限  
ナシ是亦不都合ナラスヤ  
此条ト云ヒ矢張其罪ノ次第ニ仍リ本刑ノ長  
短期ニ基キ之ヲ伸縮スル割合ヲ立ツハキヤ  
前条ノ割合方ト同様ナリ  
例ハハ禁錮ノ六日ヨリ五年ト云フハ一般ノ  
刑期ナリ故ニ此条ニテ半以上ト云フハ其刑  
五年ノ半以上ト為ス可カラサルコトヲ示シ  
タルモノナリ  
故ニ其小區分ノ刑ヲ示セ、ル上ハ此極短期  
ハ矢張本刑ノ正条中ノ短期ト同様ニ見做シ

即チ六日ヨリ減ス可カラサルナリ  
其本刑ノ正条中ノ短期ヨリ減ス可カラサル  
所以ハ何トナレハ此第六十九条中ニ於テ半  
以下ノ定限ノ明文ナキ故已ムヲ得サレハナ  
リ故ニ此手續ニ仍ル時ハ  
例ハハ身四百一条ニ於テ極輕キ盜罪ノ刑ハ  
一年ヨリ不<sup>レ</sup>過五年ヨリ多カラサル禁錮トア  
リ然レハ若シ其刑ニ當ルヘキ初者ヲ減等ス  
ル時ノ短期ハ矢張一年ヨリ以下ニ為スコト  
得ス只其長期五年ノ半即ニ年半ト本刑ノ正  
条ノ短期一年ハノ間ニ於テ其伸縮ヲ為スハ  
キ而已ナリ  
故ニ此一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カニス

ト云フ極軽キ盜罪ニ当ルハキモノト民権剝奪及ヒ重放ノ重罪ニ当ルハキモノト此減等ノ短期ハ全ク輕重ノ別ナク同様ノモノト為スヘキ証ナリ

然ラハ五年ノ禁錮ニ当ルハキ者ハ其半ハ即チ二年半ノ減等ヲ受ケ一年ノ禁錮ニ当ルハキ者ハ其短一年ノ期限ニテ其減等ヲ受ケス此期限ノ割合ニ於テ極公ヲ為ス証ナラヌヤ

故ニ自公ノ考ヘニハ總テ十六歳以上ノ者ヲ処スヘキ本刑ノ半公ト為スヘシ然ル時ハ其長期ニ短期ニ悉ク其半公ノ割合ニテ例ヘハ本刑ニテ一年ヨリ五年迄ト為セルモノハ即

六ヶ月ヨリ二年半ト為スヘキ等ナリ

十六歳以下ヲ以テ幼者ト定メタルハ何歟此ル所アルコトナルヤ

固ノ寒暖ニ仍テ差異アル所已故ニ十四歳以下ヲ幼者ト為セル固アル所固ニテ先ツ其寒暖ノ度ニ應シ十六歳ヲ以テ幼者ト為シタルモノナリ

然シ此刑法上ニ於テハ或説ニ十四歳以下ヲ無罪ト為シ十五歳ヨリ二十歳迄ハ發部公カノ減等ヲ為シ二十歳以上ハ全ク本刑ヲ以テスヘシト為スモノアリ

弘明ニ於テハ十六歳以下ノ罪犯ハ故意ハ無意トニ仍テ無罪ト減等トノ區別アリ然レ



若シ十六歳六ヶ月ニテ犯シタル時ハ即チ本  
刑ヲ以テ処スルナリ故ニ此十六歳六ヶ月ノ  
者トニ十歳ノ者トヲ比較スレハ其智慧ノ多  
少ハ固ヨリ同等ニ論スヘキモノニアラズ然  
ラハ或説ノ如ク三等ニ區別ヲ為スニ然ル可  
キナリ

第十三号

佛國刑法會議

八年十月三十日

佛國刑法會議

佛國刑法會議

佛国刑法會議

八年十月三十日

今日モ尚赦宥ノ事ニ就キ説クヘキコトアリ  
前會ニハ十六歳以下ノ幼者ノ故意ヲ以罪ヲ  
犯シタル時赦宥スルコトヲ説アリ  
其故意ト為スノ可否ハ裁判官ヨリ陪審ヘ問  
ヲ為シタル時陪審ヨリ其実况ヲ具状シテ之  
ヲ判定セラルナリ  
此裁判官ヨリ陪審ヘ問ヒテナスノ方法ハ治  
罪法第三百四十条ニ明文アリ  
十六歳以下ノ幼者ニハ重軽罪ノ差別ナク一  
般ニ赦宥ヲ与ヘ可キコト、為セリ  
前會ニ一應説キタル如ク幼者ノ外重軽罪ノ

内ニ於テ赦宥スヘキ四件ノ差別アルモノアリ故ニ尚此四件ニ就テ詳説スヘシ  
第一ノ赦宥ハ鬪殺殺傷三種ノ犯罪中ノモノナリ

此三種ノ犯罪ハ固ヨリ自分ヨリ来ナリ犯シタル場合ニアラス全ク先方ヨリ挑激マラレ騎虎ノ勢ニテ鬪殺殺傷ヲ為シタルモノナリ先方ヨリ挑激セラレ鬪殺殺傷ヲ為シタル者ハ全ク無罪トシテ一概ニ赦宥ス可キモノニアラス故ニ之ヲ赦宥スルト虽モ其実施ノ景状ニ仍リ赦宥ノ刑ノ内ニ於テ軽重ノ差別アルモノナリ  
此能激セラレトハ古頭ヲ以罵詈スル等ノ

コトニアラス現ニ暴行ヲ以テ危害ヲ蒙ラシメトスル時ニ限ルヘキナリ

暴行ノ挑激ヲ受ケ之ヲ鬪殺殺傷シタル時ハ非常ニ赦宥ヲ為スヘキナリ例ハ重罪中ノ重キ刑ニ当ルヘキ者ト虽モ赦宥シテ懲治ノ刑ニ処スル等ナリ又之ヲ死ニ至ラシムルトモ輕罪ニ処スル等ナリ  
酌量輕減ハ其一罪中ニテ一二級ヲ輕減スルモノナリ例ハ重罪ニ当ルヘキモノハ必ス其重罪中ニテ減等スル而已ニテ輕罪ノ内ヘ引キ下ケ減等スル能ワサル等ナリ  
故ニ「エキスキュースアブリュー」ト「シルクムスタニス」ヲテニヤ  
ントトハ全ク其ノ性質ノ異ナルモノナリ

エキス キュー ス トテ ニ ャント 即ケ 酌量 赦宥 ノ 刑  
ハ一般 ノ 罪ヲ 総テ 輕罪ニ 減等 スヘキ モ ノ ナリ  
然レ 其 毆 改 殺 傷 ノ 内ニテ 輕重 ノ 景状ニ 仍 種  
々 區別アリ 此 區別ハ  
第三百二十六條ニ 明文アリ 即チ 挑 激 ノ 暴行  
ヲ 受ケ之ヲ 殺 傷シタル 時 其 本刑ノ 死刑 無期  
ノ 徒刑 流刑ニ 當ルヘキモ ノニ 於テ 赦宥ノ  
刑ハ 一年ヨリ 五年迄ノ 禁錮ノ 刑ト 為ス 此 故  
宥ノ 刑ハ 重罪中ニテ 最重キ 死刑ト 無期ノ 刑  
ニ 當ルヘキ者ニ 限ルナリ  
其他ノ 重罪ニ 當ルヘキモ ノハ 六月ヨリ 二年  
迄ノ 禁錮ノ 刑ニ 處スルナリ  
故ニ 無期ノ 刑ト 有期ノ 刑ト 區別ハ 一年ヨリ

五年迄ト 六月ヨリ 二年迄トノ 期限ノ 長短ヲ  
以其 限及テ 定メタルモ ノナリ  
仮令 暴行ヲ 以テ 挑 激セラレタリトモ 其人ヲ  
殺ス等ノ 如ク 本刑ニテ 全ク 死刑ニモ 當ルヘ  
キ者ヲ 赦宥シテ 禁錮ノ 刑ニ 輕減スルハ 少シ  
ク 寬裕ニ 失スルナリ 故 赦宥ノ 輕減ヲ 定ムル  
ニ 就テハ 得ト 熟議セラル 可キコトナリ  
第二ノ 赦宥ハ 白晝 姦ニ 人ノ 家屋ヘ 入りタル  
者ヲ 殺 傷セシ 場合ナリ  
白晝 ナレハ 固ヨリ 拾 別ノ 危害ヲ 為スヘキニ  
アラサレモ 或ハ 不良ノ 心ヲ 抱キ 意外ノ 変事  
ヲ 生スヘキモ 計リ 難キ 故ヲ 以テ 其人ヲ 殺 傷  
セシ 時 其 殺 傷ノ 罪ヲ 赦宥スルコトナリ 最モ

夜中妄ニ人ノ家屋へ入りタル者ヲ殺傷セシ  
時ハ固ヨリ言ヲ須タス無罪ト為スヘキナリ  
此赦宥ニ付輕減スル次序ハ第二百三十六条  
ト同様ノ手續ナリ  
第三ノ赦宥ハ夫ニテ婦ノ其罪ノ現犯ヲ知登  
レ其其夫其婦ヲ殺傷セレ場合ナリ  
一体夫ノ自家ニ於テ其夫其婦ノ其罪ヲ犯シ  
タルヲ其夫ニテ知登レ之ヲ殺傷セシ時ト虽  
全クノ無罪ト為スヘキニアラス只其殺傷ノ  
罪ヲ赦宥シテ輕減ノ刑ニ処スヘキコト、為  
セリ然レ通常ハ大抵無罪ト為スコト多シ何  
トナレハ其知登シタル夫ノ精神ノ惑乱シタ  
レコト、見做ス故ナリ

其夫其婦ヲ殺傷スルトモ其赦宥ヲ受クヘキ  
モノハ自ラリノトキノ場所ニ仍ルヘキナリ  
第一ハ現ニ其夫其婦ト同席ニアルヲ見出シ  
テ之ヲ殺傷シタル時ニ限ルナリ  
第二ハ夫ノ自家ニテ其其罪ヲ犯シタルヲ見  
出シ之ヲ殺傷シタル時ニ限ルナリ若シ他ノ  
家即茶亭酒樓等ニテ之ヲ見出シ殺傷シタル  
時ハ赦宥スヘキ部類ニ入レテ論セサルナリ  
之ハ畢竟夫ノ權ヲ恣ニセサル為ナリ何ト  
ナレハ一体婦ハ夫ニ對シテ信用ヲ得ヘク夫  
モ亦婦ニ對シテ信實ヲ尽スヘキ誤ニ付固ヨ  
リ其婦ニテ其罪ヲ犯スノ理ナシ然ラハ万一  
之ヲ犯ストモ夫ヨリ豫ノ知リ豫ヲ許リテ他

ノ家へ近行ヒテ之ヲ探索スヘキ筈ニアラス  
故ニ全ク自家ニテ突然見出し夫レカ为メ忿  
満ニ堪ヘス精神惑乱シテ殺傷シタルト見  
倣スヘキナリ

故ニ其殺傷ニ於テハ全ク無罪ト为スヘキニ  
アラス又全ク罪ヲ科ス可キニアラス仍テ之  
ヲ赦宥スヘキモノト为スナリ最モ或ハ無罪  
ト为ス国モアリトモ他國ニテハ決シテ無  
罪トハ为ササルナリ

夫ノ之ノ他家ニ於テ見出し殺傷シタルハ  
赦宥スル能ハス通常ノ殺傷ヲ以テ罰スヘキ  
ヤ  
法律上ニ於テハ之ヲ赦宥スルノ正条ナシ然

シ多クハ陪審ヨリ其赦宥ヲ与ヘルコトヲ申  
請スルナリ

然シ現行ノ支罪ニ於テハ夫家ノ内外ニ拘ワ  
ラス夫ノ精神惑乱ヲ以陪審ヨリ申請シ無罪  
ト为スナリ然シ陪審ヨリ申請スル時ハ其如  
何ナル次第ナル実况ヲ云フニアラス只其夫  
ノ精神惑乱トカ又ハ己レノ身ヲ防衛スル为  
メトカ種々ノ意ヲ含レテ無罪ト为スヘキ道  
理ニ引付テ之ヲ無罪ト为スナリ

法律上ニ於テハ断然無罪トハ定メ難キモノ  
ナルカ

之ヲ無罪ト定ムルニ於テハ自今ハ其故障ノ  
为サ、ルヲ得ス何トナレハ一般ノ罪犯ヲ処

スル為ノ裁判既ヲ設置アル上ハ此其罪ヲモ  
裁判既ニ訴出ヲ其裁断ヲ受クヘキ訳ナリ然  
ルヲ直チニ之ヲ殺傷スルハ夫ニテ自ラ其裁  
断ヲ為スノ理ニ當ル故ナレハナリ就テハ之  
ヲ赦宥スルニ於テモ畢竟陪審アル故ニ大ニ  
ニ輕キニ失スルノ弊アリ  
且他國ノ刑法ト魚モ元未輕キニ失スルコト  
ナリ  
一體夫ニ於テモ全ク過失ナレト云フ可カラ  
ス何トナレハ兼テ其其罪アルコトヲ注目シ  
而シ之ヲ殺傷スルハ殆ト謀殺ノ刑ナレハナ  
リ  
然シ其其罪アル者故ニ通常ノ者ヲ殺傷シタ

ルトハ固ヨリ差別アルヘキ訳ニ付之ヲ赦宥  
スルノ方法ハ尺ク可カラス只其赦宥ノ輕減  
上ニ於テ尚少シク重ク処スヘキコト一考ヘ  
リ  
況ニヤ精神惑亂又ハ己ノ身ヲ防衛スル等ニ  
托シテ之ヲ無罪ト為スハ余リ寛裕ニ失スル  
ナリ  
前論ニ及レテ夫ノ他ノ婦ニ通シタルヲ知在  
ニ本婦ヨリ之ヲ殺傷シタル時ハ法律上ニ於  
テ赦宥スヘキノ明文ナレ故ニ一般ノ法律ニ  
從テ罰スヘキナリ然レ是亦酌量輕減ヲ予ヘ  
ルコトナリ  
一本婦人ノ其罪ヲ犯シタルト夫ノ他ノ婦ニ



通シタルトハ自ラ其国難ノ有無ニ於テ差別  
アリ  
夫ニテ婦ノ其罪ノ害ヲ受クルト婦ニテ夫ノ  
他ニ通シタルノ害アルトヲ以テ之レヲ比較  
スレハ夫ノ其害ヲ受クル方甚困難多シト為  
ス何トナレハ夫ノ一家ノ血脉中ハ他ノ血脉  
ヲ混淆シテ生育セシメサル可カラサレハナ  
リ  
或ルコトアリシスル婦ニテ他ノ男子ニ通シタル  
モノアリ其夫ニ向テ曰夫ハ婦ナクシテハコトモ  
ニトスヲ生出スル能ハスト且婦ハ夫ナシトモ  
之ヲ生出スルコトヲ得ハコト云フ諺アリ  
故ニ婦ニテ夫ノ他ノ婦ニ通シタルヲ知登ニ

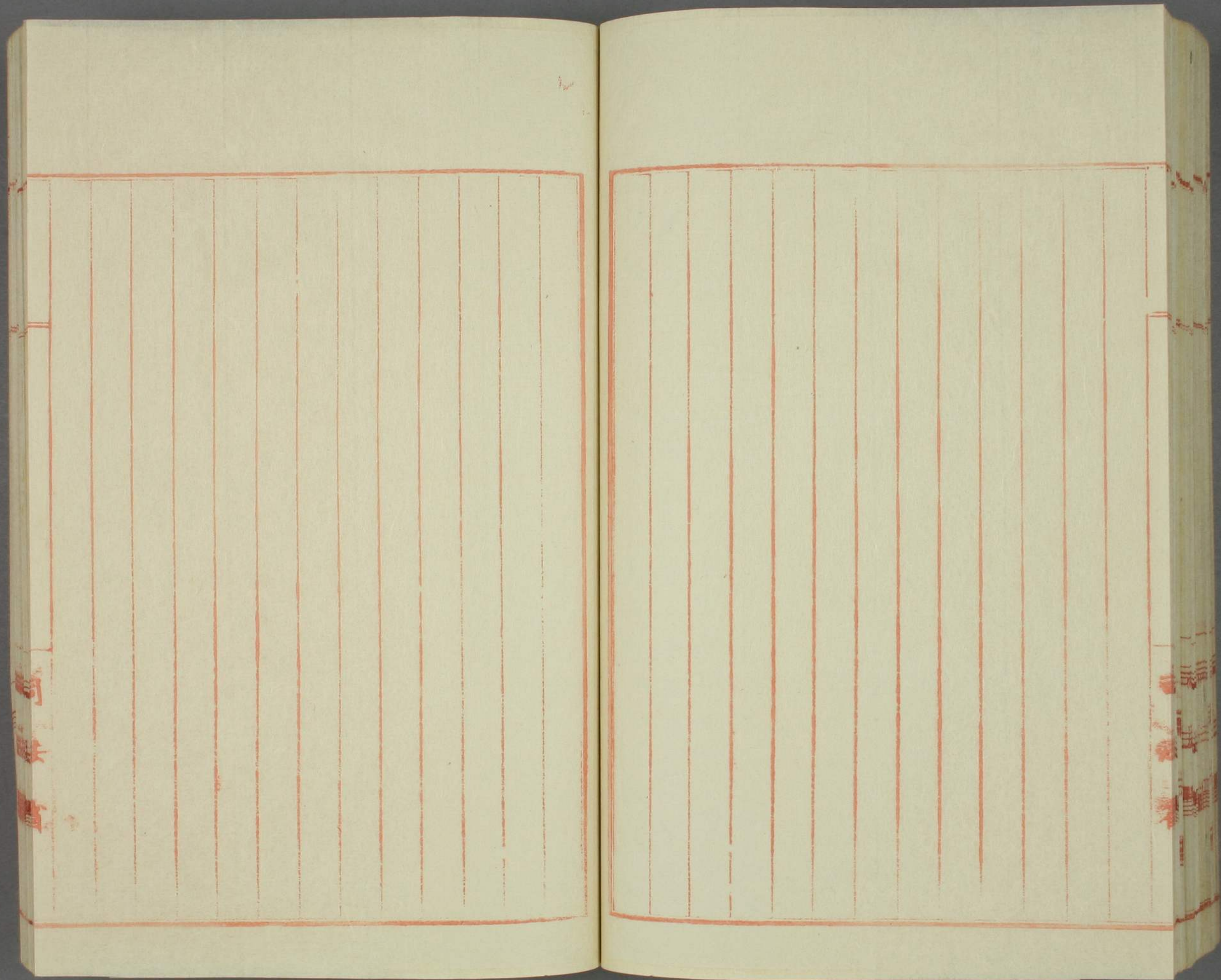
之ヲ殺傷シタル時ハ其婦ヲ赦宥スヘキノ法  
律ナシ然シ大抵陪審ノ意見ヲ以テ酌量軽減  
ヲ与ヘルコトハ為セリ  
第四ノ赦宥ハ男子ノ畢九ヲ切リタル者即チ  
第三百二十五条ニ明文アル死ノ場合ナリ  
通常男子ノ畢九ヲ切リ之ヲ殺シタル時ハ死  
刑ニ処スヘキナリ然シ婦人ニテ猥褻ノ死行  
ヲ受ケ之ヲ切タル時ハ法律ノ正条ニ基キ赦  
宥スヘキト為スナリ  
又夫ヨリ其夫ニ對シ畢九ヲ切リタル時ハ之  
ヲ赦宥セサルナリ何トナレハ其其罪ヲ見出  
シタルヲ怒リ懲ラスニアラハコトテ其怒ヲ殺  
エルニ無法ノ死業ヲ為シタル譯ニ当ル故ナ

り  
艾夫ヲ殺シタル時ハ赦宥トシテ只其罪ヲ  
切タル而已ノ者ヲ赦宥セサルハ如何ナル  
ナルヤ  
其艾罪ヲ犯シタルヲ見出し怒リニ衆ニテ之  
ヲ鬪政スル時ハ其身体中ノ部分ヲ撰ハノ暇  
ニアラサルヘシ然ルニ其罪ヲ切ルハ畢竟其  
罪ヲ見当テ預メ謀リタル理ナル故ナリ  
他ノ国ノ刑法ニ於テハ罪死ヲ切リタル者ヲ  
通常ノ刑ヨリ重キ刑ト為スモノナキニ似タ  
リ然ルニ獨リ仏国ニテ別段ニ此刑法ヲ定メ  
アルハ何故ナルカ  
罪九ヲ切リタル罪ヲ法律中ニ定メタルハ中

古以来ノコトナリ  
仏国ニテ中古ハ復讐セントスル時ニ於テ多  
ク之ヲ切リ又ハ夫ヨリ艾夫ヲ防ク為メ或ハ  
女子ノ情即ヲ防ク為メ等ニ於テ屢ニ切ル  
ノ弊風アリレヨリ以来此罪ヲ犯シタル者ハ  
格別重ク罰スルコト、為セルナリ  
通常ハ罪九ヲ切リ其人ヲ死ニ至ラセザル  
時ハ並期ノ徒刑ニ処スルナリ此一般ノ刑法  
ハ第三百十六條ニ明文アリ  
自分ノ考ニハ他ノ国ノ法律ニ於テ正夫ヨリ  
艾夫ノ罪九ヲ切リタル時ヲモ通常艾罪人ヲ  
殺傷シタルト同様ニ無罪ト為スハ至当ノ理  
ニアラストト為ス何トナレハ其艾罪ヲ怨ヲ報

スルニハ必ス俄頃ノ際ニ付其部分ヲ撰ムヘ  
キニアラス然ラハ其罪九ノ如キ下部ヲ目指  
ズ一層貴キ部分ニ向テ之ヲ創傷スヘキ罪ナ  
リ  
婦人ニ於テ猥褻ノ取行ヲ受ケ之ヲ防カシカ  
為メ相当ノ挙動ヲ以人ヲ殺シタル時ハ無罪  
ト為スヘシト虽モ其取業ニ被ユル為メ罪九  
ヲ切リタルハ無罪ト為サハルナリ  
右四件ノ場合ハ極テ注意スヘキコトナリ  
赦宥スヘキ五件ノ内第一ノ幼者ノ罪ヲ犯シ  
タル場合ニ於テハ重軽罪ノ区別ナシ第二号  
ヨリ第五号テ鬪政殺傷三種ノ場合ニ於テハ  
重軽罪ノ区別ヲ以其赦宥ニ異ナル取アルナ  
リ

違警罪ニ於テハ法律上ニ赦宥スヘキノ正条  
ナシ即チ地方ニテ夜燈ヲ照セス道路ヲ修セ  
サル等ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ夫ニテ赦宥  
セサルナリ  
且シルハクハスクニテニヤト即酌量輕減モ  
之ヲ違警罪ニ施スコトナシ  
此レルクムスタシスアツテニヤトノコトニ就  
テ説キタル上ハ先ツ刑法ノ大體ハ己ニ説キ  
了リタル譯ナリ



第十四号

佛国刑法會議

八年十二月七日

刑法

第四百六十三條

酌量輕減ト之フコトハ佛国ノ古昔ノ刑法ニ  
 ラハ絶ラアラサルコトナリ  
 千七百九十一年制定ノ刑法ニ於テハ輕罪ニ  
 ノミ酌量輕減ヲ用ユルコトヲ許シタルナリ  
 千八百十年制定即現今ノ刑法ノ最初ニ於テ  
 モ同様ナリ  
 重罪ニ酌量輕減ヲ許サレハ所以ハ何トナレ  
 ハ之ヲ許ス時ハ刑法ノ力弱ク懲戒ノ道切ナ  
 ラサルニ似タリ故ニ嚴酷ヲ示スヘキ時ハ飽  
 マテ嚴酷ヲ貫クヘキトノ主意ナレハナリ

刑法  
 會議

然ルニ其之ヲ許サ、ル為ノニ大ニ不都合ヲ  
生スルコトアリ  
何トナレハ重罪ノ愍諒スヘキ情状アルモノ  
ト虽モ全ク無罪トハ為シ難ク只其本刑ヲ以  
テ罰スルハ過重ニ失スヘシト云フヘキノ際  
ニ於テ其輕減ノ方法ナキ時ハ不得已陪審ヨ  
リ其無罪ナルヘキ情状ニ牽キ附ケ強テ無罪  
ト為ス等ノ弊アリ  
例ハ初生ノ子ヲ殺シタル者ハ死刑ニ処ス  
ヘキノ原則ナリ然ルニ一概ニ之ヲ死刑ニ処  
スルハ愍然ナリト為スヘキ場合ニ於テ固ヨ  
リ全クノ罪ナキニアラサレモ一切之ヲ輕減  
スルコトナキ故違ニ無罪ト為スノ類ナリ

佛國ニテハ子ヲ殺ス者往々アリ何故ナレハ  
女子ノ密淫ニテ子ヲ出産シタル時其父母ニ  
秘シ又ハ父母ノ面目ヲ汚サ、ル為メヲ計リ  
之ヲ殺ス等ノコトナリ其場合ニ於テハ本心  
ヨリ出ル者アリ又ハ其本心ニアラス一時ノ  
淺慮ヨリ之ヲ殺ス者アリ故ニ其情状ニ仍リ  
全ク罪ナキニアラサレモ又其本刑ヲ以テ死刑  
ニ処スルハ愍然ナリトスル時ニ方リテ酌量  
輕減ノ方法ナキカ為メ遂ニ陪審ヨリ真ノ精  
神惑亂ト為シ無罪ノ部ニ牽キ附ケ赦宥スル  
コトアリ  
千八百十年ノ最初制定ノ刑法ニハ國事犯ヲ  
以テ死刑ト為セリ故ニ國事犯ニテ愍諒スヘ

キ情状アリト虽モ其輕減ヲ為ス能ハサルヨ  
リ不得已幾部令カノ罪アルモノヲモ一概ニ  
無罪ト為スヘキ主意ニ牽キ附ケ其全部ノ罪  
ヲ赦宥スルコトアリ

千八百二十四年ニ於テ右様多少ノ罪アル者  
ヲ一概ニ無罪ト為スノ弊アリ其不適當ナル  
コトヲ經換シタル上改正ノ法ヲ設ケタリ  
故ニ千八百二十四年ニ於テハ初生ノ子ヲ殺  
シタル者又ハ國事犯ノ者ニ對シテハ酌量輕  
減ヲ与ヘルコトヲ陪審ニ許セシナリ  
其酌量輕減ヲ与ヘシヨリ刑法上ニ於テ大ニ  
ニ其適當ヲ得ルコト、为リタリ  
千八百三十二年ニ於テ刑法ヲ悉皆改正セリ

此改正ノ時ニ於テ重輕罪違警罪トモ一般ニ  
酌量輕減ヲ用ユルコト、为セリ  
一體此刑法ハ千八百十年ノ原本ヲ以基礎ト  
為セ氏千八百三十二年改正以後ノ刑法ヲ以基  
礎ト為シ即千八百三十二年ノ刑法ト稱スル  
位ニ成リタリ  
故ニ千八百三十二年以後ハ刑法ノ正条ニ揭  
ケタル罪而已ナラス之ニ擬律スヘキ重罪ニ  
ハ一般ニ輕減ヲ用ユルコト、为セリ  
尤刑法ノ正条ニ掲ケサルモノニモ輕減ヲ与  
ヘルハ重罪而已ニ限ルヘキコト、为セリ  
輕罪ハ刑法ニ掲ケタル罪名而已ニ於テ裁判  
官ノ意見ニ因リ輕減ヲ用ユルコトヲ得ヘシ



其ノハ只遊豫ノ如キ雜法ノ正条ニ掲ケタル  
罪ニ限り之ヲ用ユルコト、為シ其正条ニ掲ケ  
ナキ罪ハ決シテ之ヲ用ユル能ハサルナリ  
千八百三十二年以前ハ連警罪ニ輕減ノ法ナ  
シ然レ同年以後ハ重輕罪同様連警罪ニモ輕  
減ヲ用ユルコト、為セリ  
此連警罪ノ輕減ノ法ハ第四百八十三条ニ明  
文アリ

刑法ニ掲ケタル所ノ重輕罪連警罪ハ其區別  
ナリ裁判官及ビ陪審ノ意見ヲ以テ輕減ヲ用  
ユルヲ得ヘシ

此刑法定後ニ出ラタル布告ニテ正条アル  
所ノ罪犯ニ限り失張輕減ヲ用ユルヲ得ヘシ  
故ニ若シ其正条アラサル時ハ決シテ之ヲ用  
ユルヲ得サルナリ

酌量輕減ヲ用ユルハ至極ノ良法ナリ  
保シ重輕罪連警罪トモ一般ニ公平ナラサル  
所アリ

重罪ハ刑法ハ正条ナキ罪名ト虽モ輕減ヲ用  
ユルヲ得、キナリ  
輕罪ハ刑法ノ正条ナキ罪名ニ於テハ之ヲ用  
ユルヲ得サルナリ

連警罪ハ刑法ノ正条ノ外其後ノ布告ニ仍リ  
之ヲ用ユルヲ得ル等ナリ  
右様一般公平ナラサル故ニ重罪輕罪連警罪  
トモ總テ刑法ノ正条ニアル所ノ罪ニ於テハ

總ラ輕減ヲ用ヒ其余ハ之ヲ用ユ可カラスト  
為ス方相當ナリ

故ニ此刑法ノ書法宜シカラスト考ヘリ  
重罪ニ於テ輕減ヲ為スヘキ時ハ陪審ヨリ其

之ヲ与ユヘキ立意ヲ申請スヘキ譯ナリ  
尤其輕減スヘキヤ如何ト云フコトウ裁判官

ヨリ陪審ヘ向ヒ撰ケタル時陪審ヨリ其可否  
ヲ決答シテ其申請ヲ為スナリ

然シ其裁判官ヨリ陪審ヘ向ツテ示スハ只其  
輕減スヘキ主意ノ有無ヲ問フニ非ラス輕罪

スヘキ情狀アウハ申述ヘシト示スナリ  
故ニ「エキスエニスアテニユヤシト」其赦宥スヘキ

情狀ノ如何ヲ詳細取紀スヘキナレバ酌量輕  
減ハ其主意ヲ示ス而已ナリ

即チ治罪法第三百四十一條ニ明文アリ  
此条中ニ明文アル如ク酌量輕減スヘキ場合

ニ於テ只其輕減スヘキ主意アラハ申立ツ可  
シト之ヲ示ス而已ナリ

**此條** 訳書中ニ**圖點**ヲ付レタル**文段**ハ陪審ヨ  
リノ**決答**ヲ**文例**而已ニテ別主意アルニハア  
ラカルヘシ

此**圖點**ノ**文段**ハ裁判官ヨリ問撰ケ陪審ヨリ  
ノ決答ノ**文例**而已ノコトナリ故ニ此**文例**ノ

如ク決答ノ書ヲ作り裁判官ヘ差出スヘキ  
ト、為スナリ

此条中ニ過半以上ト云フハ宜シカラス多数

ト云フ意味ナリ

裁判官ヨリ輕減スヘキ情状ノ有無ヲ陪審一  
問掛ケタル時其決答中ニ於テ陪審一同々意  
ト云フカ又ハ何人マテハ同意ト云フノ差別  
アル時ハ裁判官ニテ其裁斷ニ惑ヲ生スルノ  
患アリ何トナレハ同意ノ者十人ナレハ一段  
ヲ輕減シ十二人ナレハ二段ヲ輕減スヘキ等  
自ラ人數ノ多少ヲ以テ差別ヲ立テヘキ理ニ  
當リ裁判官ニテ其裁斷ニ惑ヲ生スヘキナリ  
故ニ其人數ノ多少ニ拘リラズ只其多數ト記  
スヘキコトヲ説キタル訳アリ

已ト為スハ如何ナル訳ケナレハ爰ニ三ツノ  
主意スヘキナリ

第一有罪カ無罪カト問掛ケルハ畢竟其陪審  
ノ目的ニカク添ヘル為メナリ然レ酌量輕減  
スヘキ次第ヲ詳細ニ推問セサル所以ハ如何  
トナレハ裁判官ヨリ之ヲ質問スル時ハ陪審  
ヨリ必ス其決答ヲ為スヘキ理ニテ仮令輕減  
ス可カラサル者ヘモ之ヲ用エルノ患アリ故  
ニ只一應ノ知ラセニテ其輕減ヲ言立得ヘキ  
ノ目的而已ヲ示シ置ク訳ナリ

然ル時ハ陪審ニテ十分ノ協議ヲ尽シ其可否  
ヲ決答シ得ヘキ為メナリ

且酌量輕減ヲ用ヒ過キル時ハ大ニ人民ノ

公益ヲ害スル故之ヲ陪審ニテ恣ニ言立能ワ  
サル為メナリ

第二犯人ノ為メラ計ルヨリ起リタルコトナ  
リ即チ其問牒ケヲ為シタル時陪審ヨリ其可  
否ヲ決答ス一キ場合ニ於テ若シ否ト云フ時  
ハ其裁判官ニテ其罪當然ノ刑ヲ科セザル可  
カラス

例ハ有期ノ刑ニテ何年ヨリ何年マテト云  
フ刑ニ當ル時ハ其最長期ヲ以罰ス一キコト  
ニ為ル記ケナリ  
故ニ其陪審ヨリ容易ニ其可否ヲ決答セス充  
分ニ其情状ヲ考究ヤシムル為メ只其目的而  
已ラ示ス記ケナリ

其問牒ケノ決答ハ口上ニテ言ハカ又ハ書  
面ニテ差出ス一キカ

裁判官ヨリ書面ニテ問ハ牒ケタル時ハ陪審  
ヨリモ書面ニテ答フハシ其書面ハ陪審長ヨ  
リ讀上ケルコトナリ

裁判官ヨリ其問牒ケ一キヲ定則ト為シタリ  
上ハ重罪ノ処刑毎ニ必ス其問牒ケヲ為サ、  
ル可カラカル乎

其問牒ケハ必ス為ス一キユトナリ  
若シ裁判官ヨリ其問牒ケヲ為サ、ル時ハ全  
ク其定則ニ背ク譯ナリ故ニ仮令其問牒ケヲ  
為サ、ルトモ其陪審ヨリハ必ス輕減ス一キ  
意見ヲ書面ニテ陳述シ之ヲ裁判官ニテ採用

スルコト、為セリ  
故ニ矢明ノ法ニ於テ其陪審ヨリ書面ヲ以テ  
陳述シタル時ハ總テ其効アリト為ス之ハ裁  
判官ヨリ尚掛ケラ為シタルモ同様ニ見做ス  
故ナリ

第四百六十三條

陪審ヨリ酌量輕減ヲ言立ルヲ以テ輕減ヲ為  
スニ二様ノ差別アリ  
一ハ必ス輕減スヘキ事ニハ裁判官ノ見込シ  
以テ輕減スヘキ事之レナリ酌量輕減ヲ陪審  
ヨリ言立ルキハ必ス一等ヲ輕減シ又ハ裁判  
官ノ見込シ以テ二等ヲ輕減スルヲ得ルモ  
ノト為スナリ

其一等ノ輕減ヲ為スヘキ時ハ必ラス勉メテ  
之ヲ許サ、ル可カラサルナレハ二等ノ輕減  
スヘキ時ハ必ラス之ヲ許サ、ルトモ或ハ  
一等又二等モ輕減スルコトナリ  
陪審ヨリ一旦酌量輕減スヘキノ申立ヲ為セ  
レ上ハ裁判官ノ意見ニ仍リ一等ハ勿論二等  
シ輕減為ストモ其輕減ニ付テハ上告ヲ為ス  
能ハス然レ一等ヲモ輕減セサル時ハ上告シ  
テ大審院ノ破棄ヲ受クルヲ得ヘシ尤之ハ重  
罪ノ輕減ニ限ルコトナリ  
酌量輕減ノ法方ニ就テ説ク一シ  
重罪ニテ死刑ニ當ル罪ヲ犯シ輕減スヘキ時  
ハ必ス一等ヲ減シ無期ノ徒刑ト為スナリ

然シ裁判官ノ見込ニ仍リ尚一等ヲ減シ五年  
ヨリ二十年ノ有期ノ徒刑ト為ス  
無期ノ徒刑ニ當ル罪ヲ犯シタル時ハ之ヲ減  
シテ有期ノ徒刑ト為スヘク又或ヒハ之ヲ減  
シテ囚獄ノ刑ト為ス  
此有期ノ徒刑ニ當ル時ハ一等ヲ減シテ徒場  
内ニ於テ駆役スルノ刑ト為シ二等ヲ減スル時  
ハ輕罪ト為ルナリ即之ハ加辱ノ刑ト為ラサ  
ル故ニ禁錮ノ刑ト為スナリ然シ之ハ二年以  
下ニ減スルヲ得サルナリ  
重罪中ノ最終徒場内ニ於テ駆役スル刑ニ當  
ル時ハ重罪中ニテ減等ノ道ナキ故ニ禁錮ノ  
刑ヲ以テ一年ヨリ少ナカラスト為ス一キナリ

國事犯<sup>ツク</sup>ノ罪ニ就テ説ク一シ  
國事犯ノ罪ハ固ヨリ流刑ニ當ルナリ此流刑  
ニ二様アリ單一ノ流刑即流地ニ送りタル俣  
ノモノト又不單一ノ流刑即流地ニ於テ城寨  
中ニ謫居セシムルトノ二様ナリ此國事犯ハ  
一躰死刑ニモ當ルヘキ罪ナリ  
故ニ單一ノ流刑ト不單一ノ流刑トノ區別ヲ  
為セリ  
若シ城寨中ニ謫居スルノ流刑ニ當ル罪ヲ輕  
減スル時ハ一等ヲ減シ單一ノ流刑ト為ス二  
等ヲ減スル時ハ囚獄ノ刑ト為ス  
單一ノ流刑ニ當ル罪ヲ一等減スル時ハ囚獄  
ノ刑ト為ス二等ヲ減スル時ハ追放ノ刑ト為

ス  
若シ本罪囚獄ノ刑ニ當ルモノハ一等ヲ減ス  
レハ追放ト為スヘキナレ氏之ヲ追放ト為サ  
ス一年ヨリ少カラサル禁錮ノ刑ト為スナリ  
法律上ノ正条ニ於テ道理ニ當ラサル所アリ  
何トナレハ單一ノ流刑ノ二等減ハ追放ト為  
シ囚獄ノ一等減ハ禁錮ト為ス之ハ追放ヲ以  
テ重キ等ト為ス故ナリ然レ氏其本人ノ身上  
ニ取リテハ一年ノ禁錮ニ比スレハ追放ノ方  
ヲ以テ自由ヲ得ヘキコトト為スナリ  
假令本罪徒場内駈役ノ刑ニ當ル罪ノ減等ト  
金モ一等減ノ追放一年以上ハ二等減ノ禁錮  
一年ニ比スレハ其難苦ノ状態少シト為スナ

り  
故ニ自分ノ考ヘニハ是等ノ減等ハ裁判官ノ  
見込ニ任セ囚獄ノ刑ニ當ルヘキ者ニ於テ一  
等ヲ減スル時ハ追放又ハ一年以上ノ禁錮ト  
為ス等ニ様ノ方法ニ定メ置其實際ノ適宜ニ  
仍リ斟酌シテ之ヲ用ヒシムル方ヲ可ナリト  
為ス  
若シ徒場内ニ於テ駈役ノ刑囚獄ノ刑云々ノ  
条ニ於テハ此數刑ヨ一般ニ同様ノ減等ヲ為  
ス譯ニ當リ不都合ナリ  
之ハ立法家ニ於テ制定ノ際粗漏ニ失セシナ  
ル一シ  
故ニ此條中ニ於テ囚獄追放等ノ罪ニ當ル者

ハ二等減ノ割合ナレモ民権剝奪而已ハ二等減ニアラス只一等減ニテ拍シテ禁錮ノ一年ト為スコト、為シタリ

故ニ自分ノ考ニハ追放ノ刑ニ當ル者ハ即禁錮ノ一年ト為ス等此條中ニ於テ各刑名ニ寄リ其減等ノ區別ヲ為スヘキ様改正スヘキナリ

此條中ノ減等ニ於テハ一等ハ必ラス輕減スヘク二等以上ノ輕減スヘキ場合ニ至リテハ裁判官ノ見込ヲ以テ其順次ヲ逐ニ輕減スヘキ様改正スヘキナリ

輕罪ノ酌量輕減ハ甚々混雜セリ連警罪モ同様ニ付此詳説ハ後會ニ譲ルヘシ



第十五号

佛國刑法會議

八年二月十日

刑法會議

刑法會議

八年十一月十日

輕罪 = 就テ酌量輕減ノ法ハ此刑法ノ制定以  
未今日迄已 = 三度ノ変更ヲ為セリ  
此酌量輕減ノ法ヲ立テタル初登ハ千八百十  
年ノ丁十リ夫ヨリ千八百六十三年迄初登ノ  
法ヲ以テ継続セリ然ル = 同年中ノ改正 = 於  
テ少シク嚴酷ノ法 = 変更セリ  
其後千八百七十年 = 至リ再ヒ千八百十年ノ  
法 = 復セリ  
故 = 先ツ千八百十年ノ法 = 假テ之テ説キ然  
シテ後千八百十年 = 至リ何故其初登ノ法  
ヨリ重ク変更シタルトノ次第ヲ説クヘシ

之ヲ説ク所以ハ只其沿革ヲ徴スルノミニア  
ラス即チ現今実行スル所ノ法ナル故ナリ  
前會ニモ已ニ説キタル如ク千八百十年ノ刑  
法ニハ輕罪ノミニ酌量輕減ヲ許シタルモノ  
ナリ  
輕罪ノ酌量輕減ハ裁判官ニテ其見込アル時  
裁判書ニ其輕減スヘキ次第ヲ記載シテ之ヲ  
言渡ス訣ナリ  
輕罪ニ於テハ今日現行スル所ノ重罪ノ如ク  
其本刑ヨリ一等又ハ二等ヲ一時ニ輕減スル  
能ハサルナリ  
何故ナレハ輕罪ニテハ禁錮ヨリ罰金ヲ輕  
トナス故ニ若シ其禁錮ヲ以テ罰金ニ輕減シ

其罰金ノ金高ヲ多ク課スル時ハ却テ禁錮ノ  
本刑ヨリ困難ヲ為スモノアルヘキナリ  
故ニ輕罪ノ輕減ヲ為スヘキ順次ハ自ラ重罪  
ノ輕減ノ順次トハ差違アルナリ  
輕罪ノ六日ヨリ五年迄ノ禁錮ノ刑ニ當ル罪  
ヲ輕減スヘシト輕罪裁判所ニ於テ見込ヲ立  
テタル時ハ其短期以下ノ日限ニ追輕減スル  
ヲ得ヘシ  
其短期以下ノ日限ニ輕減スルノミナラス違  
警罪ノ禁錮ノ刑期ニ追輕減スルヲ得ヘシ  
又ハ全ク禁錮ニ処セスシテ罰金ノミニ処ス  
ルニ可ナリ尤之ハ罰金ト禁錮トノ二刑ヲ以  
テ処スヘキ場合ニ限り罰金ノミヲ以テ処ス

ルヲ得ヘシト云フ誤ケナリ

罰金ニテ何十ヲラニクヨリ何百ヲラニク迄

ノ刑ニ当ルヘキ時ハ其極少数ハ勿論連警罪

ノ罰金ニ迄輕減スルヲ得ヘシ

故ニ其連警罪ノ罰金ノ極少数一ヲラニク迄

ニモ輕減スルヲ得ヘキナリ

例ハハ姪罪中ノ竊盜ノ罪ニテ一年ヨリ五年

迄ノ禁錮及ヒ十六ヲラニクヨリ五百ヲラニ

ク迄ノ罰金又ハ民権ヲ行フノ禁ヲ受ケタル

者即チ第四百一条ニ明文アル所ノ罪ニ當リ

輕減スヘキ場合ニ於テ其禁錮一部分ニ就テ

論スレハ

第一 其禁錮ノ刑中極短期以下ノ日限ニ迄

輕減スルヲ得ヘシ

第二 連警罪ノ禁錮ノ刑期ニ迄輕減スルヲ

得ヘシ

第三 其禁錮ノ刑ヲ全ク廢シ罰金ノミト為

シテ之ヲ輕減スルヲ得ヘシ

此禁錮ノ刑中ニ於テハ三段ニ輕減スヘキ差

別アリ又其罰金ノ部分ニ就テ論スレハ

第一 其罰金中極少数以下ニ迄ニ輕減スル

ヲ得ヘシ

第二 連警罪ノ罰金一ヲラニク迄ニ輕減ス

ルヲ得ヘシ即チ

此罰金中ニテモ二段ニ輕減スヘキ差別アル

ナリ

且其罪ニ付民権ヲ行フエトヲ禁スルトキハ  
全ク之ヲ廢シテ附加セサルトモ可ナリト為  
ス  
一 体此輕減ノ法ハ道理上ニ於テ少シク不適  
當ナリ何トナレハ仮令刑法ノ苛酷ニ失セサ  
ルヲ要スルモ輕罪ト称スヘキ罪ノ内ニテ禁  
錮其極短期以下違警罪ノ刑期ニ輕減シ又  
罰金モ同様違警罪ノ極少数一ラニクニ  
輕減スルハ其輕罪タル場合ニ於テ名實共催  
セラ之ヲ失フ理ニ當リ甚不適當ナリ  
尤是迄ノ現行ニテハ裁判官ニ於テ如此不適  
當ニ輕減ヲ為セシララストモ此法律上  
ニ就テ之ヲ論スル時ハ前ニ説キタル順序ニ

テ裁斷シ得ヘキ試ケニ見ユルナリ  
然シ其罪ヲ犯シタル時精神惑乱シタル等ナ  
レハ固ヨリ無論ニ赦宥スヘシトモ其罪アル  
者ヲ輕減スル為ニ其禁錮ヲ全ク廢スル等ノ  
如キハ甚不適當ナリ故ニ此輕減ノ分界ニ於  
テハ必シク重ク定メ置クヘキナリ  
千八百十年ノ酌量輕減ノ法ヲ縮言スレハ禁  
錮ハ其極短期ト為シ罰金ハ其極少数ト為シ  
民権ヲ行フヲハ禁セスシテ可ナリト云フノ  
主意ナリ  
禁錮ハ廢シテ罰金ノミト為スハ禁錮ト罰金  
トノ二刑ヲ以テ処スヘキ時ニ限ルナリ  
禁錮ノミニニ処スヘキ時ハ違警罪ノ禁錮ノ一

目ト為スニ可ナリ然シ其禁錮ヲ廢ニテ罰金ニ處スルヲハ為ス可カラサルナリ  
是ヨリ千八百六十三年ニ至リ次ニク重ク為シタル場合ヲ説クヘシ  
曰年ノ酌量輕減ノ法ハ即チ輕罪中ニテ最モ輕キ罪ヲ處スル刑ヲ以テ輕減ノ分界ト為スナリ  
若シ其輕罪一年以下ノ禁錮ノ刑ニ當ル時ハ其極短期六日以下ニ輕減スルヲ得ス  
罰金モ同様十五フランノハ全ク重警罪ノ罰金ニ付其以上即チ十六フランノハ少數ニ輕減スルヲ得ス  
故ニ同年ノ改正ニ於テハ一年ヨリ多カラサ

ル禁錮又ハ五百フランニクヨリ多カラサル罰金ノ刑ニ當ル時ハ其禁錮ハ六日以下ニ輕減スルヲ得ス罰金ハ十六フラン以下ニ輕減スルヲサルナリ  
其再犯ニ於テ一年以上又ハ五百フラン以上ニ當ルハキ者ト魚之ヲ輕減スヘキ時ハ夫張六日以上ノ禁錮十六フラン以上ノ罰金ニ追輕減シ得ヘキナリ  
千八百七十年第三世ヲボレヲニ亡ヒタル後輟和政事ノ国体ニ革命アリシ時ノ改正ニテ此刑法ノ嚴酷ニ失スルト云フヲ論シ又再ニ千八百十年ノ刑法ニ復シタリ故ニ  
仏国ニテ今日ノ現行ハ即チ千八百十年ノ刑

法ニ因テ酌量軽減ヲ与ヘルト虽一体軽罪ノ  
罪アル者ヲ以テ重警罪ニ追軽減スルハ其名  
實ニ於テ不適当ナリ故ニ矢張千八百六十三  
年ノ刑法ニ基ツキテ軽減ノ法ヲ立ツル方適  
当ヲ得ヘキナリ  
千八百十年ノ刑法ハ余リ軽減ニ失スルノ弊  
アリ  
故ニ酌量軽減ノ法アリト虽其法ノ跡「ク殆  
ト無罪ノ者ヲ赦宥スルモ同様ナリ  
酌量軽減ヲ為スヘキ者ハ回ヨリ全ク無罪ト  
云フニアラサル故其罪ノ跡大ケハ残シ置ク  
ヘキナリ故ニ軽罪ニ当ルヘキ者ハ其軽罪中  
ニテ軽減スヘキヲ適當ト為スナリ

**酌量軽減ニテ民権属藉ノ権ヲ禁スルハ前後  
兩度ノ改正ノ刑法ニ同様ナルヤ**

民権属藉ノ権ヲ禁スルハ之ヲ以テ本刑ト為  
スヘキモノニアラス附加ノ刑ナレハ必ス其  
本刑ニ準シテ軽減スヘキナリ  
故ニ一日ノ禁錮ノ者ハ五年ノ民権ヲ禁スル  
トハ決シテ之ナキ筈ナリ  
然シ本刑ニ酌量軽減ノ法アル上ハ民権属藉  
ノ権禁スルトモ之ヲ軽減スルトカ又ハ全ク  
之ヲ廢スル等ノ了ハ刑法中ニ明文アルヘキ  
試ケナリ然ルヲ之ヲ記載セサルハ立法家ニ  
テ遺忘セシナルヘシ  
最モ軽罪ニ於テ民権属藉ノ権ヲ禁スルヲ以

テ本刑ハ附加スルト附加セサルトハ畢竟裁  
判官ノ見込ニ仍テ適宜ニ言渡スヘキト付  
拾列共記載ヲ要セサルヘシ  
第四十九條ノ国ノ内外ノ安寧ヲ害スル罪ニ  
於テハ酌量軽減ト虽必ス政府ヨリノ監察ヲ  
附置クヘキト為セリ

第五十條ノ場合ニ於テハ政府ヨリノ監察ハ  
附置クモ附置カサルモ可ナリト為ス

民権属藉ノ権ヲ禁スルハ裁判官ノ見込ニ仍  
ルヘシト虽モ酌量軽減ニ就テ之ヲ附加スヘ  
キノ有無ハ法律中ニ明文アリテ然ルヘキト  
ニアラスヤ

酌量軽減ノ時ニ於テハ民権属藉ノ権ヲ禁ス

ル丁ハ廢スヘキナリ然シ其廢スヘキト及ヒ  
政府ノ監察ヲ附置クノ有無モ法律中ハ明  
ラカニ記載シ置ヘキナリ

是等ノ丁ヲ記載セサルハ全ク法律中ニ漏洩  
シタルモノナリ

違警罪ニ酌量軽減ヲ与ヘル丁ハ千八百三十  
二年ノ刑法改正ニ於テ始テ定メタルモノナ  
リ

第四百八十三條

第一項ハ違警罪ヲ裁判スルノ手續キヲ示シ  
タルモノナリ

第二項ニ於テハ何レノ違警罪ニテモ第四百  
六十三條ニ記シタル方法ニ仍ルヘシトノ丁

司法



ナリ故ニ曰條ニアル所ノ酌量輕減ノ法ハ悉ク違警罪ニ適用シ得ヘキト云訊ナリ然ルニ之ヲ違警罪ニ適用シ得ヘキト為ス時ハ不都合ノ了ヲ生スヘシ何トナレハ此條ノ主意ニ仍レハ違警罪ニ於テト重罪輕罪ノ法ヲ以テ輕減ヲ為スヘキ訊ナレモ固ヨリ違警罪ニ於テハ輕減スヘキ手續キナキ筈ナリ之ハ如何シテ其順序ヲ為スヘキヤ

例ヘハ禁錮ト罰金ト二刑ヲ重スヘキ場合ニ於テハ其一刑ヲ廢スヘキニ付酌量輕減ノ効アリ即チ一日ヨリ六日迄ノ禁錮ト一アランクヨリ五アランク迄ノ罰金ニ當ル時ハ其禁

錮ヲ廢シ罰金ノミト為シ之ニ輕減ヲ与ヘルヲ得ヘシ

然ルニ禁錮ノミノ刑ニ當ル時ハ一日ヨリ五日迄ノ刑期ニ付其一日以下ニ輕減スルヲ得サルナリ

又罰金ノミノ刑ニ當ル時ハ一アランクヨリ五アランク迄ニ付其一アランク以下ニ輕減スルヲ得サルナリ故ニ若シ其本刑ノ全ク一アランクノ罰金ニ當ル時ハ如何シテ其輕減ヲ為スヘキヤ

第四百七十一條中ニ掲クル所ノ違警罪ニ十

五種アリ之ハ何レモ一アランクヨリ五アランク迄ノ罰金ナリ故ニ其一アランクノ本刑

罰金

ニ對シテ酌量輕減スヘキ時ハ如何シテモ其  
一「アラシク」以下ニ輕減スルヲ能ハサルナリ  
故ニ此場合ニ於テハ全ク酌量輕減ノ効ナキ  
罰金トナリ  
何トナレハ仮令酌量輕減ナレトモ魚回ヨリ一  
「アラシク」ノ罰金ヨリ以上ナルモノニアラサ  
レハナリ

第二項ノ或ル地ニテ花火ヲ弄スル禁ヲ犯シ  
タル時ハ必ス罰金ノミニ限ラズ禁錮ニ処ス  
ルヲ得ヘシ即チ第四百七十三條ニ掲クル所  
ノ如ク其景況ニ寄テ禁錮ニ処セラレヘシ  
之ハ固ヨリ便利法ニテ其景況ニ寄言渡スヘ  
キニ付仮令酌量輕減ナレトモ魚之ヲ全ク廢シ

罰金ノミニ処スル然ルヘキナリ

第四百七十四條ノ場合ハ便利法ニアラス

再犯加等ノ罰金ニ付之ハ即チ七十一條中十

五種ノ罪ヲ再犯シタル時ニ限ルナリ

故ニ此場合ニ於テ初メテ酌量輕減ノ効アリ

ト為スヘシ何トナレハ其禁錮ヲ廢シ罰金ノ

レト為スヲ得ヘキ故ナリ

一 体禁錮ト罰金トノ二刑ヲ重ヌヘキ時禁錮

ヲ廢シ罰金ノミト為スハ固ヨリ当然ノ罰金

ナリ

第四百七十五條中ニモ又十五種ノ違警罪

ノ之ハ六「アラシク」ヨリ十「アラシク」迄ノ罰金

ニ付酌量輕減スヘキ時ハ六「アラシク」以下ニ

輕減スルヲ得ヘシ

第四百七十八条ニ記載アル如ク第四百七十

一条ノ十五種ノ違警罪ヲ再犯シタル時ハ一

日ヨリ五日迄ノ禁錮ニ処スヘキナリ

此再犯ニ於テ酌量輕減スヘキ時ハ其禁錮ヲ

廢シ罰金ト為スヲ得ヘシ

第四百七十九条中ニ十二種ノ違警罪アリ之

ハ十一「ヲラニク」ヨリ十五「ヲラニク」迄ノ罰金

ニ処スヘキ若シ其再犯シタル時ハ五日ノ禁

錮ト為スハ即チ第四百八十二条ニ記載アル

如キナリ

若シ之ヲ輕減スヘキ時ハ禁錮ヲ廢シ又ハ十

一「ヲラニク」以下ノ罰金ニ迄輕減スルヲ得ヘ

シ

前ニ説キタル「ヲ」概説スレハ

罰金ノ刑ニ於テハ其極少数一「ヲラニク」ヲ限

リト為ス例ハ五「ヲラニク」ヲ以テ其極少数

ト為ス時ハ其以下一「ヲラニク」迄ニ輕減スル

ヲ得ヘシ

禁錮ト罰金トニツノ刑ヲ童子タル時ハ禁錮

ヲ廢シ罰金ノミニ輕減シ得ルナリ

一「ヲラニク」ノ罰金ニ當ル時ハ仅令其罪アル

モノト極少数ニシテ其上輕減スヘキノ道

ナシ然ラハ之ヲ無罪ト為シテ赦宥スルモ然

ルヘキニハアラサルヤ

其時ハ無罪ノ為スヨリ外ニ輕減スヘキ道ナ

刑法

シ然レニ一体酌量輕減スヘキ者ハ固ヨリ幾  
部分カノ罪アル者ナレハ之ヲ全ク無罪トハ  
カスヘキニアラヌ  
故ニ矢張其連警罪中ニ於テ其幾部分カノ罰  
ヲ与フヘキナリ  
一体何程ノ貧人ナリヒ一アラシクノ罰金ニ  
差支ユヘキ訣ニアラヌ且其罰金ヲ言渡サハ  
ルハ常ニ平氣ニ心得其非ヲ悔ヒスシテ幾  
度モ同シ罪ヲ犯スノ弊ニ流ルヘキナリ  
故ニ一アラシクノ極少数ノ罪金ニ当ルヘキ  
者ハハ裁判官ニテ酌量輕減ヲ言渡サハルナ  
リ若シ之ヲ言渡ス時ハ刑法ノ成立ニ於テ不  
体裁ナル所アリ

今日迄ニ説ク所ハ先ツ刑法中ノ大綱領ナリ  
故ニ此上ハ刑法中ノ一罪毎ノ小条目ニ付之  
ヲ講究スヘシ  
然レ之ヲ講究スヘキ前ニ刑法ノ大綱領大ケ  
ノ草案ヲ立テ大体ノ所ヲ示スヘキヤ  
仏國ノ刑法ニハ重罪ハ重罪ノ總規則ト為シ  
輕罪ハ輕罪ノ總規則ト為シ各其區別ヲ立テ  
、各罪ノ条ノ末ニ其總規則ヲ添附セリ然レ  
ヒ一体其大綱領ノ總規則ハ重罪輕罪ト一括シ  
テ開卷ノ首ニ掲載スル方然ルヘキニアラヌ  
ヤ  
教師ノ説モ其積リナルヘキヤ如何  
自分ノ考ニハ現今ノ刑法ヨリ一層ノ順序ヲ

立テ且不合ノ条件ハ其改正ヲ加ヘ更ニ整  
正ナル刑法ヲ案定シテ之ヲ考案ニ供スヘキ  
積リナリ

尤自今ノ意見ヲ以テ日本ノ刑法ヲ改定スヘ  
シト云フニアラヌ畢竟参考ニ供スル迄ナリ

**教師ノ説ノ如ク草案ヲ立テラレシコトヲ乞フ**

此刑法第二條ニ明文アル所ノ犯サントセシ  
所行ニ就テハ未タ其講義ヲ尽サス故ニ次會

ニハ之ヲ説クヘシ  
重軽罪違警罪トモ其本刑ニ就テノ酌量輕減

ノ法ハ法律中ニ定メアル所ニ基ツキ已ニ説  
キナリ

然シ其罪ニ付テノ沒收物及ビ附加ノ刑ハ其

輕減ノ定メナシ

酌量輕減スヘキ時ニ於テ其罪犯ニ付タル沒

收物ハ如何可為哉

**其沒收スヘキ物ハ總テ酌量輕減ニ拘ハラヌ**

**取上ヘキト考ヘリ**

然リ固ヨリ其犯人ノ罪ハ酌量輕減スルト由

其品物ヲ沒收セサルヤハ矢張其公益ヲ害ス

ルヲ防ク能ハサルナリ

例ハ貨幣ノ贋造又ハ風俗ニ関スル品物等

ヲ沒收セサル時ハ世間ニ流布シテ公益ヲ害

スルコトハ已ニ其犯人ヲ罰セサルモ同様ノ安

ニ成行キ其終難捨置訊ナリ

故ニ之ハ必ス沒收スヘキト為スナリ

違警罪 = 付テノ没収物ハ如何

是亦同様ナルヘシ

然リ仏國ノ刑法ニ於テハ其品物ヲ没収スヘ  
キトノ明文ナシト魚道理上ニ於テ其没  
置ヘキニアラス故ニ現行ハ裁判官ニ於テ必ス  
没収スヘキト為スナリ

充全ナル刑法ト為シテ論スルキハ仮令本刑  
ヲ魚罪ト為スニ没収ノ品物ハ其没置クヘ  
キニアラス必ス取上クヘキトヲ刑法ノ明文  
ニ記載シ置クヘキナリ

後會ニハ已ニ犯サニトセシ所行ニ付テ説ク  
ヘシ

第十六号

刑法會議筆記

八年十一月十二日

司法部

佛國刑法會議

八年十一月十二日

此第二條ハ刑法ノ内ニ於テ最初ニ説クヘキ  
カ最末ニ説クヘキモナリ故ニ開講以末今  
日マテ説キ残シタル訳ケナリ

或ル法律ニ於テハ最初ニ掲ケ置クモノアリ  
又ハ最末ニ掲ケ置クモノアリ固ヨリ法律ハ  
人ヲ教ニル教法ト為スヘキ為ニアラス畢

竟裁判官ノ日用ノ方法トスル為メナレハ之  
ヲ最初ニ掲ケ置クトモ不可ナシ  
然レ最末ニ掲ケ置クヲ以テ最モ可ナリト為

ス  
何トナレハ重軽罪ヲ罰スル一定ノ方法ヲ了



知シタル後ナレハ此審判ノ順序ヲモ會得シ  
易キ訳ケナレハナリ  
第二條ニ掲ケタル原則ニ基キ之ヲウシ更張  
シテ説クヘシ尤法律上ニハ明文ノ定メナキ  
コトナレモ矢張此條ノ主意ト粗似寄ノコト  
ナリ  
重罪輕罪トモ時ニ仍リ全ク其所行ヲ爲シ遂  
ケサル事アリ其爲シ遂ケスルテ自ラ中止ス  
ルカ或ヒハ他ノ妨ケニ仍リ中止スルカノコ  
トアリ  
之ヲ裁決スル場合ニ於テハ必ラス定見アル  
ヘキ筈ナリ  
尤法律上ニハ其明文ナシトモ只其原則ニ

就テ見出スヘキコトナリ  
爰ニ人アリ心中ニテ重罪ヲ犯サント欲シ  
テ未タ其着手ヲ爲サス実行ニ現ワレサル時  
ハ其人ヲ罪スヘキ模様アリト爲スヘキヤ又  
ハナシト爲スヘキヤ  
心中ニ發起シタル而已ニテ其罪ノ痕迹ナキ  
時ハ公益ヲ害セサル而已ナラス道德ヲモ損  
セサルナリ  
然レ心中ニ發起シ堅執スル時ハ公益ニハ害  
セサルモ道德ニ於テハ已ニ損セリト爲ス  
然ルニ心中ニ堅執シ念欲スル時ハ固ヨリ已  
ニ道德ヲ損スルトモ未タ公益ヲ害セサル  
ニ付其罪ノ有無ニ於テハ之ヲ問フヘキ事迹

ナシト為ス  
或人ノ説ニハ其決心而已ニテ内部ニ堅執シ  
テ表面ニ発露セサル時ト虽モ之ヲ罰セサル  
可カラサルトノ説アリ然レ之ヲ罰スルハ不  
都合ナラスヤ  
何トナレハ如何ナル犯罪ト虽モ其表面ノ事  
迹ニ発露セサル時ハ其終捨置然ルヘキ理ナ  
ラスヤ  
假令心中而已ニ堅執セル時ト虽モ其朋友親  
戚等ノ間ニ於テ聊カタリトモ其模様アルコ  
トノ現レタル時ハ夫丈ケノ手續ヲ以テ罰シ  
テ可ナルヘキニ似タレモ未タ犯罪ノ痕迹ナ  
ケレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第一ノ場合ハ心中ニテ一時惡念ヲ萌發シ其想  
像ヲ起スト虽モ夫レマテニ其終遂ニ消滅  
シタルモノニ付固ヨリ其惡心ト認ムヘキ想  
像ノ痕迹ナキモノナリ  
第二ハ心中ニ発起シタル所行ノ企望ヲ念欲ス  
ルト虽モ未タ其企望ニ於テ断然ノ方向ヲ定  
メサル時ノコトナリ  
第三ハ心中ニ発起シ其終強情ニ引續キ遂ニ目  
途ヲ立其所行ヲ為シ遂ケント決心セル時ノ  
コトナリ  
決心シタル場合ト虽モ未タ法律ニ於テ罰セ  
ントスル時ハ其罪ノ問フヘキ事迹アルヤ  
決心シタルコトハ法律ノ原則ニ循ヘハ其罪

同法省

ナシト為スヘシ何トナレハ其所行ヲ為サシ  
ト決心セルマテニテ未タ実行ナシ又公益ヲ  
害スルコトナキ故ヲ以テナリ  
然シ或ル場合ニ於テハ其決心セルマテト雖  
モ其罪ヲ罰スヘキコト、為セリ之ハ重罪ノ  
内ニテ非常ノ事ナリ即チ國ノ安寧ニ関スル  
ノ罪ヲ犯サント發起シ決心シタル時之ヲ罰  
スヘシト為スコトヲ云フ  
第百八十九條ノ第四項ニ就テ論スレハ例ハハ  
甲ノ人ヨリ乙ノ人ヘ向テ其陰謀アルコトヲ  
説キ之ニ同意センコトヲ勸メタル時乙ノ人  
ニ於テ其同意ヲ承諾セズ然ル時ハ其陰謀ハ  
只甲ノ人一人ノ決心セル而已ナリ

然シ未タ其罪ヲ犯サントセシ所行ニ至ラサ  
ル而已ナラス其豫備ヲ為サル場合ナリ尤  
甲ノ人ヨリ乙ノ人ヘ相談シタルコトヨリ発  
覚シタル時未タ公益ヲ害セサレ其已ニ発  
覚セシ上ハ之ヲ罰スヘキコト、為スナリ  
此條第二項ノ場合ニ付之ヲ説ク時ハ即甲ノ  
人ヨリ乙ノ人ヘ相談シ乙ノ人ニテ承諾シタ  
ル時ハ少シク其罪ヲ重ク罰スルナリ  
尤通常ノ罪ニテハ決心マテニテハ之ヲ罰セ  
ザルナリ  
例ハハ甲ノ人ヨリ乙ノ人ヘ他ノ者ヲ殺サン  
トノ相談ヲ為シ乙ノ人ニテ承諾セサル時ハ  
其相談ヲ受ケタル乙ノ人ヲ罰セサル而已ナ

ラス甲ノ人ヲモ罰セサルナリ之ハ未タ公益  
ヲ害セサル故ナリ  
己ニ説ク所ハ

第一心中ニテ想像シタル而已ニテ遂ニ其念  
慮ヲ消滅セシコトナリ故ニ此想像而已ニテ  
ハ一般ノ公益ヲ害スルノ如何ヲ監定スルコ  
ト甚タ難シ其念慮ノ己ニ消滅シタルモノナ  
レハナリ

第二惡事ヲ發起シ之ヲ為シ遂ケント企望セ  
シモノナリ之ハ固ヨリ第一ノ者ニ比スレハ  
己ニ其念慮ヲ堅執セシ場合ニ付道德上ニ於  
テハ己ニ損スルトモ未タ公益ヲ害セサルナ  
リ故ニ其罪ノ尙ヘキ事迹ナシ

第三心中ニ發起シ己ニ其所行ヲ犯サント決  
心セルコトナリ

一体ノ原則ニ循ヒ之ヲ論スレハ罪ナキ者ト  
為ス何トナレハ道德上ハ損スレモ未タ公益  
ヲ害セサル故ニ罪ナシト為スナリ

七或ル場合即チ國ノ内外ノ安寧ニ関スル罪  
ハ此限ニアラス

惡事ヲ為サンコトヲ他ヘ相談シタル場合ハ  
第二ノ部類ト為スカ又ハ第三ノ部類ト為ス  
ヘキヤ

第三ノ部類ト為スヘキナリ

第二ノ場合ニ於テハ未タ他人ヘ相談スルマ  
テニ至ラサル時ナルマ

其惡事ヲ發起シタル一人ニテ決心セシ而已  
ナリ  
事柄ニ掛リ豫備ヲ為ス等ノコトハ第三部類  
ト為スヘキヤ又ハ別ニ第四ノ場合アリト為  
スヤ  
事柄ニ掛リ発覚シタル時ハ第四ノ場合ト為  
シテ論スヘキナリ  
第四ハ即チ其豫備ヲ為シタル場合ナリ  
己ニ説キタル第三ニテノコトハ全ク心中ニ  
発起シタル而已ニテ未タ其事迹ニ発露シタ  
ルコトニアラス  
第四ノ場合ニ於テハ始メテ其事迹ニ発露シ  
タル時ナリ尤只尋常ノ人ニ對シタル罪又ハ

財産ニ對シタル罪ニ於テハ其豫備ヲ為シタ  
ル而已ニテハ其罪ナシト為ス  
此豫備ノ所行ニ於テハ人ニ對シ及ヒ財産ニ  
對シ其害ヲ為シタルノ成迹ナク故ニ之ヲ判  
然ト監定シ難シ  
例ヘハ爰ニ人アリ遊獵ノ鉄炮又ハ銃ヲ買フ  
者アリ其鉄炮ヲ買ヒタルハ或ヒハ人ヲ殺シ  
カ为メナルモ量リ難シ然シ其人ニテ自ラ身  
ヲ保護スル为メカ又ハ全ク遊獵セン为メナ  
ルモ知ル可カラズ  
又措子ヲ買フ者アリ之ハ人ノ家ヘ忍ビ入ル  
ヘキ为メカ又ハ通常ノ使用ニ供スル为メカ  
是又知ル可カラサルナリ反令人ノ家ニ入ル

ヘキ為ノナリトモ之ヲ以テ必ラス惡心アリ  
トハ認メ難シ  
例ヘハ「ホアソナード」ノ自分ニテニ大程ノ措  
子ヲ買ヒタリ之ハ家根ノ掃除ヲ為ス為メナ  
リ然レ外見ニテハ他ノ家ヘ忍ビ入ルヘキ為  
メナリト云フ時ハ實ニ危キ場合ナリ  
又爰ニ人アリ毒藥ヲ買ヒタリ之ハ他ノ人ヲ  
毒殺為スヘキ為メナルヲモ量リ難シ然レ尙  
ヲ殺ス為メナルカモ知ル可カラス右等ノ所  
行ハ惡事ニモ善事ニモ監定スルコトヲ得ルナ  
リ  
故ニ其場合ニ於テ其罪アル時ハ其善キ事ニ  
遣フト至モ却テ惡事ノ疑ヲ来スヘキニ付之

レハ危キ場合ナリ  
然ル時ハ之ヲ罰セサルヨリ外他ニ方法ナシ  
國ノ安寧ニ関スル陰謀ニ於テハ甲ノ人ニテ  
己テニ決心ス而已ニテ罰スヘシ  
乙ノ人ヘ相談シ其承諾ヲ為シタル時ハ乙ノ  
人ヲモ罰ス可キナリ  
其決心而已ニテ罰スヘキコト、為ス時ハ其  
豫備ヲ為シタル者ハ尚更罰スヘキナリ何ト  
ナルハ其決心而已ニ比スレハ豫備ヲ為シタ  
ル者ヲ以テ更ニ一層ノ進歩ヲ為シタル者ト  
為ス故ナレハナリ  
國ノ安寧ニ関スル罪ノ豫備ヲ為シタルコト  
ニ付テハ其罪アルコトハ別ニ其疑ヲ容レサ

ルナリ

何トナレハ其決心後ニ於テ夫々ノ手配ヲ為セル故ナリ

例ハハ兵隊ヲ組ミ大小銃等ノ武器ヲ分配スルカ又ハ地雷火ヲ設クル為メ地ヲ鑿ル等ニ

テ豫備ヲ為シタルコトナリ

然シ其豫備ノ所行ヲ為スト虽モ未タ犯サン

トセシ所行ノ部類ハ入レサルナリ何トナレハ其目的ト為ス所ノ罪ノ部分ハハ少シモ着

手シタル詎ニアラサル故ナリ

若シ其豫備ヲ為シタル而已ニテ其罪ノ部分

ハ着手シ之ヲ犯サス一二年モ打過クル時ハ

固ヨリ國ノ安寧ニ於テ少シモ變動ヲ起サ、

ルナリ

然シ已ニ其豫備ヲ為シタル上ハ其始ノ陰謀

ヲ決心セシ時ニ比スレハ其罪ヲ重ント為マ

ヘキナリ

第五ノ場合ハ已ニ犯サントセシ所行ニ至リ

タルモノナリ

已ニ犯サントセシ所行ニ於テ中止シタル其

中止ハ如何ナル事由ニ仍リテ中止シタルト

云フノ區別ヲ為スヘキナリ即ニ様ノ區別ア

リ

第一 法律ノ嚴ナルコトヲ恐レ平心ヨリ悔

悟シテ中止シタル場合ナリ

第二 已レノ本心ニアラス他人ヨリ妨ケラ

ル、等ニテ其所行ヲ為シ遂クル能ハスニテ  
中止シタル場合ナリ  
第一ノ本心ヨリ其罪ヲ中止シタル場合ニ於  
テハ法律中ニハ如何シテ罰スヘキトノ明文  
ナシ此第二條ニ已レノ意外ノ景況ニ於テ其  
事ヲ中止云々トアリ故ニ先ツ此條ニ就テ説  
クヘシ即チ其意外ノ景況ニ仍リ中止シタル  
者ハ已ニ犯シタル者同様ニ見做スヘシトア  
リ  
故ニ此条ニ擬ル時ハ其両手ノ深淺ニ拘ラス  
總テ同様ニ罰スヘキナリ  
然レ其已ニ犯シ遂ケタル者ト亦タ犯シ遂ケ  
ナル者トハ公益ヲ害スルコトニ於テハ固ヨ

リ大小ノ差違アルナリ  
已ニ犯シ遂ケタル者ハ公益ヲ害スルノ大ナ  
ルコト固ヨリ不須言ナリ然ルニ其已ニ犯サ  
ントセシ者ヲ以テ之ト同様ニ為ハ畢竟其先  
ヘ進歩シ実地ニ貫クヘキ素心ヲ存セルカ為  
メナリ  
独乙ニ於テハ已ニ犯サントセシ所行ヲ以其  
犯シ遂ケタル者ヨリ一等輕ク為セリ  
一体之レハ一等位ハ輕ク為スヘキナリ然レ  
此法律中ニ明文ナシ已レノ本心ヨリ法律ノ  
嚴ナルヲ顧ミ悔悟シテ中止シタル時ハ之ヲ  
放免スヘキカ  
又ハ他ヨリ妨ケラレ、等ニテ中止シタルモノ

司  
法  
省



ト等トシク其罪ヲ犯シ遂ケタル者ト同様ニ  
為スヘキカ  
若シ其罪ヲ全ク衣免スル時ハ寛ニ失スルテ  
リ然シ其罪ヲ犯シ遂ケタルト同様ニ為ス時  
ハ又酷ニ失スルナリ  
其時ハ只犯人ノ事迹ヲ目的ト為シ其罪ノ輕  
重ヲ斟酌シ之ヲ罰スヘキナリ  
例ハ、撃打シテ人ヲ傷スル場合ニ於テ若シ  
連撃スレハ必ズ其人ヲ殺スニ至ルヘシ  
然ルニ其連撃ノ中程ニテ此惡事タルヲ知り  
本心ヨリ之ヲ中止シ其傷付タル人ヲ介保扶  
助スル時ハ其犯人ハ全ク悔悟シタル者ナリ  
尤最初打撃シタル時ハ固ヨリ其人ヲ殺サシ

ト、本心ヨリ出テタルモノナリ  
若シ其傷ヲ付ケタル人ニ於テ意外ノ不能力  
ヲ生シ終ニ癡篤疾ニ至リタル時ナレハ其傷  
ノ多少ニ仍リ其罪ノ輕重ヲ論シ罰スヘキナ  
リ  
之ハ法律中ニ於テ其傷ノ多少ヨリ不能力ヲ  
起シタル輕重ニ因リ罰スルノ原則アリ故ニ  
其原則ニ基キ之ヲ罰スルノ外他ニ方法ナシ  
ト為ス  
已レノ意外ノ景況ニ仍リ中止シタル者ハ之  
ヲ為シ遂ケタル者ト同様ト為ス然ラハ人ヲ  
殺サス只傷ヲ付ケタル場合ニ当リホリスノ  
防衛ニ障ヘラレ之ヲ中止シ其傷ハ一二日ニ

司法官

テ全愈スルトモ矢張其人ヲ殺シタルモ同様  
ニ罰スヘキ理ニ當ルナリ  
本心ヨリ人ニ害ヲ蒙ラシムルトモ其不能力  
ヲ起シタル模様ニ寄罰スヘキナリ然ラハ其  
傷ノ多少ヲ以罪ノ輕重ニ差別アル筈ナリ  
又人ヲ押倒シ傷ヲ與ヘント為ストモ眞ニ其  
傷ヲ付ケケル時ハ放免スヘキナリ之ニ反シ  
違警罪ハ罰スルナリ然レ先ツ其傷ヲ付ケケ  
ル時ハ大抵放免スヘキナリ  
又例ヘハ人ヲ殺サントシテ毒藥ヲ與ヘルト  
モ其毒ヲ消スヘキ相当ノ時間ニ於テ消毒藥  
ヲ用ヒ其毒藥ノ功ヲ為サズ全快セシタル時  
ハ其犯人ヲ罪ナシト為ス

己ニ全快シタル上ハ他ニ之ヲ罰スヘキ名ナ  
シ何トナレハ其害ヲ為サ、ル故ナリ  
此第二條ノ主意ハ立法家ノ誤リナリ  
何トナレハ惡事ヲ為サントシテ其非ヲ改メ  
悔悟スレハ固ヨリ其遲速ニ拘ラハ何時ニテ  
モ直チニ中止スルヲ以道理上ニ適セリト為  
ス然ラハ其罪ノ輕重ニ於テモ矢張其遲速ノ  
度ニ隨テ罰スヘキナリ  
尤此第二條ノ犯サントセシ所行ト其豫備ヲ  
為シタルト判然之ヲ見分ケルト甚タ難シ之  
レ大ニニ混雜ノ場合ナリ能ク注意スヘキコ  
トナリ  
此條中ニ「タンダナ」ト云原語ハ罪ヲ犯サ

司  
法  
省

ントセシ時ノ所行ヲ云フナリ  
盗罪ニ之ヲ譬フルニ楷子ヲ買ヒ又ハ家屋ヲ  
毀ツヘキ器械ヲ買ヒタル時ハ即チ之ヲ盗罪  
ヲ犯サン為メノ豫備ナリト云フヘキカ  
其楷子ヲ人ノ家根ヘ搦ケタル時ハ之ヲ盗罪  
ヲ犯サントセシ所行ト云フヘキカ  
若シ人アリ之ヲ向ヒタル時ハ花ノ美ナルヲ  
見シカ為メ或ヒハ美人ヲ見シカ為メナリト  
云フヘシ  
又其楷子ニ上リ他ノ家ヘ下リタルトモ尚ホ  
タ盗取ニ着手セズ之ハ心ス盗罪ヲ犯サント  
セシ所行ト認ム可カラズ  
又其家ヘ忍ヒ入り勤産ノ入りタル函ヲ明ケ

タリ然ルニ其函ノ内ニハ書類而已ニテ目的  
ト為シタル品物ナシ其時ハ始メテ之ヲ犯サ  
ントセシ所行ト為スヘキヤ  
或ル先生ノ説ニ從ハハ盗罪ノ内ニテ其盗取  
リタル品物ヲ取集メ持去ル斗リノ場合ヲ以  
テ己ニ犯サントセシ所行ト為シ其己ニ持去  
リタル時ヲ以テ全ク盗罪ヲ犯シタルモノト  
為スナリ  
故ニ裁判官ニ於テハ其時ノ景況ニ仍リ判定  
スヘキコトナリ  
若シ無頼ノ徒又ハ無籍者ニテ他ノ人家ヘ忍  
ヒ入り其函ヲ明ケタル時ハ盗罪ト為スヘシ  
然シ其品行ノ好キ者ニテ其所行ヲ為シタル

時ハ其他ノ用アリタルモ計リ難シ故ニ是等  
ノ場合ニ於テハ全ク其人ノ品行ニ仍リ判定  
スヘキナリ  
又隣家ノ者ニテ呼叶ヒタル時廻リ道ヲ為シ  
テ行クニ暇アラス直チニ其隣家へ楮子ヲ掛  
テ乘リ越ヘタリ之レハ強テ盗罪ヲ為ス為メ  
ト云ヒ難シ  
然シ其隣家ノ者ハ固ヨリ懇意ニアラサレハ  
全ク惡心ニテ楮子ヲ掛テ入込タルノ外其主  
意ナシ  
故ニ其時ハ之ヲ盗罪ヲ犯サントセシ所行ト  
為スヘキナリ  
固ヨリ其人ノ身分ニ仍リ犯サントセシ所行

ト為スヘキコトアリ又之ヲ其所行ト為ス可  
カラサルコトアリ  
故ニ其人ノ一事毎ニ就テ其監定ヲ為スヘキ  
ナリ  
國ノ安寧ヲ害スル犯罪ニ於テハ  
第三ノ場合ト為シタル其決心セシ次第ニ仍  
リ段々ニ順次ヲ逐ヒ重ク罰スヘキナリ  
即チ八十七條ヨリ以下同八十八九條中ニ明  
文アリ  
先ツ第八十九条ニ就テ説クヘシ  
第四項ハ甲ノ者ヨリ其陰謀アルコトヲ発言  
シタル而已ニテ乙ノ者ハ其相談ニ同意セサ  
ル者ナリ之レハ一年ヨリ五年ニ至ルノ禁錮

刑法

ト為スナリ

第三項ハ其陰謀ヲ甲ノ者ヨリ乙ノ者ヘ相談  
シ乙ノ者ニテ承諾セシ場合ナリ

之ハ甲乙ノ者トモニ其陰謀ノ罪ト為スナリ  
第四項ノ甲ノ者一方ニテ陰謀ヲ相談シ乙ノ

者ニテ承諾セサル時トハ違ヒ甲乙双方ニ罪  
アリト為スナリ

第二ハ其相談ヲ承諾シタル而已ナラズ已ニ  
之ヲ行ヒタルモノナリ之レハ囚獄ノ刑ヲ以

テ罰スヘキナリ  
第四項ノ原文ニ於テハ陰謀ヲ行フ為メ一ノ

所行ヲ為サズ又豫備ヲモ為サスト云フ意味  
ナリ

然トモ其一旦他人ヘ発言シタルヲ以テ其陰  
謀アルコトヲ知りタル時ハ之ヲ禁錮ノ刑ト  
為スナリ

第八十九條ノ第一項ハ已ニ其陰謀ノ豫備ヲ  
為シタルモノニテ之ハ流刑ト為スナリ之ニ

付其已ニ「ダンダチ」ノアルコトハ第八十  
七條ニ明文アリ

此第八十七條ニ政府ヲ覆シ云々兵器ヲ弄サ  
シメント為ス等ノ事ヲ目的ト為ス場合ニ於

テモ「ダンダチ」ノアルナリ  
此罪ニ於テハ近代以前ハ死刑ト為セリ現今

ハ死刑ヲ廢シタルニ付城寨中ノ流刑ニ処ス  
ルナリ

此法律ノ順序ニ從ヘハ

第一ノ政府ヲ覆サント、所行ヲ發起シ其罪ヲ犯サ、ル前ニ発露シタル時ハ其陰謀ヲ為シ遂ケタル者ト同様ニ処ス、ハ即チ政事ノ罪ノ第一重ト刑ノ城寨中ノ流刑ト為スナリ  
第二ノ場合ニ於テハ未ダ「ダンダチ」ト無之ナレバ已ニ其武器ヲ分配スル等ノ用意ヲ為シタルモノナリ  
即チ政事ノ罪ノ第二ノ重キ刑ノ單一ナル流刑ニ処スルナリ然レ之レハ甚タ酷ニ失セリト考ヘリ  
第三ハ陰謀ヲ他人ニ相談シタル而已ニテ未タ其豫備ヲ為サ、ル場合ナリ之ハ囚獄ノ刑

ノ五年ヨリ二十年ノ内ニテ罰スルナリ

第四ハ陰謀ヲ他人ニ相談シ其他ノ人ノ承諾セサル時ナリ之ハ禁錮ノ刑ノ一年ヨリ五年ヲ以テ罰スルナリ

輕罪ノ「ダンダチ」トニ就テ説クヘシ

輕罪ノ「ダンダチ」トニ法ハ極簡畧ナリ

輕罪ニ於テハ法律ノ正條アルモノニ限り「ダンダチ」ト以テ罰スヘキ訳ケニ付其正條

ナキモノハ之ヲ罰セサルナリ

輕罪ノ「ダンダチ」ト「フ」ヲ罰スルハ重モニ詐偽

ニテ財産ヲ取ルカ又ハ盜罪ニ拘ワリタル事

而已ナリ

其他ノ罪ニ於テハ「ダンダチ」ト「フ」ヲ以テ罰ス

ルコトナシ  
輕罪ニ於テハ「ダンダチ」フノ所行ト現犯ノ  
所行ト判然ノ區別ヲ為シ難シ  
例ハハ乞食ノ所行杯ハ其乞食ニアラサル平  
人ニテ其所行ヲ為サントスル者ハ決シテナ  
キ筈ナリ  
或ハ官名ヲ偽稱スル等ハ其偽稱ヲ以テ他  
ノ惡事ヲ為サス只其偽稱セントノ口氣而已  
ニテハ之ヲ罰セサルナリ  
風俗ニ関スル所行ニ於テモ只其雜談ヲ云フ  
カ又ハ戲ムル而已ニテハ品行上ニ於テ不  
都合ナレモ未タ其寃地ニ拘ワラサルコトヲ  
云フ訳ケナリ

医者ニテ雇ワル、カ又ハ診察ノ為メ呼出サ  
ル、時之ヲ避ケントシテ他ニ辞柄ヲ設ケ其  
行クコトヲ辞シタリトモ其辞柄ヲ言ヒ出タ  
ルマテニテハ之ヲ拒ムコトノ犯サントセシ  
所行トハ為シ難シ  
官吏ニ對シ暴行又ハ罵詈ヲ為シタル罪ニ於  
テハ其「ダンダチ」フハナキコトナリ  
假令之ヲ為ストモ其ウシ斗リノ言舌上而已  
ニ於テハ「ダンダチ」フハ為シ難シ  
故ニ輕罪ニ於テハ「カレダチ」フヲ罰スヘキ  
ハ只其法律上ニ明文アルモノニ限り其他  
罪ハ罰セサルナリ  
違警罪ニ於テハ「ダンダチ」フハコレナキ筈

同法

ナリ  
何トナレハ其罪ノ有無トモ実地ニ当リタル  
コト而已ナレハナリ  
故ニ道理上ニ於テモ決シテ無之筈ナリ  
重罪ノ「タシダナ」ニ於テハ法律上ニ定メ  
アリ所ノ酌量輕減ヲ用ユヘキヤ  
素ヨリ然リ  
一俤「タシダナ」ニテ罰スル時ハ其法ノ苛  
酷ニ失スルノ患アル故ニ陪審ヨリ其景況ノ  
次第ヲ極メテ之ヲ言立ツルナリ  
タシダナ「極」ハ陪審ニ於テ其權ヲ  
有スルモノナルヤ  
矢張裁判官ノ問掛ケノ内ニ於テ其如何ナル

景況ニ仍リ中止シタコトナルヲ陪審ヘ問掛  
ケヘキナリ  
陪審ヘハ法律語ニテハ問掛ケズ必ラス其意  
味ノ明了ニ分リ易キ様ニ問掛ケヘキコト、  
為スナリ  
例ヘハ人ヲ殺スヲ「モルト」ト云フ之レハ法  
律学者ノ語ナリ故ニ其法律語ヲ用ヒス人ニ  
死ヲ興ヘルト云フコトノ意味ヲ詳カニ示ス  
ヘキナリ



